

2012年度（平成24年度）

事業報告書



学校法人 クラーク学園

和泉短期大学

2013.5.25

目 次

I. 法 人

1. 学校法人の概要	1
2. 諸規定の改正及び制定	8
3. 法人人事	9
4. 教職員人事	10
5. 理事会・評議員会	10
6. クラーク学園学内運営協議会	11
7. 主要行事	12
8. その他	12

II. 事業の概要

1. 2012 年度クラーク学園事業報告	14
2. 2012 年度和泉短期大学事業報告	24

III. 委員会活動

1. 児童福祉学科	35
2. 専攻科	89

IV. 教員の研究活動

1. 短期大学	96
---------	----

V. 施設・設備・経費

1. 教員関係経費	110
2. 経常経費	111

VI. 財務の概要

113



クラーク学園のロード・マップ

Make a fresh start ~新たなる出発~

クラーク学園 スクールモットー

— 愛と奉仕 —
love and service

—隣人を自分のように愛しなさい—

マタイによる福音書22章39節

—わたしが与える水を飲む者は決して渴かない。わたしが与える水はその人が内で泉となり、

永遠の命に至る水がわき出る。—ヨハネによる福音書4章14節

ミッションステートメント(要約)

クラーク学園は、キリスト教の精神に基づき、子どもから高齢者に至るすべてのライフステージに対応する福祉と教育を担う「愛を実践する専門家」を養成することを使命とし、教育はすべての人間の個人の尊厳を尊重し、ライフステージに適合する福祉の「ユニバーサルサービス」の達成をめざし、教え合い学び合う「開かれた教育共同体」の形成を遂行していきます。

教育実践の心構え

MISSION

使命を確認し、
責任を自覚する。

PASSION

業務を、熱意と誠実を
もって行動する。

ACTION

更なる進展、向上に
向けて行動する。

教育目標

和泉短期大学は、建学の精神「愛と奉仕」に基づき、二年間の教育を通して、次のような資質を有する人物を育成することを目指としています

- ① キリストの愛の教えを基盤とし、保育・福祉専門職として人権を尊重する人
- ② さまざまな世代の人々とコミュニケーションがとれる人
- ③ 世界の出来事に目を向け、自ら積極的に考え、学び、行動する人

自らの将来の姿として、上記の考えに賛同し、積極的に学びに励もうとする意思のある人々を私たちは歓迎します。

和泉短期大学 アドミッション・ポリシー

【高等学校までの学習・体験において推奨されること：児童福祉学科】

高等学校在学中になされる幅広い学びと豊かな経験は、福祉・保育を学ぶための基盤となります。下記は、とくに高等学校在学中に取り組むことを推奨する事項です。

1. 福祉・保育関係に関する学習及び科目を総合的に学ぶ。
2. 福祉・保育現場等でのボランティアを積極的に経験する。
3. 自己表現とコミュニケーションのスキル（聴く、話す、書く等）を修得する。
(これらは、児童福祉学科への出願・入学の必須条件ではありません。)

【専攻科入学前までの学習・体験において推奨されること：専攻科介護福祉専攻】

専攻科介護福祉専攻においては、保育士養成校での学びを基盤に、主に高齢者や障がい者を対象とする介護を学びます。下記は、とくに専攻科入学前に取り組むことを推奨する事項です。

1. 社会福祉に関する学習及び科目を総合的に学ぶ。
2. 高齢者施設、障がい児・者施設等でのボランティアを積極的に経験する。
3. 対人援助の基礎となる自己表現とコミュニケーションのスキル（傾聴、共感等）を修得する。
(これらは、専攻科への出願・入学の必須条件ではありません。)

クラーク学園和泉短期大学の基本構想

–2012年度–

建学の精神である
キリスト教信仰の
堅持と具体化

経営の健全化

教育と研究の充実

外部評価を
大切にして
改善を図る

大学を取り巻く環境

18才人口の減少 受験生対策	大学進学率		大学の 経営赤字	大学の中退者・進路変更	短大進学者の 減少
	大学	短大			
1990年 201万人	1990年 24.6%	11.7%	2010年度 大学 39.2%	8人に1人 質の低下(経済的理由、学習意欲の喪失、不本意入学、人間関係)	専門学校への 進学者増加 22%
2012年 120万人	2012年 51.0%	5.7%	短大 57.8%		

今年度の目標と課題

1. 私学振興財団による経営評価	5. 災害、緊急時の対応
<ul style="list-style-type: none"> 教育研究活動によるキャッシュフロー 運用資産と外部負債の関係 帰属収支差額(資産売却・処分差額を除く) 判定いざれも「A1」 人件費支出・学生納付金収入、68.5%(67.1%) 中途退学者が多い一対策一 	<ul style="list-style-type: none"> 原則として、帰宅せず、大学にとどまる 防災倉庫—青葉2丁目自治会との災害時の食料、水等の共同利用の締結 「防災倉庫の設置及び共同使用に関する覚書」
2. 就業力育成支援事業の廃止	6. 幼稚園と保育園の一体化「認定こども園」 —こども園への給付—
<ul style="list-style-type: none"> 産業界のニーズに対応した教育改善、充実体制整備事業 	<ul style="list-style-type: none"> 教育実習園の確保 —学生、教員、職員の負担軽減—
3. 短期大学間の連携及び産業界との連携	7. 専攻科の充実—「介護福祉士の育成の対策・介護人材ワーキング・グループ」
<ul style="list-style-type: none"> そのもとでの就業力の向上 大学間連携共同教育推進事業—単位の互換等— 和泉キャリアデザインセンターの今後の在り方 	<ul style="list-style-type: none"> 就職多く、人手不足—少子・高齢社会—やりがいのある仕事 賃金が低い、人手不足、有給休暇が取りにくい、社会的評価が低い等
4. 5号館(旧和泉福祉専門学校)の有効利用 —相模原市の社会事業に提供—	8. 206教室の有効利用のために一部改築
<ul style="list-style-type: none"> 和泉総合グラウンドの有効利用について 加山市長と面談の約束 ソーラーシステム(太陽光発電)の設置 —市の支援— ソーラーパーク(発電電力の販売、電力自給100%) 	<ul style="list-style-type: none"> 会議室、教室、ML教室 大教室の必要性について検討

I. 法人

1. 学校法人の概要

①建学の精神

1952(昭和 27)年、米国財団 CCF (Christian Children's Fund, Inc. : キリスト教児童福祉会) 創立者の J. C. クラーク博士は敗戦直後の日本の困窮児を救済するため G. E. バット博士、V. J. ミルス博士と共に全国の養護施設(現・児童養護施設)の助成を開始した。1956(昭和 31)年、当時福祉施設従事者の資質の向上が社会福祉の重要な課題であったため、キリスト教児童福祉会は、福祉従事者の現任訓練機関バット博士記念養成所を開設した。このことが本学の起源である。CCF の日本事務所として CCWA が設立され、現在は NPO 法人チャイルド・ファンド・ジャパンがその愛の精神を受け継いでいる。

本学はヨハネによる福音書より校名を「和泉」と命名し、「願わくは、このキリストの泉から若者たちの清らかさと愛とが湧き出でんことを」の標語を掲げ、キリスト教信仰に基づく児童福祉を基盤とした「愛と奉仕」[「あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい」マタイによる福音書第 5 章 16 節]を建学の精神またスクールモットー、スクール聖句としている。

②教育の理念

本学は、キリスト教信仰に基づき、子どもから高齢者に至るすべてのライフステージに対応する福祉と教育を担う「愛を実践する専門家」を養成することを使命とし、教育はすべての人間の個人の尊厳を尊重し、ライフステージに適合する福祉の「ユニバーサルサービス」の達成をめざし、教え合い学び合う「開かれた教育共同体」の形成をめざす。

次の標語を教育実践の心構えとする。

1. MISSION : 使命を確認し、責任を自覚する。
2. PASSION : 熱意と誠実をもって行動する。
3. ACTION : 進展・向上に向けて行動する。

③教育目標

本学は、建学の精神「愛と奉仕」に基づき、二年間の教育を通して、次のような資質を有する人物を育成することを目標としている。

1. キリストの愛の教えを基盤とし保育(教育)・福祉専門職として人権を尊重する者。
2. さまざまな世代の人々とコミュニケーションがとれる者。
3. 世界の出来事に目を向け、自ら積極的に考え、学び、行動する者。

④ 沿革

1952年8月（昭和27年）：米国財団クリスチャン・チルドレンズ・ファンド（CCF）創立者のJ.C. クラーク博士が敗戦直後の日本の困窮児を救済するためG. E. バット博士、V. J. ミルス博士と共に社会福祉法人基督教児童福祉会を設立し、全国の養護施設（現・児童養護施設）の助成を開始した。

1956年5月（昭和31年）：当時、福祉施設従事者の資質の向上が社会福祉の重要な課題であったため、基督教児童福祉会は、福祉従事者の現任訓練機関バット博士記念養成所を東京都世田谷区に開設した。これが本学の前身である。

1960年5月（昭和35年）：現任訓練の成果は、施設保母（現・保育士）養成機関を常設してほしいという強い要望となり、わが国はじめての入所型の児童福祉施設保母（現・保育士）養成機関・玉川保母専門学院が開設されることで実を結んだ。

1965年4月（昭和40年）：児童福祉事業の進展に伴い、さらに充実した高度な専門教育機関が求められるようになり、玉川保母専門学院はCCFの多大な援助のもと、学校法人クラーク学園和泉短期大学児童福祉科と発展的に生まれ変わった。

1966年4月（昭和41年）：幼児教育を志す学生のために、児童福祉科に幼稚園教諭養成課程を設置した。

1976年8月（昭和51年）：神奈川県相模原市に校舎を新築して、全学移転した。

1985年4月（昭和60年）：全国に先駆けて老人福祉ワーカーの養成機関・クラーク学園和泉老人福祉専門学校（現・和泉福祉専門学校）を和泉短期大学に近接して開校した。

1988年4月（昭和63年）：和泉老人福祉専門学校（現・和泉福祉専門学校）が介護福祉士養成機関として認定された。

1988年4月（昭和63年）：和泉短期大学児童福祉科に社会福祉士国家試験受験資格を取得するための教育課程を新設した。（2003年度より休止）

1991年4月（平成3年）：児童福祉科で社会福祉主任用資格を取得可能とした。

2000年4月（平成12年）：児童福祉科から児童福祉学科へ名称を変更した。

2001年4月（平成13年）：共学制を導入した。

2004年4月（平成16年）：レクリエーション・インストラクター資格取得の課程認定校として許可された。

2004年11月（平成16年）：学校法人クラーク学園は、創立50周年記念事業として体育館を竣工した。

2006年5月（平成18年）：学校法人クラーク学園は、創立50周年を迎えて記念式典を行った。創立50周年記念事業として「子育てサロン（はっぴい）」を開設した。

2008年3月（平成20年）：（財）短期大学基準協会の「第三者評価」において『適格認定』の評価を受ける。

2008年6月（平成20年）：（株）日本格付研究所による格付審査の結果、『BBB』（安定的）の評価を受ける。（2009・2010年度も同様の評価）

2010年3月（平成22年）：和泉福祉専門学校介護福祉科閉校

2010年4月（平成22年）：和泉短期大学専攻科介護福祉専攻開設

2010年4月（平成22年）：和泉短期大学専攻科介護福祉専攻開設

2013年4月（平成25年）：学校法人クラーク学園の名称変更を行い、学校法人和泉短期大学とした。

⑤設置学校等

理事長 深町正信（ふかまちまさのぶ）

和泉短期大学

所在地：神奈川県相模原市中央区青葉2-2-1

学長：伊藤忠彦（いとうただひこ）

⑥役員及び教職員に関する情報

理事 定数9～11人 任期4年、 監事 定数2人 任期4年

	役 員	氏 名	任 期	寄附行為	選任区分
1	理事長	深町 正信	2012. 6.13～2016. 6.12	寄附行為 6条1項4号	学識経験者
2	理事	伊藤 忠彦	2002. 4. 1～2014. 3.31	〃 6—1—1	学 長
3	〃	土橋 正文	2011. 4. 1～	〃 6—1—2	事務局長
4	〃	宮本 和武	2012. 6.15～2016. 6.14	〃 6—1—3	評議員会
5	〃	松田 勝吾	2012. 6.15～2016. 6.14	〃 〃	〃
6	〃	新美 臣江	2012. 6.15～2016. 6.14	〃 〃	〃
7	〃	岸川 洋治	2012. 6.13～2016. 6.12	〃 6—1—4	学識経験者
8	〃	宮坂 覚	2012. 6.13～2016. 6.12	〃 〃	〃
9	〃	佐藤 公啓	2012. 6.13～2016. 6.12	〃 〃	〃
1	監 事	新田 恭平	2012. 6. 1～2016. 5.31	〃 6条4項	理 事 長
2	〃	小椋 郊一	2012. 6. 1～2016. 5.31	〃 〃	〃

評議員 定数21～23人 任期2年

	氏 名	任 期	寄附行為	選任区分
1	伊藤 忠彦	2002. 4. 1～2014. 3.31	寄附行為 22条1項2号	学 長
2	土橋 正文	2011. 4. 1～	〃 22—1—3	事務局長
3	秋山 信義	2012. 6. 1～2014. 5.31	〃 22—1—5	学識経験者
4	小山田小八郎	〃	〃 〃	〃
5	川井 俊幸	〃	〃 〃	〃
6	菊池 寿香	〃	〃 22—1—4	卒 業 生
7	木村 治男	〃	〃 22—1—5	学識経験者
8	小久保光世	〃	〃 〃	〃
9	佐藤 薫美	〃	〃 22—1—4	卒 業 生
10	佐藤 守男	〃	〃 22—1—1	教 職 員
11	須田 拓	〃	〃 22—1—5	学識経験者
12	武石 宣子	〃	〃 22—1—1	教 職 員
13	長尾 大	〃	〃 22—1—5	学識経験者
14	中村 順子	〃	〃 22—1—4	卒 業 生
15	新美 臣江	〃	〃 22—1—5	学識経験者
16	平塚 豊	〃	〃 22—1—1	教 職 員
17	細谷 政幸	〃	〃 22—1—5	学識経験者
18	松田 勝吾	〃	〃 〃	〃
19	宮本 和武	〃	〃 〃	〃
20	村山 徳淳 深町 和哉	2012. 6. 1～2013. 3. 31(退職) 2013. 4. 1～2014. 5.31	〃 22—1—1	教 職 員
21	山田ひろみ	2012. 6. 1～2014. 5.31	〃 22—1—4	卒 業 生
22	横山英美子	〃	〃 22—1—5	学識経験者

1. 教員組織

部 門	教 職 員	2012年4月	2011年4月	2010年4月
児童福祉学科	特 任 教 授	3 名	3 名	2 名
	教 授	5 名	3 名	4 名
	准 教 授	9 名	10 名	7 名
	専 任 講 師	1 名	1 名	3 名
	助 教	1 名	1 名	2 名
	非常勤助手	0 名	0 名	0 名
	非常勤講師	38 名	39 名	44 名
専 攻 科	専 任 講 師	1 名	1 名	1 名
	助 教	2 名	2 名	2 名
	非常勤講師	2 名	5 名	3 名
部 門	教 職 員	2012年4月	2011年4月	2010年4月
事 務 局	専 任 職 員	14 名	14 名	15 名
	嘱 託 職 員	1 名	1 名	
	契 約 職 員	2 名	2 名	1 名
	ペ ー ト 職 員	9 名	9 名	9 名
	看 護 師	2 名	2 名	2 名
	学生相談員	1 名	1 名	1 名

3. 入学者に関する受入方針及び入学者数

① 入学者受け入れの方針

和泉短期大学では、建学の精神、教育の理念及び教育目標に示される事項に賛同する者を入学者として受け入れる。

【児童福祉学科 志願者に推奨すること】

高等学校での幅広い学びと豊かな経験は、保育（教育）・福祉専門職を学ぶための基盤となる。下記は、とくに高等学校在学中に取り組むことを推奨する事項でもある。

1. 保育（教育）・福祉専門職に関する学習及び科目を総合的に学ぶ。
2. 保育（教育）・福祉現場等でのボランティアを積極的に経験する。
3. 自己表現とコミュニケーションのスキル（聴く、話す、書く等）を修得する。

※これらは、児童福祉学科への出願・入学の条件ではない。

【専攻科介護福祉専攻 志願者に推奨すること】

保育士養成校での学びは、介護福祉の専門的な学びの基盤となる。下記は、とくに保育士養成校在学中に取り組むことを推奨する事項でもある。

1. 社会福祉に関する学習及び科目を総合的に学ぶ。
2. 高齢者施設、障がい児・者施設等でのボランティアを積極的に経験する。
3. 対人援助の基礎となる自己表現とコミュニケーションのスキル（傾聴、共感等）を修得する。

※これらは、専攻科介護福祉専攻への出願・入学の条件ではない

② 「児童福祉学科」入学者数

部 門	学 年	定員	収容定員	2012年4月	2011年4月	2010年4月
短期大学	1年	250名	500名	295名	293名	296名
	2年	250名		280名	278名	243名
	計	500名	500名	575名	571名	539名
	専攻科	20名	20名	21名	26名	27名
合 計				596名	597名	566名

2. 学修の成果に係る評価及び卒業又は終了の認定に当たっての基準

①教育課程編成の方針

【児童福祉学科】

- キリスト教の愛の教えを基盤とし、保育(教育)・福祉専門職として人権を尊重する者を育成するため、本学は「教養教育科目」、「専門教育科目」の学習区分を設定し体系的にカリキュラムを編成する。
- 2年間で所定の単位を修得し、保育(教育)・福祉専門職の知識や技能を身につけることができ、保育士資格・幼稚園教諭二種免許が取得できるようカリキュラムを配置する。
- 各学生の個性を尊重した授業環境のもと、学習成果があがるようにする。また少グループを担当する教員のグループアドバイザーリングにより、学生の学ぶ意欲を支援する。
- キャリア教育を推進し、保育士資格・幼稚園教諭二種免許取得のための学外実習を重視する。また学生がボランティア活動を積極的に経験することを奨励する。

【専攻科介護福祉専攻】

- キリスト教の愛の教えを基盤とし、介護福祉専門職として人権を尊重する者を育成するため、体系的にカリキュラムを編成する。
- 1年間で所定の単位を修得し、介護福祉専門職の知識や技能を身につけることができ、介護福祉士国家試験受験資格が取得できるようカリキュラムを配置する。
- 各学生の個性を尊重した授業環境のもと、学習成果があがるようにする。また少グループを担当する教員のグループアドバイザーリングにより、学生の学ぶ意欲を支援する。
- キャリア教育を推進し、介護福祉士資格のための学外実習を重視する。また学生がボランティア活動を積極的に経験することを奨励する。

②学位授与の方針

- 本学に2ヵ年以上在学し、所定以上の単位を修得した者。
- 単位認定の条件・評価方法による成績評価に基づき単位を付与された者。
- 子どもに対する確固とした価値観である「子どもの権利」を尊重できる者。
- 本学の建学の精神であるキリスト教に基づく「愛と奉仕」の実践者となる人間観を身につけている者。

5. 諸規定の改正及び制定

- (1) 「学校法人クラーク学園寄附行為細則の一部改正
(2012年5月26日、6月2日、10月26日理事会承認・2012年10月26日施行)
- (2) 「学校法人クラーク学園就業規則の一部改正
(2012年6月2日理事会承認・2013年4月1日施行)
- (3) 「学校法人クラーク学園給与規則の一部改正
(2012年6月2日理事会承認・2013年4月1日施行)
- (4) 「学校法人クラーク学園役員の報酬等に関する規程の一部改正
(2012年6月2日理事会承認・2013年4月1日施行)
- (5) 「和泉短期大学危機管理に関する規程の一部改正
(2012年6月2日理事会承認・2013年4月1日施行)
- (6) 「和泉短期大学防火規則の一部改正
(2012年6月2日理事会承認・2013年4月1日施行)
- (7) 「学校法人クラーク学園寄附行為の一部改正
(2012年10月26日理事会承認・2013年4月1日施行)
- (8) 「学校法人クラーク学園職員採用選考及び昇任に関する規程の一部改正
(2012年12月5日理事会承認・2013年4月1日施行)
- (9) 「和泉短期大学入学検定料の減免に関する規程の一部改正
(2012年12月5日理事会承認・2013年4月1日施行)
- (10) 和泉短期大学大学奨学金規程の制定
(2013年3月22日理事会承認・2013年4月1日施行)
- (11) 「和泉短期大学奨学金規程施行規則の制定
(2013年3月22日理事会承認・2013年4月1日施行)
- (12) 和泉短期大学学生表彰規程の制定
(2013年3月22日理事会承認・2013年4月1日施行)
- (15) 和泉短期大学スタッフ・ディベロップメント（SD）規程の制定
(2013年3月22日理事会承認・2013年4月1日施行)
- (16) 学校法人和泉短期大学監事監査規程の制定
(2013年3月22日理事会承認・2013年4月1日施行)
- (17) 学校法人和泉短期大学情報公開規程の制定
(2013年3月22日理事会承認・2013年4月1日施行)
- (18) 和泉短期大学学納金納入規程の一部改正
(2013年3月22日理事会承認・2013年4月1日施行)
- (19) 修学年限を超えて在学する学生の学納金納入規程の一部改正
(2013年3月22日理事会承認・2013年4月1日施行)
- (20) キャンパスハラスメント相談員規程の一部改正
(2013年3月22日理事会承認・2013年4月1日施行)
- (21) 学校法人和泉短期大学賞罰委員会規定の一部改正
(2013年3月22日理事会承認・2013年4月1日施行)
- (22) 学校法人和泉短期大学契約教職員就業規則の一部改正
(2013年3月22日理事会承認・2013年4月1日施行)
- (23) 和泉短期大学図書委員会規則の一部改正
(2012年5月30日教授会承認・2012年5月30日施行)
- (24) 和泉短期大学研究紀要編集投稿規程の一部改正
(2012年7月26日教授会承認・2012年7月26日施行)
- (25) 和泉短期大学教授会規則の一部改正
(2012年9月24日教授会承認・2012年9月24日施行)

6. 法人人事

理事長

(1) 就任 (2012年 6月 13日付)

深 町 正 信

理事

(1) 就任 (2012年 6月 13日付)

岸 川 洋 治、佐 藤 公 啓、宮 坂 覚

就任 (2012年 6月 15日付)

新 美 臣 江、松 田 壮 吾、宮 本 和 武

拠職上 (学校法人クラーク学園寄附行為第6条1項)

伊 藤 忠 彦

拠職上 (学校法人クラーク学園寄附行為第6条2項)

土 橋 正 文

(2) 退任 (2012年 6月 14日付)

布 施 英 雄

監事

(1) 就任 (2012年 6月 1日付)

小 棟 郊 一、新 田 恭 平

評議員

(1) 就任 (2012年 6月 1日付)

秋 山 信 義、小山田 小八郎、川 井 俊 幸、菊 池 寿 香、木 村 治 男、
小久保 光 世、佐 藤 繭 美、佐 藤 守 男、須 田 拓、武 石 宣 子、
長 尾 大、中 村 順 子、新 美 臣 江、平 塚 豊、細 谷 政 幸、
松 田 壮 吾、宮 本 和 武、村 山 徳 淳、山 田 ひろみ、横 山 英美子、
伊 藤 忠 彦、土 橋 正 文

(2) 退任 (2012年 5月 31日付)

小 林 亨、伊 藤 美奈子

退任 (2013年 3月 31日付) 退職のため

村 山 徳 淳

7. 教職員人事

(1) 採用 (2012年4月1日付)

短期大学

- ・戸塚 恵子 準教授
- ・河合 高銳 専任講師

(2) 昇任 (2012年4月1日付)

- ・櫻井 奈津子 教授
- ・鈴木 敏彦 教授
- ・深町 和哉 学術情報ユニットリーダー
- ・山中 仁 広報涉外ユニット主任

(3) 復職<育児休業> (2012年4月1日付)

- ・佐藤 美紀 専攻科助教

(4) 異動 (2012年4月1日付)

- ・村山 徳淳 事務局次長兼学生支援ユニットリーダー
(事務局次長兼広報涉外ユニットリーダー)
- ・吉田 耕也 教育・学習支援ユニットリーダー
(学生支援ユニットリーダー兼施設ユニットリーダー)
- ・平塚 豊 庶務ユニットリーダー兼施設ユニットリーダー
(庶務ユニットリーダー兼学術情報ユニットリーダー)
- ・三好 順平 学生支援ユニット主任兼学術情報ユニット主任
(学生支援ユニット主任)
- ・栗林 直樹 広報涉外ユニット兼施設ユニット
(教育・学習支援ユニットリーダー)

(5) 退職 (2013年3月31日付)

- ・村山 徳淳 事務局次長兼学生支援ユニットリーダー 自己都合
- ・渡邊 瑞穂 助教 自己都合

8. 理事会・評議員会

①2012年度理事会開催日

- ・第1回 2012年5月26日(土) 10時00分～11時25分
於：和泉短期大学
- ・第2回 2012年6月2日(金) 13時00分～14時05分
於：和泉短期大学
- ・第3回 2012年9月5日(水) 持ち廻り
於：和泉短期大学
- ・第4回 2012年10月26日(金) 13時00分～14時00分

於：和泉短期大学

- ・ 第5回 2012年12月5日（水） 持ち回り
於：和泉短期大学
- ・ 第6回 2013年1月10日（水） 持ち回り
於：和泉短期大学
- ・ 第7回 2013年2月1日（水） 持ち回り
於：和泉短期大学
- ・ 第8回 2013年3月22日（金） 12時50分～13時40分
於：小田急ホテルセンチュリー相模大野

②2012年度評議員会開催日

- ・ 第1回 2012年5月26日（土） 12時00分～13時05分
於：和泉短期大学
- ・ 第2回 2012年6月2日（土） 11時00分～12時00分
於：和泉短期大学
- ・ 第3回 2012年10月26日（金） 11時00分～12時30分
於：和泉短期大学
- ・ 第4回 2013年3月22日（金） 11時00分～12時15分
於：小田急ホテルセンチュリー相模大野

9. クラーク学園学内運営協議会

- ・ 第1回 2012年4月11日（水）
- ・ 第3回 2012年4月25日（水）
- ・ 第5回 2012年5月9日（水）
- ・ 第7回 2012年5月23日（水）
- ・ 第9回 2012年6月6日（水）
- ・ 第11回 2012年6月27日（水）
- ・ 第13回 2012年7月11日（水）
- ・ 第15回 2012年7月25日（水）
- ・ 第17回 2012年9月12日（水）
- ・ 第19回 2012年9月26日（水）
- ・ 第21回 2012年10月10日（水）
- ・ 第23回 2012年10月24日（水）
- ・ 第25回 2012年11月14日（水）
- ・ 第27回 2012年12月5日（水）
- ・ 第29回 2012年12月19日（水）
- ・ 第31回 2013年1月16日（水）
- ・ 第33回 2013年1月30日（水）
- ・ 第35回 2013年2月13日（水）
- ・ 第37回 2013年3月6日（水）
- ・ 第2回 2012年4月18日（水）
- ・ 第4回 2012年5月2日（水）
- ・ 第6回 2012年5月16日（水）
- ・ 第8回 2012年5月30日（水）
- ・ 第10回 2012年6月13日（水）
- ・ 第12回 2012年7月4日（水）
- ・ 第14回 2012年7月18日（水）
- ・ 第16回 2012年9月5日（水）
- ・ 第18回 2012年9月19日（水）
- ・ 第20回 2012年10月3日（水）
- ・ 第22回 2012年10月17日（水）
- ・ 第24回 2012年10月31日（水）
- ・ 第26回 2012年11月21日（水）
- ・ 第28回 2012年12月12日（水）
- ・ 第30回 2013年1月9日（水）
- ・ 第32回 2013年1月23日（水）
- ・ 第34回 2013年2月6日（水）
- ・ 第36回 2013年2月20日（水）
- ・ 第38回 2013年3月14日（木）

10. 主要行事

- ・2012年4月6日（金） 教職員健康診断
- ・2012年4月23日（月） 創立記念礼拝、永年勤続表彰
- ・2012年11月5日（月） 召天者記念礼拝
- ・2012年11月26日（月） クリスマスツリー点火祭
- ・2012年12月17日（月） クリスマス礼拝

11. 法人活動

(1) 人事委員会

- ・第1回 2012年7月26日（月） 14時40分～15時40分
岸川理事、佐藤理事、伊藤学長、武石教授、佐藤教授
- ・第2回 2012年11月29日（月） 15時00分～16時00分
岸川理事、佐藤理事、伊藤学長、武石教授、佐藤教授
- ・第3回 2013年2月25日（月） 13時00分～14時00分
岸川理事、佐藤理事、伊藤学長、武石教授、佐藤教授

(2) 資金運用委員会

- ・第1回 2012年4月11日（水） 13時30分～14時00分
深町理事長、布施理事、伊藤学長、土橋事務局長、村山事務局次長
- ・第2回 2012年5月16日（水） 13時30分～14時00分
深町理事長、布施理事、伊藤学長、土橋事務局長、村山事務局次長
- ・第3回 2012年10月3日（月） 13時30分～14時00分
深町理事長、伊藤学長、土橋事務局長、村山事務局次長
- ・第4回 2013年2月13日（水） 10時00分～10時30分
深町理事長、宮坂理事、伊藤学長、土橋事務局長、村山事務局次長

(3) キャンパスハラスメント苦情処理委員会

- ・第1回 2012年5月7日（月） 12時15分～13時00分
宮本理事、平田准教授、村山事務局次長、武父母会長
- ・第2回 2012年5月12日（土） 10時15分～11時15分
宮本理事、平田准教授、村山事務局次長、武父母会長
- ・第3回 2012年5月16日（水） 19時10分～20時40分
宮本理事、平田准教授、村山事務局次長、武父母会長
- ・第4回 2012年6月4日（月） 17時30分～18時30分
宮本理事、平田准教授、村山事務局次長、武父母会長
- ・第5回 2012年11月29日（木） 14時30分～15時00分
岸川理事、平田准教授、村山事務局次長
- ・第6回 2013年2月25日（月） 12時30分～13時00分
岸川理事、平田准教授、村山事務局次長、武父母会長

(5) 会計監査

東陽監査法人 4 名による 2011 年度会計監査 2012 年 4 月 23 日(月)・24 日(火)・
25 日(水) 及び、2012 年度の上期会計監査が 10 月 16 日(火)・17 日(水) に行
われた。

(6) 監事監査、財務担当理事監査

- ①新田監事、小椋監事による財務状況に関する監査
- ②法人業務監査及び監査人（東陽監査法人）との打ち合せ
- ③布施財務担当理事による会計監査

(7) 理事長出張

- ①日本私立短期大学協会第 10 回理事長協議会
2012 年 12 月 3 日(月) 10 時～16 時 於：アルカディア市ヶ谷
- ②相模原市新年賀詞交換会
2013 年 1 月 5 日(木) 10 時 30 分～12 時 於：けやき会館
- ③眞鍋恵三前理事奥様前夜式及び告別式列席
前夜式 2013 年 1 月 30 日(水) 18 時～
告別式 2013 年 1 月 31 日(木) 13 時～
於：日本キリスト教団 頌栄教会

(8) 監事出張（新田監事・小椋監事）

学校法人の監事研修会（文部科学省）
2013 年 11 月 22 日(木) 13 時 00 分～16 時 40 分
於：品川きゆりあん

II. 事業の概要

1. 2012年度学校法人クラーク学園事業報告

「2012年度の歩みを顧みて 一良き教育と健全な経営を目指してー」

理事長 深 町 正 信

学校法人クラーク学園和泉短期大学は今年度も四つの柱を立て、事業展開を実施してきました。法人役員の方々のご指導のもと、教職員が車の両輪となり、「明るい、過ごし易いキャンパス・ライフ」を目指して務めてきました。第一に、建学の精神の尊重とその具体化であります。つまり、建学の精神であるキリスト教信仰に基づいて「愛と奉仕の精神」をもつ人格の形成を目指して、短大の礼拝、宗教活動、ボランティア活動、教科の充実に努めて来ました。第二に、教育と研究の充実であります。この点で、文部科学省の助成を受けた研究事業がそれぞれに成果を挙げることが出来ましたことは、今後の和泉短期大学の評価を一層しっかりとしたものとすることでしょう。第三に、学校経営の健全化であります。今年度に実施された日本格付研究所の認定で、今年度も、BBB（トリプルB フラット）と認定されたことは客観的に、良い評価を頂いたものと思います。第四に外部評価、第三者評価を積極的に受けることがあります。私たちは、改めるべきことはすぐに改善することを心掛けてきました。その成果の一端が雑誌「東洋経済」の大学特集で（2012年10月27日発行）介護福祉系の資格に強い大学として、和泉短期大学は、保育士資格で全国第9位でありました。昨今の、財政状況の厳しい大学の中で、和泉短期大学は収入と支出と資産の上手なマネージメント、つまり財政余裕度では、トップ30位にランクされました。昨今の解散命令が検討される大学、学生募集を停止する大学、学校法人の合併と追い詰められる大学が相次ぐ中で、この年も主に守られて終わることができますことは感謝であります。これはひとえに教職員の献身的働きは勿論のこと、法人役員、父母会、同窓会、後援会の支援の賜物であると思い感謝します。

今年度は当初の計画通り施設、設備関係では1号館の空調設備工事、農園門扉取り換え工事、芝地グラウンド門扉改修工事を実地完了することができました。設備関係ではプロジェクター他AV機器一式取り付け、出席管理リーダー・ライダー取り付け、キャンパス・コンビニの機器備品の購入、身分証明書用磁気カード書き込み機の購入等を実施しました。

更に、経常経費としては、1号館障害者用トイレ設置、おむつ交換台、1号館事務局前倉庫用棚、学生証作成等を実施、購入しました。維持管理費としては4号館エレベーター機能維持工事、実習・ボランティアセンター受付改修工事、運転手控室床、木枠取り換え工事、第一変電所電圧、電流マルケ指示計算取り換え工事、212教室（パソコン用）シンクライアントシステム保守料、非常勤放送設備改修工事、第一号ピアノ室外フード塗装工事、地下タンク廃止工事、設置工事、ハロン消火設備撤去工事、出席管理リーダー・ライダーSE費用、教学関係データバックアップ媒体遠隔地保管サービス保守契約等であります。賃貸料としてはポートフォリオシステム年間使用料、教員パソコン・レンタル料（19台）、AEDレンタル料等であります。

法人名称変更手続きは従来の「クラーク学園和泉短期大学」から「和泉短期大学」に変更することを理事会、評議員会の承認のもと、文部科学省に手続きを行い認可を得、2013年4月より法人名変更を致しました。「ソーラーシステム」の設置工事は業者と折衝しましたが、経済的理由とソーラー

機能の改善が進行中であることを考慮して、差し当たりキャンパス周辺の街頭10本をソーラーシステムに変更しました。総合グラウンド、教室、ホール等の有効活用により、少しでも賃貸料、使用料の増収をはかつてきましたが、規定を作成し、税務署にも届をしました。その結果、各種の資格試験、学会、各種の集会等にも利用されるようになりました。税務署への手続きを行いました。

5号館（旧専門学校校舎）については、有効利用を考え、検討してきましたが、現在は売却の方向で、最後の調整を慎重にしています。和泉短期大学の正門のところに、フラッグ・ポールを設置し、和泉短期大学の校旗を揚げ、祝日には国旗を揚げることとし、そのため運用規定をつくりました。現在は残念ながら和泉短期大学の正門はバスの乗車の関係で、学生食堂横の裏口から登下校となっていますが、出来るならば、正門から堂々と入り、母校の校旗をみながら、愛校心を強くもつ学生を育成してゆきたいと願っています。災害緊急時の対応については、近隣とともに（青葉2丁目自治会）と協力して、防災訓練を実施しました、防災備蓄庫の追加、点検をして、非常時に備えています。

学校法人としては常に「良き教育と確かな経営」を目指して、今後とも最善を尽くしてまいりたいと願っていますので、皆様方のご理解とご協力とを心からお願いを申し上げます。

2012年度 法人報告（事業取り組み状況報告）

「2012年度 クラーク学園基本構想による目標に対しての達成度」状況

- 1) 法人名変更 2012年 8月 15日（月） 私学事業団経営相談センター経営相談室室長面会
8月 27日（月） 文部科学省高等教育局私学行政課法人係
専門職面会
9月 11日（火） 父母会役員会説明
9月 14日（金） 後援会役員会説明
9月 24日（月） 教授会説明、11月「学則変更」審議
9月 25日（火） 事務局職員説明
10月 19日（金） 同窓会役員説明
10月 22日（月） クラーク学園教職員組合
10月 26日（金） 評議員会、理事会にて寄附行為変更、学則変更承認
11月 3日（土） 教授会にて学則変更承認
11月 8日（木） 寄附行為（法人名）変更認可申請書を文部科学書校長
教育局私学部詩学行政課法人係提出
12月 7日（金） 寄附行為変更認可、寄附行為変更認可書、学校法人寄
附行為変更認可書 受取
2013年 1月 9日（水） 法人名認可報告通知送付 理事、監事、評議員
2013年 4月 1日（月） 法人名変更申請・登記

2) 青葉2丁目交差点名変更 (青葉三丁目 ⇒ 和泉短大)

- 2012年 4月 27日（金） 相模原市市役所中央区役所地域政策課
2013年 2月 5日（火） 相模原警察署交通課 次長面談
2013年 2月 20日（水） 交差点名変更に関する要望書を相模原警察署長宛提出
コミュニティーバス運行 (青葉地区、光が丘地区からのミニバスの運行)
4月 27日（金） 相模原市市役所中央区役所地域政策課
8月 6日（月）、8月 17日（金）
近隣自治会 3団体と本学園 「要望書提出」 地域政策課

3) ソーラーシステム設置検討 (2社にて検討を進めてきた)

- 2012年 4月 13日（金） メガソーラーパネル設置に関して現地下見（総合グラウンド）
6月 12日（火） 同上概算見積り打ち合わせ
7月 27日（金） メガソーラーパネル設置（総合グラウンド）
8月 1日（水） 4号館のソーラーパネル、グリーンカーテン
9月 20日（木） 1号館屋上のソーラーパネル
9月 28日（水） 1号館、4号館周辺ソーラー街路灯設置（案）

11月 8日（木） サインボード、街路灯の提案
11月 19日（月） 4号館周辺に街路灯設置提案
11月 30日（金） 提案されたソーラーシステムの内容に不備が目立つ会社があり、検討を要する
12月 3日（月） 4号館周辺 街路灯 4台設置案
2013年 2月 13日（水） 10回以上に渡り、ソーラーシステムについて検討してきたが、2013年度予算計上し、設置するまでに至らなかつたとの報告を理事長にする。

4) 外部評価

・学校法人の格付け

2012年 7月 11日（水） 格付公表 (BBB)

・マスコミの評価

2012年 10月 27日 週刊東洋経済 「本当に強い大学 2012」

資格に強い大学、財務余裕度トップ 30 に掲載される。

・私立学校振興・共済事業団

2011年度 経営判断指標 判定「A1」(14区分の最高ランク)

5) 5号館「売買契約」に向けての状況報告

2012年 5月 19日（土） (福) 相模福祉村に物件紹介
2012年 6月 22日（金） (福) 相模福祉村 理事長他 第1回見学
2012年 9月 7日（金） 相模福祉村 (理事長、理事、幹部職員 15名) 第2回見学
2012年 9月 11日（火） 相模福祉村代表 第3回見学
2012年 10月 22日（月） 三菱UFJ 不動産販売より検討状況報告
2012年 11月 16日（金） 状況報告、売買条件等打ち合わせ
2012年 12月 3日（月） 売買条件打ち合わせ (周辺地区の土地価格)
2013年 1月 7日（月） 相模福祉村より「買付証明書」(120,000,000円)」提出される。
2013年 1月 7日（月） 三菱UFJ 不動産販売 打ち合わせ
2013年 1月 10日（木） 発信 第6回理事会 (持ち回り) にて 5号館の「貸付証明書」による「売渡承諾書」の提出を承認
2013年 1月 28日（月） 三菱UFJ 不動産販売経由で「売渡承諾書」を相模福祉村に提出
2013年 1月 31日（木） 三菱UFJ 不動産販売に「一般媒介契約書」提出
2013年 2月 14日（木） 福祉村 赤間代表に校舎簡易図面提出
2013年 2月 28日（木） 媒介業務経過報告書 (1) 提出
市役所との開発に関する会議 (3月 26日)
2013年 3月 18日（月） 関東信越厚生局長宛に「介護福祉士学校変更申書
提出 (養成施設等変更申請書) 5号館 ⇒ 2号館
2013年 3月 27日（水） 相模原市開発審査会 (5号館の福祉施設)

2013年 4月 12日 (金) 相模原市からのヒアリング (相模福祉村)

2013年 5月 17日 (金) 5号館見学 (3回目) 相模福祉村

内装改修工事見積もりのため

6) 平成24年度「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」選定

2011(平成23)年度に「就業力育成支援支事業」廃止に伴い、文部科学省より上記事業の公募があり、本学は関東甲信越地域大学グループで申請したが2012年9月20日に「不採択」になった。

しかし、申請した9大学グループで8大学グループが採択されたこともあり、その後に追加公募があり、再申請し、選定されました。

2012年11月 2日 (金) 申請

2012年11月 9日 (金) 面接審査

2012年12月 5日 (水) 選定 (2012年度～2014年度の3年間)

2012年12月27日 (木) 補助金決定通知

2012年度補助金額 3,043,000円

2013年 1月 23日 (水) 保育所との現場実習研究会

2013年 2月 25日 (月) 相模原市幼稚園協会との研究会

7) 災害、緊急時の対応

- ・5月7日 (月) 青葉2丁目自治会と学生教職員との合同避難防災訓練
- ・1号館内緊急放送設備の見直し、修理完了
- ・非常用備蓄品 (乾電池、軍手)、緊急時用刺股10本設置
- ・プロパンガス災害時対応ユニット取り付け (4号館)
- ・各教室に避難経路図 (緊急時持ち出し用) 設置
- ・ショベル6本 (防災備蓄庫に設置)

8) 206教室の有効利用 206教室の改修 (ML特別教室、会議室)

2012年 9月 24日 (火) 教授会説明

2013年度予算計上 (別紙 2013年度事業計画参照)

9) 総合グラウンド等の有効利用 (外部団体への貸し出し)

総合グラウンド 相模原リトルシニア野球協会

県立上溝高等学校野球部

相模原ライズフットボールクラブ

和泉保育園

相模白ゆり幼稚園

1号館 教室 ナガセ (模試会場)

全国保育士協議会 (保育士国家試験会場)

4号館（体育館）

和泉保育園
バット博士記念ホーム

駐車場

和泉保育園

10) ガバナンス等

理事長打ち合わせ 週1回毎週水曜日 10:00 ~ 11:30

学内運営協議会 週1回毎週水曜日 12:30 ~ 13:30

上期会計監査 2012年10月16日(火)、17日(水) 東陽監査法人4名

財務担当理事、監事監査

監事研修会 2012年11月22日(木) 新田監事、小椋監事出席

下期会計監査 2013年4月22日(月) ~ 24日(水) 東陽監査法人4名

4月23日(火)、24日(水) 監事2名 法人監査

財産状況の監査

11) その他

・フラッグポール(校旗設置台)設置 (5号館より移設)

学事等(卒入学式、創立記念日、学園祭等)に校旗、国旗を掲揚する。

・第2回FD・第6回SD研修会(ハラシメント研修) 理事長他42名参加

2013年3月6日(水) 13:30 ~ 16:40 (101教室)

・2013年2月18日(月) 滋賀文教短期大学 教職員2名見学

・2013年3月1日(金) 東海大学短期大学児童教育学科 図書館長見学

・FD・SD合同研修会「ハラスメント研修」 理事長、学長、事務局長他全教職員

法 人 報 告 書

学校法人クラーク学園
和泉短期大学

2012 年度 (2012 年 4 月 1 日 ~ 2013 年 3 月 31 日)

I. 施 設

○ 建 物

① 1号館空調設備工事

工 事 期 間 2012 年 4 月 28 日 ~ 8 月 30 日

費 用 96,235,132 円

予 算 額 96,236,000 円

○ 構築物

① 農園門扉取替工事 (台風による被害)

【施設賠償責任保険適用、雑収入として保険料処理】

工 事 期 間 2012 年 4 月 10 日 ~ 4 月 20 日

費 用 367,500 円

予 算 額 0 円 (予算計上なし)

② 芝地グラウンド門扉改修工事

工 事 期 間 2012 年 6 月 9 日 ~ 6 月 14 日

費 用 898,399 円

予 算 額 954,000 円

II. 設 備

○ 教育研究用機器備品

① プロジェクター他AV機器一式取付 (301 教室、体育館 A-1 教室)

費 用 716,000 円

予 算 額 738,000 円

② 出席管理リーダーライター取付、LAN 工事 (201・204・205・300・301 教室)

費 用 1,829,791 円 (按分計算訂正のため予算オーバー)

予 算 額 1,723,000 円

○ その他の機器備品

① キャンパスコンビニ冷蔵庫 3 台、弁当用冷蔵庫 1 台

費 用 2,097,150 円

予 算 額 2,497,000 円

② 身分証明書用磁気カード書き込機

費 用 210,000 円

予 算 額 225,000 円

III. 経 常 経 費

○ 消耗品費

- ① 1号館身障者用トイレ設置おむつ交換台
 - 費 用 180,600 円
 - 予 算 額 181,000 円
- ② 1号館事務局前倉庫用棚
 - 費 用 194,038 円
 - 予 算 額 195,000 円
- ③ 学生証作成（1年 295名、専攻科 21名、データ相違再発行分 1名）
 - 費 用 832,650 円
 - 予 算 額 835,000 円
- ④ 学籍簿マイクロ化、電子化
 - 費 用 486,700 円
 - 予 算 額 598,000 円
- ⑤ 図書館書架用側面パネル
 - 費 用 261,177 円
 - 予 算 額 262,000 円
- ⑥ 産業界のニーズ CDセンター内絵本 393 冊
 - 費 用 600,000 円
 - 予 算 額 0 円

○ 維持修繕費

- ① 4号館エレベータ機能維持工事
 - 工事期間 2012年5月22日
 - 費 用 378,000 円
 - 予 算 額 420,000 円
- ② 実習ボランティアセンター受付改修工事
 - 工事期間 2012年6月18日～6月30日
 - 費 用 277,200 円
 - 予 算 額 278,000 円
- ③ 運転手控室床・木枠取替補修工事（シロアリ発生による床板腐食のため）
 - 工事期間 2012年6月18日～6月30日
 - 費 用 235,800 円
 - 予 算 額 0 円
- ④ 第一変電所電圧・電流マルチ指示計器取替工事
 - 工事期間 2012年8月10日
 - 費 用 394,800 円
 - 予 算 額 400,000 円

⑤ 212教室（パソコン教室）用シンクライアントシステム保守料

費 用 157,500円

予 算 額 158,000円

⑥ 非常用放送設備改修工事

（有事に備えて非常用放送設備の点検をしたところ、不具合が生じた為）

工事期間 2012年6月6日～6月24日

費 用 792,960円

予 算 額 0円（予算計上なし）

⑦ 1号館ピアノ室外部フード塗装工事

工事期間 2012年8月9日～8月15日

費 用 600,000円

予 算 額 600,000円

⑧ 地下タンク廃止工事、付帯工事

工事期間 2012年8月1日～8月30日

費 用 1,018,143円

予 算 額 1,017,397円

⑨ ハロン消火設備撤去工事他

工事期間 2012年8月1日～8月30日

費 用 195,500円

予 算 額 195,500円

⑩ スラブ補修、壁貫通処理、天井復旧

費 用 2,019,280円

予 算 額 2,020,000円

○ 支払報酬手数料

① 出席管理リーダーライターS E費用

費 用 395,771円（按分計算訂正のため予算オーバー）

予 算 額 321,000円

② 教学関係データバックアップ媒体遠隔地保管サービス保守契約料

費 用 113,400円

予 算 額 152,000円

○ 貸借料（保育就業力支援対象）

① ポートフォリオシステム年間利用料

費 用 1,202,250円

予 算 額 1,202,000円

② 教員用パソコンレンタル料（19台）

費 用 349,020円

予 算 額 350,000円

③ A E D レンタル料

費　　用	63,000 円
予　算　額	63,000 円

④ 職員用パソコンレンタル料

費　　用	588,000 円
予　算　額	594,000 円

○ 奨学費

① 和泉短期大学児童福祉奨学金

給付人数	2年生 4名	(2年生前期4名分、後期3名分)
金　額	800,000 円	(前期分@100×4名 + 後期分@100×4名)
給付人数	1年生 1名	(1年生後期1名分)
金　額	100,000 円	(後期分@100×1名)
予　算　額	1,100,000 円	(2年前・後期@100×2×5名、1年後期@100×1名)

* 2年生支給予定者5名のうち、
前・後期休学者1名、支給なし。

② 地震災害による授業料減免

給付人数	2年生 1名
金　額	182,500 円
予　算　額	365,000 円

③ 真鍋記念奨学金

給付人数	2年生 2名
金　額	730,000 円
予　算　額	730,000 円

④ 卒業生子女入試奨学費

給付人数	1年生 13名
金　額	650,000 円
予　算　額	650,000 円

○ 既存建物一部撤去費

① 空調機取替更新に伴う地下タンク配管撤去工事

費　　用	871,857 円
予　算　額	872,000 円

② 空調設備既存機器処分撤去費

費　　用	4,372,520 円
予　算　額	4,373,000 円

③ 空調設備既存配管処分撤去費

費　　用	3,390,063 円
予　算　額	3,391,000 円

2. 2012年度和泉短期大学事業報告

学長 伊藤忠彦

1) 概要

短期大学の置かれている状況は、昨年同様に厳しい状況にあったが、幸いに入学定員を満たし、2012年度、児童福祉科293名、専攻科21名を迎える、2012年度の学事予定に従って実施することができた。

2012年度末をもって1名の専任教員の退任があったが、幸い新たに、準教授1名、専任教員1名の採用により、充実した教育体制で、計画された2012年度に予定された学事・教育を終えることができた。

また、週一度月曜日行われる学生礼拝(チャペル)を通して、また、授業科目である「キリスト教概論」並びに、2年前から開講された「キリスト教保育」(共に卒業必修)の学びを通して、学生の多くが、本学の建学の精神を学び、心に留める事ができたと期待して、2013年3月15日に、児童福祉学科267名、専攻科21名を送り出し、2012年度の学事を終えることができことを喜び神に感謝したい。

i) 退学者・除籍者

しかし、2012年度の退学者・除籍者は1年生33名、2年生10名、合計43名であった。これまで毎年、退学者並びに除籍者の増加が続いてきたことを憂い、教授会は改善に向けての分析と取り組み、学生支援の強化、奨学金の充実(全学生のほぼ、35%の学生は奨学金受給者)、本学入試合格者の入学前教育(土曜日4回、13時~15時20分)の実施、AO入試の改善、高等学校入試担当教員との情報交換、本学教職員の教育力向上に向けてのFD&SD研修会の開催等を通して、努めてきたが、更なる退学者の増加を止めることができなかつたことは、「大学生の8人に1人が中退者に」と言われている時代ではあるが、専門職を目指す本学の学生の教育の責務を負っている者として真に残念である。

退学者の減少を目指した新たな取り組を視野にいれ、入試広報並び日々の教育、学生生活の支援に努めて行きたい。

ii) 就職・進学状況

児童福祉学科の卒業生は267名(前年比+0)で就職・進学希望者254名(+11)、決定者246名(+13)。

〈内訳〉保育所121名(-7)、幼稚園121名(+20)、施設25名(-2)、その他1名(-1)進学19名(-6)。専攻科介護福祉専攻の修了者は20名(前年比-5)で、就職希望者20名、決定者19名(±0)。〈内訳〉施設9名(-2)保育園8名(-2)幼稚園2名(+1)(2013年3月31日現在)

2) 文科省公募事業「関東山梨地域大学連合による産業界のニーズに対応した教育改善」

プログラムの新たに（2012年11月20日）採択される 2010年9月28日に採択された公募プログラム「保育就業力育成支援事業」プログラム(助成期間5年)は、政府の方針転換により、2011年度末をもって、突如終了することになった。しかし、本学の資金をもって、事業規模縮小はやむをえなかつたが、継続して来ることができた。

幸いに、上記の応募プログラムがこの度も採択され、東京・神奈川・山梨・栃木にある電気通信大学を幹事校とした14大学の連携協力をもとに、昨年度末より、それぞれの地元産業界との連携協力し、各大学の教育改善に取り組んでいる。

本学は相模原市幼稚園協会との連携のもとに、このプログラムの目的である「キャリア開発科目の高次化」「学修評価・指導方法の開発」「インターンシップの高次化」等を目指して学び、展開して予定である。期間は平成26年度（2014年度）までの予定である。

3) 入学者選考結果

2013年度に向けての学生募集並びに入学選考も、ほぼ順調に行なわれた。

2013年4月2日に行なわれた入学式では、児童福祉学科293名、専攻科19名、計312名の新入生を迎えて行なわれた。

児童福祉学科の入学者数は定員数250名であることもあり、ここ3年間290名台と、ほぼ横ばいではあるが、（2011年度）志願者数382・受験者359名・合格者301名、（2012年）志願者数403名・受験者370名・合格者299名、（2013年度）志願者数407名・受験者数366名・合格者300名となっている。

専攻科は、（2011年度）26名、（2012年度）21名、（2013年度）19名と減少傾向にあり、児童福祉学科・専攻科介護福祉専攻科と共に、2014年度の募集に向けて、これらの応募状況の原因等の分析、募集要項の改善、地元高等学校との連携の強化等を通して、入試・広報活動を進めて行く所存である。

○学事報告

(1) 和泉短期大学 児童福祉学科 学生数

・2012年度

()内数字は男性を示す

	1年	2年	合計	専攻科
2012年4月	295名(14)	280名(19)	575名(33)	21名(1)
2012年9月卒業	—	0名(0)	0名(0)	0名(0)
退学者・除籍者	33名(2)	10名(0)	43名(2)	0名(0)
2013年3月	262名(12)	270名(19)	532名(31)	21名(1)

・2013年度

	1年	2年	合計	専攻科
2013年4月	293名(21)	265名(12) [内留年3・休学2]	558名(33)	19名(3)

(2) 卒業生の状況 2013年3月

卒業者	267名
保育士資格取得者	255名
幼稚園教諭二種免許取得者	255名
社会福祉主事任用資格単位修得者	267名
レクリエーション・インストラクター資格取得者	17名
修了者	21名
介護福祉士資格取得者	21名

・児童福祉学科学位記授与式代表

	児童福祉学科	専攻科
総代	川守 莉加	上原 茉莉
答辞	河村 文歌	
全国保育士養成協議会表彰	川守 莉加	
中島武夫記念賞	井開 さちこ	
讃岐和家記念賞	臼井 弥亜	

・専攻科介護福祉専攻修了式

日本介護福祉士養成施設協会表彰		一ノ瀬 夏実
送辞	市成 翔子	

(3) 児童福祉学科2013年度入試

()内は男性を示す。

入試区分	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
指定校推薦	112名(7)	111名(7)	109名(6)	108名(6)
卒業生・在学生家族推薦	9名(2)	9名(2)	9名(2)	9名(2)
キリスト者推薦	1名(0)	1名(0)	1名(0)	1名(0)
公募推薦	24名(9)	24名(9)	17名(3)	17名(3)
専門高校推薦	2名(0)	2名(0)	2名(0)	2名(0)
一般	25名(9)	23名(8)	13名(0)	8名(0)
社会人特別選抜	3名(3)	3名(3)	0名(0)	0名(0)
iAO入試Ⅰ期	77名(11)	70名(10)	61名(7)	61名(7)
iAO入試Ⅱ期	77名(9)	68名(7)	55名(2)	55名(2)
iAO入試Ⅲ期	62名(12)	43名(12)	25名(1)	25名(1)
iAO入試Ⅳ期①	10名(3)	10名(3)	6名(0)	6名(0)
iAO入試Ⅳ期②	5名(0)	2名(0)	2名(0)	1名(0)
iAO入試Ⅳ期③				
合計	407名(65)	366名(61)	300名(21)	293名(21)

・入学試験日程

①指定校推薦

願書受付期間	2012年10月11日(木)～10月17日(水)
入学選考	2012年11月3日(土)
合格発表	2012年11月4日(日)
入学手続き期間	2012年11月5日(月)～11月15日(木)

②卒業生・在学生家族推薦／③キリスト者推薦

願書受付期間	2012年10月11日(木)～10月19日(金)
入学選考	2012年11月3日(土)
合格発表	2012年11月4日(日)
入学手続き期間	2012年11月5日(月)～11月15日(木)

④公募推薦／⑤専門高校推薦

願書受付期間	2012年10月22日(月)～11月9日(金)
入学選考	2012年11月17日(土)
合格発表	2012年11月19日(月)
入学手続期間	2012年11月20日(火)～11月30日(金)

⑥一般

願書受付期間	2013年1月10日(木)～2月1日(金)
入学試験	2013年2月6日(水)
合格発表	2013年2月7日(木)
入学手続期間	2013年2月8日(金)～2月20日(水)
入学辞退受付期間	2013年2月21日(木)～3月15日(金)

⑦社会人特別選抜

願書受付期間	2012年10月22日(月)～11月9日(金)
入学試験	2012年11月17日(土)
合格発表	2012年11月19日(月)
入学手続期間	2012年11月20日(火)～11月30日(金)

⑧iAO入試 I期

面談日程	2012年7月7日(土)・21日(土)・28日(土)
出願許可	2012年8月1日(水)
願書受付期間	2012年8月2日(木)～8月24日(金)
入学手続期間	2012年9月3日(月)～9月11日(火)

iAO入試 II期

面談日程	2012年8月1日(水)・8月20日(月)・8月29日(水)
出願許可	2012年9月4日(火)
願書受付期間	2012年9月5日(水)～9月12日(水)
入学手続期間	2012年9月14日(金)～9月26日(水)

iAO 入試 III期

面 談 日 程	2012年 9月29日（土）・10月 6日（土）・10月13日（土）
出 願 許 可	2012年10月16日（火）
願 書 受 付 期 間	2012年10月17日（水）～ 10月24日（水）
入 学 手 続 期 間	2012年10月26日（金）～ 11月 5日（月）

iAO 入試 IV期①

面 談 日 程	2013年 1月19日（土）・1月26日（土）
出 願 許 可	2013年 1月31日（木）
願 書 受 付 期 間	2013年 2月 1日（金）～ 2月 8日（金）
入 学 手 続 期 間	2013年 2月12日（火）～ 2月21日（木）

iAO 入試 IV期②

面 談 日 程	2013年 2月13日（土）・2月20日（水）
出 願 許 可	2013年 2月21日（木）
願 書 受 付 期 間	2013年 2月22日（金）～ 3月 1日（金）
入 学 手 続 期 間	2013年 3月 4日（月）～ 3月13日（水）

iAO 入試 IV期③

面 談 日 程	
出 願 許 可	
願 書 受 付 期 間	
入 学 手 続 期 間	

特待生制度

出 願 期 間	2012年 9月10日（月）～ 9月21日（金）
資 格 選 考	2012年10月 6日（火）
結 果 発 表	2012年10月11日（木）

専攻科介護福祉専攻2013年度入試

	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
i 日程	11名(0)	11名(0)	11名(0)	11名(0)
A 日程	2名(0)	2名(0)	2名(0)	2名(0)
B 日程	4名(1)	4名(1)	4名(1)	4名(1)
C 日程	2名(2)	2名(2)	2名(2)	2名(2)
D 日程	0名(0)	0名(0)	0名(0)	0名(0)
合 計	19名(3)	19名(3)	19名(3)	19名(3)

・入学試験日程

i 日程

願書受付期間	2012年9月27日(木)～10月4日(木)
入学選考	2012年10月13日(土)
合格発表	2012年10月16日(火)
入学手続期間	2012年10月17日(水)～11月15日(木)

A 日程

願書受付期間	2012年10月15日(月)～10月26日(金)
入学選考	2012年11月3日(土)
合格発表	2012年11月4日(日)
入学手続期間	2012年11月5日(月)～11月15日(木)

B 日程

願書受付期間	2012年11月16日(金)～11月28日(水)
入学選考	2012年12月1日(土)
合格発表	2012年12月4日(火)
入学手続期間	2012年12月5日(水)～12月14日(金)

C 日程

願書受付期間	2013年1月24日(木)～2月1日(金)
入学試験	2013年2月6日(水)
合格発表	2013年2月7日(木)
入学手続期間	2013年2月8日(金)～2月22日(金)
入学辞退受付期間	2013年2月21日(木)～3月15日(金)

D日程

願書受付期間	2013年 2月18日(月)～3月 1日(金)
入学試験	2013年 3月 6日(水)
合格発表	2013年 3月 7日(木)
入学手続期間	2013年 3月 8日(金)～3月15日(金)

年間の行事

- 2012年 3月 30日（金） 2年始業式・オリエンテーション・グループミーティング
4月 2日（月） 入学式<10時30分開式>
3日（火） 2年、専攻科健康診断、教科書販売
1年、専攻科オリエンテーション
4日（水） レクレーション大会
専攻科オリエンテーション
5日（木） 2年、専攻科前期授業開始
1年オリエンテーション
6日（金） 1年健康診断、教科書販売
7日（土） 1年、新入生研修会
9日（月） イースター特別礼拝、1年前期授業開始
23日（月） 創立記念礼拝
25日（水） 実習連絡会（幼稚園）
5月 7日（月） 避難・防災訓練
2年現場実習（幼稚園・児童福祉施設）
<5月26日（土）まで>
高校教員進学説明会1回目
9日（水） 高校教員進学説明会2回目
28日（月） 家庭科・福祉関係科目担当教員懇談会
6月 11日（月） 専攻科介護実習<6月19日（火）まで>
13日（水） 実習連絡会（児童福祉施設）
18日（月） 2年現場実習（幼稚園・児童福祉施設）
<7月7日（土）まで>
30日（土） 専攻科介護技術講習会①
7月 1日（日） 専攻科介護技術講習会②
7日（土） 専攻科介護技術講習会③
8日（日） 専攻科介護技術講習会④
28日（土） 1年夏期休業開始
31日（火） 2年夏期休業開始
おもちゃインストラクター養成講座<8月1日（水）まで>
夏期リカレント講座
8月 1日（水） 専攻科夏期休業開始
31日（金） 専攻科後期始業式、オリエンテーション、教科書販売、再試験発表
9月 3日（月） 2年前期授業再開、専攻科後期授業開始
1年生一般教養対策講座<7日（金）まで>
10日（月） 1年ボランティアウィーク<18日（火）まで>
専攻科前期再試験日<11日（火）まで>
11日（火） 専攻科実習連絡会
12日（水） 市内高校長教育懇談会

- 18 日 (火) 2 年現場実習 (保育所・児童福祉施設)
 <10 月 3 日 (水) まで>
- 19 日 (水) 1 年後期始業式、オリエンテーション、教科書販売、再試験発表
- 26 日 (水) 1 年前期再試験日 <27 日 (木) まで>
- 28 日 (金) 1 年後期授業開始
- 10 月 4 日 (木) 2 年後期始業式、オリエンテーション、教科書販売、再試験発表
- 5 日 (金) 2 年後期授業開始
- 13 日 (土) 専攻科学内在学生選考日 (i 日程)
- 27 日 (土) 学生祭 (いづみ祭) 週間 <29 日 (月) まで>
- 28 日 (日) 学生祭 (いづみ祭) 公開日 <28 日 (日) まで>
- 11 月 3 日 (土) 指定校推薦／卒業生・在学生家族推薦／キリスト教者推薦／専攻科入学試験日 (A 日程)
- 5 日 (月) 専攻科介護実習 <12 月 8 日 (土) まで>
 召天者記念礼拝
- 17 日 (土) 公募推薦／専門高校推薦入学者選考日／社会人特別選抜入学者選考日
- 26 日 (月) クリスマスツリー点火祭
- 12 月 1 日 (土) 専攻科入学試験日 (B 日程)
- 8 日 (土) クリスマスコンサート
- 17 日 (月) クリスマス礼拝
- 22 日 (土) 冬期休業開始 <2013 年 1 月 6 日 (日) まで>
- 2013 年 1 月 7 日 (月) 後期授業再開
- 23 日 (水) 実習連絡会 (保育所)
- 2 月 6 日 (水) 一般入学試験
 専攻科入学試験日 (C 日程)
- 12 日 (火) 1 年現場実習 (保育所) <2 月 26 日 (火) まで>
 2 年追・再実習
- 13 日 (水) 専攻科卒業試験日
- 14 日 (木) 専攻科卒業試験講習会 1 日目 <2 日目 15 日 (金) >
- 20 日 (土) 専攻科後期再試験発表
- 27 日 (水) 2 年、専攻科後期再試験日
- 28 日 (木) 2 年後期再試験日 (追再実習実施者のみ)
 1 年後期再試験発表
- 3 月 4 日 (月) おもちゃインストラクター養成講座 <5 日 (火) まで>
- 7 日 (木) 1 年後期再試験日 <8 日 (金) まで>
- 14 日 (木) 卒業、修了感謝礼拝
 卒業証書・学位記授与式予行演習
 修了証書授与式予行演習

15日（金）卒業証書・学位記授与式
修了証書授与式

◎実習

1年生

2013年2月12日（火）～ 2月26日（火）現場実習（保育所）

2年生

2012年5月7日（月）～ 5月26日（土）現場実習（幼稚園・児童福祉施設）

2012年6月18日（月）～ 7月7日（土）現場実習（幼稚園・児童福祉施設）

2012年9月18日（火）～ 10月3日（水）現場実習（保育所・児童福祉施設）

専攻科

2012年6月11日（月）～ 6月19日（火）介護実習

2012年11月5日（月）～ 12月8日（土）介護実習

III. 委員会活動

教務委員会活動報告（2012年度）

【概要】

1. 教育の内容

(1) 教育課程について

- ①教科に関する科目と教職に関する科目の専任教員の配置
- ②教員人事
- ③授業科目(名称変更を含む)<2013年度入学者より>
- ④休業日を授業を行う日に変更
- ⑤土曜日の行事・授業の行事・補講日
- ⑥新設授業教科目について
- ⑦インターナショナル・フィールドワーク

(2) FD・SDの充実

- ①2011年度の自己点検・評価報告書の作成
- ②学生による授業評価の改善及び公表のあり方
- ③教員懇談会・教職員懇談会の開催
- ④全教職員参加のFD・SD研修会開催

(3) 授業環境改革の更なる検討

(4) 教育交流提携高の高校生へのサービスの見直し

- ①聴講生受け入れについて
- ②市内高校長との教育研修会開催
- ③市内保育・福祉担当高校教員教育懇談会開催

(5) 時間割の工夫

- ①月曜日の授業は専任教員中心
- ②2年生科目：前期13回・14回・15回分の授業日の確保（5限目に導入）
- ③専任教員については研究日の他に授業準備日として、授業のない日を設定
- ④2014年度生からの授業日及び実習期間の検討

2. 教育の環境整備

(1) 教室の広さ、数、運動施設、校庭、畑等の有効な活用

(2) 教育用機器備品についての整備と検討

3. 教育目標の達成度と教育効果

(1) 教育目標の達成に関する評価の方法について

(2) 器楽（ピアノ）<ML導入に向けカリキュラムの>検討

(3) 退学者、休学者の近年の傾向と背景を把握し、教育指導への反映と検討

(4) 卒業生や、専門就職先からの卒業生に対する評価

4. 学生支援

(1) 障がいその他の特別な配慮を要する学生の奨学への支援を検討

(2) 入学前教育の充実（入学直後の初年次教育含む）

①2012年度に行った入学前教育(4回開催)の継続（12月・1月・2月・3月）

②入学前の無料ピアノレッスン（3回開催）の継続（2月：2回、3月：1回）

(3) 保育士・幼免以外の資格取得の支援

①レクリエーション・インストラクター取得支援

②おもちゃインストラクター取得支援

(4) 入学時や後期開始前に実施しているガイダンスの充実と工夫

(5) 履修チェック方法の活用

5. 卒業生への再教育支援

(1) 卒業生に対する研修等の再教育の機会を提供することについての検討

(2) 本学での夏期リカレント講座及びその他の関連講座の開催について検討

①本学独自で夏期リカレント講座開催

②幼稚園協会・その他等に協力

6. 教員の交流と研究活動の支援

(1) 全教員打ち合わせ会及び授業内調整会の有効性を高める工夫の検討

(2) 教育指導体制に関し教員間の交流や授業参観の導入

(3) 将来計画のための教員懇談会の企画・実施

(4) 教員の研究活動の推進及び和泉特別研究費の使用方法の検討

(5) 文部科学省特色GP・現代GP・学生支援推進プログラム、科研費の外部からの研究資金調達の積極的支援

(6) 教員の教育、研究並びに社会的な活動の適正な推進の支援

7. 保護者（保証人）会について

(1) 入学式後の保護者（保証人）会の開催

(2) 年度途中での保護者（保証人）会の開催に検討

(3) 保護者（保証人）への成績の報告

8. 情報公開について

(1) 自己点検・評価報告書の開示

(2) 教員情報の開示

9. その他（学位授与の方針及び教育課程編成の方針の作成）

【組織】

教務委員会構成メンバー：◎委員長（教務部長）（教員）◎武石宣子教授、平田准教授、松浦浩樹准教授（職員）吉田耕也教育・学習支援ユニットリーダー、（陪席）曾根真理子教育・学習支援ユニットサブリーダー

原則として毎月1回の定例会に加え、必要に応じ臨時委員会が開催されている。

【活動内容】

1. 教育の内容

(1) 教育課程について

①2013年度より教科に関する科目と教職に関する科目の専任教員の配置

<教職> = 7名
保育者論：片山知子
教育原理：松浦浩樹
保育の心理学 I : 矢野由佳子
子どもの権利：鈴木俊彦・
子どもの権利：平田美智子
保育課程論：河合高銘
障がい児保育 I : 横川剛毅

<教科> = 7名
言語表現：(相馬靖明)
子どもと暮らし：櫻井奈津子
保育音楽：山本美貴子
造形表現：佐藤守男
乳幼児体育：井狩芳子
乳幼児体育：大下聖治
リトミック：武石宣子

②新規採用専任教員人事

2013年度新規採用助教（実習担当）：助教1名（久保田美沙子）

③授業科目の名称変更、新設科目、廃止科目<2013年度入学者より>

《名称変更》

- (1) 保育の心理学 I ⇒ 保育の心理学A
- (2) 保育の心理学II ⇒ 保育の心理学B
- (3) 子どもの保健I ⇒ 子どもの保健A
- (4) 子どもの保健II ⇒ 子どもの保健B
- (5) 障がい児保育 I ⇒ 障がい児保育A
- (6) 障がい児保育II ⇒ 障がい児保育B
- (7) ハンドベル⇒ハンドベル I

《新設科目》

- (1) ハンドベルII

《廃止科目》

- (1) レクリエーション理論
- (2) レクリエーション援助法

④休業日を授業を行う日に変更

i) 2011年度<後期分>10月8日（月）体育の日

⑤土曜日の行事・授業・補講日

i) 4月7日（土）：新入生歓迎レクリエーション大会

ii) 2月9日(土)：月曜日分授業日

iii) 補講日(前期)：4月28日(土)・6月9日(土)・7月24日(火)・7月26(木)

iv) 補講日(後期)：11月10日(土)・12月15日(土)・1月26日(土)

⑥新設授業教科目（③の表を参照）

⑦インターナショナル・フィールドワーク⇒フィリピンにて研修

⑧質の高い保育士資格、幼稚園教諭免許に向けての教育課程の改善方策の検討。

⑨おもちゃインストラクター養成講習会—2012年度も継承

(2) FD・SDの充実

①新評価項目による自己点検・評価報告書作成：基準II「教育課程と学生支援」、基準3III「教育資

源と財的資源」の2011年度の自己点検・評価報告書の作成（分担執筆）。

②学生による授業評価の改善及び公表のあり方

学生による「授業に対する意見調査」の手続きと公表（評価方法の改善）を行なう。公開（専任教員・非常勤講師を含む）は図書館カウンター内に保管し、学生、教職員は手続きをして図書館内で閲覧する。手続きの際、学生は学生証が必要となる。

③教員懇談会・教職員懇談会の開催

④全教職員参加のFD・SD研修会開催

4月2日（月）：全教員授業内容調整会開催

10月～2月にかけて各分野ごとの授業内容調整会開催

⑤学生FD委員会の支援（私語対策、マナー周知、入学前教育での働き）

⑥FD、SDの研修会開催（外部後援者を招いての講習会）

テーマ：「各種ハラスメントの定義と実践」開催日：3月6日（水）於：101教室

（3）授業環境改革の更なる検討

（4）教育交流提携高の高校生へのサービスの見直し

①聴講生受け入れについて

②市内高校長との教育研修会開催

a. 開催日時：2011年9月12日（水）15：00～17：00

b. 参加者：相模原市内の高等学校長及び本学の教職員

c. 会場：本学学生食堂

③市内保育・福祉担当高校教員教育懇談会開催

（5）時間割の工夫

①月曜日の授業は専任教員中心

②2年前期の授業日程は13回授業確保（2回の現場実習が組み込まれているため）とし、14回目と15回目に関してはあらかじめ設定されている曜日の5時限目に行なう。2014年度生からは実習時期の変更、夏休みの明けの授業開始を繰り上げる等の工夫をし、正規の曜日での授業ができるようにする。

③2012年度の時間割について、専任教員については研究日の他に授業準備日として、授業のない日を設定する方向で時間割を考えた。

2. 教育の環境整備

（1）教室の広さ、数、運動施設、校庭、畠等の有効な活用

①利用者の評価を把握し、改善策を検討

②206教室の使用を検討（2013年度8月工事により会議室とML教室となるため、後期科目：器楽「ピアノ」の授業にMLを導入）

③学生の憩いの場を確保

i) 学生ホールの充実 ii) コミュニティサロンの充実

④キャリアデザインセンターの設置：支援者常駐・子育て事業に活用・授業の教室として活用

（2）教室内環境並びに教育用機器備品についての整備と検討

全教員懇談会等で提案された改善要求を早急に検討する。

3. 教育目標の達成度と教育効果

(1) 本学の教育目標の達成に関する評価方法について検討

学生に評価の方法についてシラバスに明示する。評価認定は各教員に任されるが、対象となる学生にきちんと伝える(例：授業態度・授業への参加度 20%、授業内レポート 30%、授業外レポート 20%、試験 30%)。シラバスの最終日の(15回目、30回目)も授業をし、試験に充てることの文言をシラバス提示することに注意を促す。

(2) 欠席が 3 分の 1 に達した後の遅刻・早退の扱いを統一する。(欠席 5 回に達した後の遅刻および早退は、当該授業の失格扱いとなる。)

(3) 授業と学生生活に対する満足度調査の検討と実施

「学生による大学運営に関する満足度調査」を実施する。完全実施となるよう協力を促す。

(4) 退学者、休学者等の近年の傾向と背景を把握し、教育指導への反映を検討

①退学者等の傾向の分析

②減少のための具体的な方法(カリキュラム上の工夫・実習要件の見直し等)

③特に1年前期失格者等の丁寧な指導。(学ぶモチベーションが下がらないよう支援をする。)

(5) 卒業生や専門就職先からの卒業生に対する評価についての調査の検討と実施

4. 学生支援

(1) 障がいその他の特別の配慮を要する学生の勉学への支援と検討

(2) 入学前の事前学習、事前指導等についての内容を再検討・実施

①入学前教育の充実

4回の入学前講座－必修プログラムを教務委員会主催で行った。

第1回：2012年12月8日(土)13:00～16:00、於 206教室

○ようこそ和泉へ(履修カルテ・キャリアデザインファイル説明)

第2回：2013年1月12日(土)、13:00～16:00、於 206教室・各教室

○プログラム1「コミュニケーション・スキル講座①文章表現技術を学ぶ」

○プログラム2「ファイルの取組の確認」《授業マナー：私語対策について等、私語対策委員によるプリント内容周知》

第3回：2013年2月13日(水)、13:00～17:00、於 206教室・各教室

○プログラム1「コミュニケーション・スキル講座②聞き方・話し方」

○プログラム2「発表準備」及び「発表」(担当：全専任教員)《授業マナー：私語対策について等、私語対策委員によるプリント内容周知》

第4回：2013年3月13日(水)、13:00～16:00、於 206教室・クラークホール

○プログラム1「コミュニケーション・スキル講座③REPORT/NOTE/TAKING」

○学生FD委員会からの新入生への(学校紹介、私語対策、マナー等々)提言

○プログラム2「終講式」(説教伊藤忠彦学長、司会松浦浩樹、奏楽武石宣子)

②2012年度生入学前の無料のピアノレッスン全3回(2013.2.5(火)、2013.2.19(火)、2013.3.5(火))

③入学前の課題について

課題：履修カルテ・キャリアデザインファイル説明にそって課題提出

④レクリエーションインストラクター取得支援(2013年度生からは廃止)

⑤おもちゃインストラクター取得支援

(3) 入学時や後期開始前に実施しているガイダンスの工夫

①学習や科目選択のためのガイダンス等が、学生の実態に即したものとなるように工夫・検討

②2011年度入学式後、保護者を対象として説明会を開催

(4) 籍延長制度の廃止を含め見直し

①留年生、科目等履修生、再入学生への支援

(5) 履修チェック方法の活用

①資格・免許に必要な履修科目の徹底した管理

②教育・学習ユニットとグループアドバイザーの支援

5. 卒業生への再教育支援

(1) 卒業生に対する研修等の再教育の機会を提供することについての検討

(2) キャリアアップデイ開催について

(3) 夏期リカレント講座開催について

第3回夏期リカレント講座を本学において2011年度開催

①日時：2012年7月31日(火)

②内容：午前（講演と対話） 午後（ワークショップ）

③参加費：2講座：3,000円・1講座：2,000円

6. 教員の交流と研究活動の支援

(1) 全教員打合わせ会（ユニットリーダーを加える）および授業内容調整会の有効性を高める工夫の検討

①全教員打合わせ会（2012年4月2日(月)）開催（ホテルセンチュリー相模大野

②授業内容調整会

2013年度の調整会も、各担当科目別に実施した。

③2013年度の予定

i) 全教員打合せ会：2013年4月1日(月)

ii) 授業内容調整会：2013年度の調整会も、担当科目別に実施する方向で考えたい。シラバス（非常勤）は12月末日までに提出する。

(2) 教育指導体制に関し教員間の交流や授業参観の導入

①教員組織の確立（教務委員会のプランチ）

i) リカレント講座

ii) 市内高校長との教育研修会

iii) キャリアデザイン委員会

iv) キャリアファイル委員会

v) 子育て支援プログラム委員会

vi) 学生FD委員会（2014年度生入学期前教育においても今回同様行う。）

②組織図の作成

ロードマップを何度も再確認し、年間計画を構築

(3) 将来計画のための教員懇談会の企画・実施

①本学の将来図を見据える

②5号館の利用と将来設計

- ③専攻科との関係（授業交流・授業担当等）
- ④新子育てシステム（総合子ども園構想・保育教諭等）
- (4) 教員の研究活動の推進及び和泉特別研究費や研究費の使用方法の検討
- (5) 特色GP、現代GP、科研費等の外部からの研究資金調達の積極的支援
2012年度大学改革推進等補助金である「産業界のニーズに対応した教育改革・充実体制事業」に選定される。「子育てひろば」の保育実践、「リカレント講座」や「子育て講座」の充実等々外部との連携をすることで専門的資源を発信する事に寄与する。
- (6) 教員の教育、研究並びに社会的な活動の適正な推進の支援

7. 保護者（保証人）会について

- (1) 入学式後の保護者（保証人）会の開催
 - ①2012年4月2日（月）開催（理事長・学長・後援会会长・学生部長・教務部長）
 - ②学校生活、単位認定、実習の仕組み等を説明する。、
- (2) 年度途中での保護者（保証人）会の開催に検討
- (3) 保護者（保証人）への成績の報告
年の2回（4月・10月）保護者へ成績を送付

8. 情報公開について

- (1) 自己点検・評価報告書の開示
- (2) 教員情報の開示
 - ①履歴・経歴・業績・社会的活動等をホームページにて公開
 - ②授業評価を図書館内にて公開
 - ③授業シラバスをホームページにて公開

9. その他（学位授与の方針及び教育課程編成の方針の作成）

学位授与の方針及び教育課程編成の方針を教務委員会で検討し、学内運営協議会及び教授会に上程した。

学位授与の方針

- 1. 本学に2ヵ年以上在学し、所定以上の単位を修得した者。
- 2. 単位認定の条件・評価方法による成績評価に基づき単位を付与された者。
- 3. 子どもに対する確固とした価値観である「子どもの権利」を尊重できる者。
- 4. 本学の建学の精神であるキリスト教に基づく「愛と奉仕」の実践者となる人間観を身につけている者。

【児童福祉学科】

1. キリスト教の愛の教えを基盤とし、保育(教育)・福祉専門職として人権を尊重する者を育成するため、本学は「教養教育科目」、「専門教育科目」の学習区分を設定し体系的にカリキュラムを編成する。
2. 2年間で所定の単位を修得し、保育(教育)・福祉専門職の知識や技能を身につけることができ、保育士資格・幼稚園教諭二種免許が取得できるようカリキュラムを配置する。
3. 各学生の個性を尊重した授業環境のもと、学習成果があがるようにする。また少グループを担当する教員のグループアドバイザー制により、学生の学ぶ意欲を支援する。
4. キャリア教育を推進し、保育士資格・幼稚園教諭二種免許取得のための学外実習を重視する。また学生がボランティア活動を積極的に経験することを奨励する。

【専攻科介護福祉専攻】

1. キリスト教の愛の教えを基盤とし、介護福祉専門職として人権を尊重する者を育成するため、体系的にカリキュラムを編成する。
2. 1年間で所定の単位を修得し、介護福祉専門職の知識や技能を身につけることができ、介護福祉士国家試験受験資格が取得できるようカリキュラムを配置する。
3. 各学生の個性を尊重した授業環境のもと、学習成果があがるようにする。また少グループを担当する教員のグループアドバイザー制により、学生の学ぶ意欲を支援する。
4. キャリア教育を推進し、介護福祉士資格のための学外実習を重視する。また学生がボランティア活動を積極的に経験することを奨励する。

上記の 2 つの方針に「入学者受け入れの方針」（入試広報委員会）を加えた 3 つの方針を本学全体で周知し確認する。

学生委員会活動報告（2012年度）

【概要】

学生部は、本学の理念を基盤に、学生が明日の社会を担う良識ある社会人として活躍するために必要な、豊かで個性的な人格形成の追求と進路選択ができるよう、学生の諸活動を支援している。

- (1). 学資支援（奨学金制度）の充実を図る。
- (2). 学生支援におけるグループ・アドバイザーとの連携強化を図る。
- (3). キャリアデザインA（学生生活支援）の充実を図る。
- (4). 就職意識の啓発ときめ細やかな就職相談、キャリアデザインB（進路支援）の充実を図る。
- (5). 進路支援センターの充実と就職率・就業定着率の向上を図る。
- (6). 学友会活動（いざみ祭・新入生歓迎会等）を支援する。
- (7). 学生のマナー向上の取り組みを学友会とともに進める。
- (8). 学生の課外活動を支援する。
- (9). 健康管理センターを充実させる。

【組織】

学生委員会構成委員：佐藤守男教授（学生部長）、大下聖治准教授、片山知子准教授、戸塚恵子准教授、山本正司助教、村山徳淳（学生支援ユニットリーダー）、三好順平

【活動内容】

1. 学資支援（奨学金制度）の充実を図る

- (1) 日本学生支援機構等の奨学金を利用している児童福祉学科の学生は3月末日時点で2年生の36.1%、1年生の35.1%であった。また、介護専攻科生も23.8%が日本学生支援機構奨学金、介護福祉士修学資金を利用している。
- (2) 真鍋記念特別奨学金受賞者（給付）2年生2名、和泉短期大学父母会奨学金（給付）に0名であった。
- (3) 児童福祉奨学金（給付）の対象学生は、2012年度は2年生4名（1年次申請後継続）、1年生1名であった。児童福祉奨学金の対象となる学生は全員対象者として認められた。
- (4) 和泉奨学金（貸与）に2年生4名であった。
- (5) 今年度、表彰制度も含め、奨学金制度の規約を新しくした。
- (6) 東日本大震災による授業料減免、1年生1名。

2. 学生支援におけるグループ・アドバイザーとの連携強化を図る。

- (1) グループミーティングをチャペルアワー後の時間に設定し、グループ・アドバイザーが、個人面談・学生への支援の機会を多く持てるようにした。
- (2) 学生の様々な問題への対応は、グループ・アドバイザーの個人的努力によるところも大きいが、就職や進路相談などは学生支援ユニットとも協力しながら学生支援ができるよう、連携強化を図った。
- (3) 健康管理センターにおける相談は、個人情報を守りつつ、必要な事柄については、情報

を健康管理センター運営委員会で共有化し、困難な事例発生時に大学として学生に支援できる体制づくりを目指した。

3. キャリアデザインA（学生生活支援）の充実を図る

(1) 1年生にキャリアデザインAの学生部担当として以下の学生生活講演会を開催。

- ① 5月14日「メディアリテラシーについて」(神奈川県警察本部)
- ② 5月21日「健康管理と性感染症について」(西土井看護師)
- ③ 6月18日「薬物依存の危険について」(神奈川県保健福祉部)
- ④ 6月25日「就職・進学について」(学生支援ユニット)
- ⑤ 7月 2日「悪徳商法について」(相模原市企画市民局)
- ⑥ 7月16日「デートDV予防ワークショップ」(NPO法人エンパワメントかながわ)
- ⑦ 12月 6日「メンタルヘルスに関する基礎知識」(福田カウンセラー)
- ⑧ 12月10日「2年生の就職・進学活動体験談」(2年生)

(2) 2年生には同内容を前年度の1年次に実施している。

4. 就職意識の啓発ときめ細やかな就職相談、キャリアデザインB（進路支援）の充実を図る。

(1) 2年生への進路支援

①キャリアデザインB（進路支援講座）を実施

2年生の卒業必修科目として15回開催した。内8回を(株)アートに依頼し、外部講師を招聘して担当いただいた。毎回90%を超える出席状況であった。

②キャリアデザインBの授業内で全2年生を対象に公立保育士採用模擬試験を実施した。

③「進路のてびき」を作成し、2年生・専攻科生に配布。

(2) 1年生への進路支援

①1年生のキャリアデザインA（卒業必修科目）のうち、「就職・進学について」(6月25日開催)と、「2年生の就職・進学活動体験談」(12月10日開催)を進路支援として実施した。

②一般教養試験対策講座を、1年生を対象に9月3日～9月7日の5日間、実務教育出版に依頼して実施した。39名が受講。受講料10,500円。

5. 進路支援センターの充実と就職率・就業定着率の向上を図る。

(1) 進路支援センターに、職員3名（村山・三好・金井）が常駐した。

(2) 2012年度卒業生の進路結果（添付資料参照）

①就職希望者の就職決定率は増加（95.4%→97.0%）している。進学者の大半（19名中17名）は本学専攻科介護福祉専攻への進学である。

②内定者の割合は、一般企業と幼稚園への就職者の比率が高い傾向があった。

③求人数：一般企業の求人は増加、幼稚園は減少、保育所・福祉施設は大幅に増加した。

④2年生最後の現場実習が9月初旬から9月末まで行われる為、就職活動の本格的な開始は10月であった。また、専攻科の学生の採用内定は、11月の実習前に内定をもらった学生と、実習後に内定をもらった学生の比率はほぼ50:50であった。

- ④2012年度は、採用内定後の辞退者が10名発生した、近年にない多さであった。研修開始後・2月以降の辞退が8名生じた。
- ⑤内定した学生を対象とした、内定先での研修に関する調査を実施した。

6. 学友会活動（いづみ祭・新入生歓迎会等含む）を支援する

（1）学友会への支援

- ①学友会総会を開催した（4月25日、11月2日）。4月25日では、予算案と活動計画について審議され、11月2日では、次年度新執行部の承認が行われた。
- ②学友会執行部との連絡会を開催した（2012年4月16日、4月25日、8月2日、8月3日、11月26日、12月10日、2013年1月7日、2月28日）。今年度からグループ委員が自動的に学友会役員となり、執行部もその中から選出される体制でのスタートとなった。定期的な会合開催により学友会執行部の密な連携がみられ、震災の影響による前年度組織の活動停滞から、新しく組織を立て直したことで活性化に繋がっていった。
- ③1年生グループ委員を集め、次年度新執行部の選出が行われた（10月22日）。
- ④2012年度執行部と次年度新執行部との打合せ、引継を行った（11月26日、12月10日、2013年1月7日、2月28日）。
- ⑤2号館の改修により、学友会室を現在の2号館から4号館のサークル室へ移動することを検討し実施した（2013年2月28日）。
- ⑥今年度より学生手帳を復活した。

（2）いづみ祭への支援（開催日：10月26日～29日）

- ・いづみ祭の行事には、自主的な活動ができるよう学生委員全員でサポートした。
- ・いづみ祭の打ち合わせ会（8月2日、3日）、直前の職員との打ち合わせ会（10月12日）を実施し、いづみ祭への支援、及びいづみ祭期間中の安全指導について話し合われた。また、来年度に向けての反省会を11月12日に行い、今年度の反省、及び来年度の課題について話し合いがなされた。

（3）新入生歓迎大会への支援（開催日：4月4日）

- ・新入生歓迎大会を4月4日に実施した。前年度大会は、震災の影響から中止されたため、2011年度後期より学生役員と何度も話し合いを持ち、内容について検討した。その結果、年々引継いできたプログラムを一新、名称も「新入生歓迎レクリエーション大会」から「新入生歓迎大会」に変更して行うこととなった。グループごとに新入生と2年生合同の食事会と壁面制作を行い、体育館をメイン会場にして壁面制作の発表が行われた。

7. 学生のマナー向上の取り組みを学友会と共に進める

（1）マナー向上に関して

- ・学生のマナー向上に関して、授業がうるさいなどの苦情が学生からもあり、今年度より新たに学生FD委員会を設置し、教務委員会と学生FD委員会が協力し改善することとなった。

8. 学生の課外活動を支援する

（1）課外サークルへの支援

- ・2012年度の課外サークルは、ボランティアサークル、軽音サークル、ダンスサークル、フットサルサークル、硬式テニスサークル、バスケットボールサークル（女子）、男子バスケットボール部、バレーボールサークル、日本文化研究サークル、K-POPサークルの10団体が登録され、より良い活動が実施された。
- ・「第47回全国私立短期大学体育大会」参加結団・ユニホーム贈呈式が、7月25日（水）、和泉クラーク・ホールにて、教職員、在学生、大会に臨む各サークルの選手が参加して行われた。
- ・8月6日（月）から8月9日（木）にかけて開催された「第47回全国私立短期大学体育大会」に本学課外サークルの中から、女子卓球（初出場）、女子硬式テニス（初出場）、男子バドミントン（初出場）、女子バレー（2回目）、女子バスケットボール（4回目）、男子バスケットボール（3回目）の6団体が参加し、熱戦を繰り広げた。
- ・バドミントン男子シングルスにおいて、児童福祉学科1年の学生が3位入賞を果たした。
- ・開会式では、昨年、女子バスケットボールBブロックを制した際の優勝杯を、バスケットボールサークル部長より返還し、交換に記念の盾を受取った。

（2）卒業パーティーへの支援

卒業パーティー開催の有無について学生役員との話し合いを持ち、その結果、今年度は中止とし、各グループでの自主的な活動に任されることとなった。来年度以降、開催の有無を含める開催方法、内容について検討が必要である。

（3）海外研修について

2012年度は計画がされなかった。

9. 健康管理センターを充実させる

（1）2012年度健健康管理センター委員会組織

2011年度より学生部の下に学生相談室と保健室を置き健康管理センターとし、健健康管理センター委員会を運営している。

健健康管理センター委員：佐藤守男学生部長（室長）、村山徳淳（学生支援ユニットリーダー）、
戸塚恵子准教授、福田知子（相談室カウンセラー）、坂本きよか（看護師）、西土井広美（保健師・5月末まで勤務）、渋谷智子（看護師・6月より勤務）以上6名

（2）健康管理センター運営委員会を全11回開催

4/18、5/30、6/20、7/11、9/12、10/17、11/7、12/5、1/9、2/6、2/27

（3）2011年度より学生相談室を、1号館1階の保健室に隣接する部屋に移し、保健室と学生相談室の連携の強化を図れるようにしている。

（4）学生相談室

開室日時：水曜日・木曜日 9時30分～17時30分

担当 当：福田知子相談室カウンセラー

学生利用：延べ40名（前年度56名）

○学生・教職員への広報活動の充実化に努力した。

①全在校生に「毎月の開室日時」を定期的に携帯メールにて配信。

- ②キャリアデザインAの中で福田カウンセラーから学生相談室の紹介を行い、「学生相談室利用の手引き」配布。
- ③「健康管理センター 学生相談室ニューズレター」を2回発行し、全学生・全教職員に配布し広報活動に役立てた。

(5) 1号館保健室

開室日時：平日10時10分～16時00分（授業期間中、行事開催日のみ）

担当 当：西土井広美保健師（月・火・木・金曜日、5月末まで勤務）

坂本きよか看護師（水曜日、5月まで。月・木曜日、6月より）

渋谷智子看護師（火・水・金曜日、6月より勤務）

利用者：延べ利用回数832件（前年度1300件）

○「保健室だより」を発行し、夏バテ予防、ストレス対策、インフルエンザ等の感染予防の呼びかけなど保健指導も充実を図った。また、保健室で健康管理以外の相談をしている学生が多く見受けられ、一部は学生相談室でのカウンセリングに誘導した。

(6) 4号館（体育館）保健室

開室日時：水・木曜日（5月まで）、火・金曜日（6月から）

10時30分～16時00分（授業期間中、行事開催日のみ）

担当 当：坂本きよか看護師

利用者：延べ169名（前年度243名）

○坂本看護師には学校心理士として「心と身体の健康相談」を担当してもらった。

10. その他

(1) 学内オリエンテーションの実施

学生向けの学内オリエンテーションを前期・後期の授業開始前に、各部の案内と事務手続きを中心に行なった。

(2) 避難防災訓練の実施

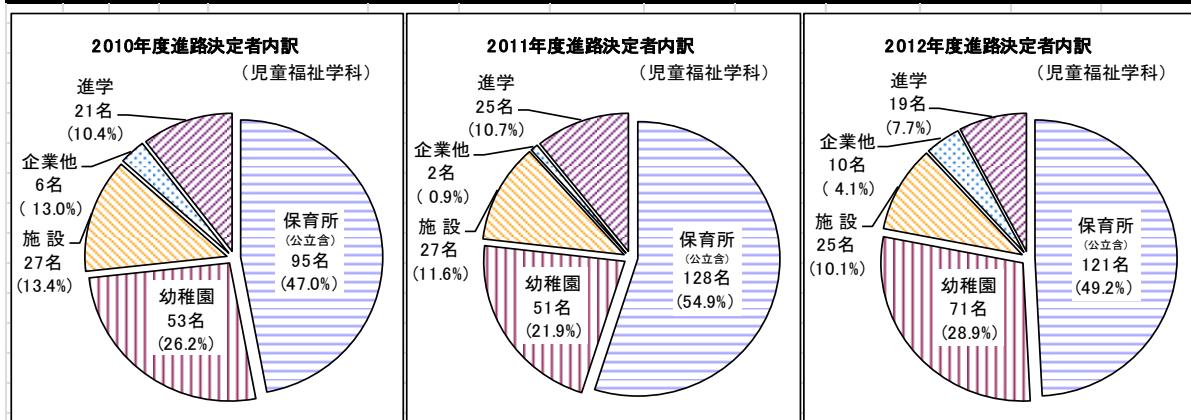
市消防署緑ヶ丘分署の協力により避難訓練を5月7日(月)に実施した。全1年生並びに専攻科学生の防災の理解を深めた。また、青葉二丁目自治会からの参加もあり、AEDの使用説明も具体的に行われた。

(3) 普通救命講習Ⅲの実施

希望者（学生48名、教員3名）による普通救命講習Ⅲが体育館にて行われた。好評につき来年度も実施する予定。

2010～2012年度 進路状況

		2010年度(3月31日)			2011年度(3月31日)			2012年度(3月31日)			
		(非常勤・臨時採用含む)			女	男	計	女	男	計	
		卒業者数	220	9	229	245	22	267	248	19	267
児童福祉学科生進路状況	就職・進学希望者	就職・進学希望者数	205	8	213	225	18	243	238	16	254
		進路決定者数	194	8	202	216	17	233	231	15	246
		保育所(公立含む)	91	4	95	123	5	128	117	4	121
		幼稚園	53	0	53	50	1	51	71		71
		施設	23	4	27	17	10	27	15	10	25
		乳児院									
		児童養護	(5)	(1)	(6)	(5)	(2)	(7)	(2)	(3)	(5)
		知的障がい	(16)	(3)	(19)	(11)	(4)	(15)	(11)	(5)	(16)
		肢体不自由	(1)		(1)						
		重症心身							(1)		(1)
		高齢者	(1)		(1)	(1)	(4)	(5)	(1)	(1)	(2)
		その他							(1)		(1)
		一般企業他	6	0	6	2	0	2	10	0	10
		進学	21	0	21	24	1	25	18	1	19
		決定率(%)	94.6	100.0	94.8	96.0	94.4	95.9	97.1	93.8	96.9
専攻科生進路状況	未決定者数	未決定者数	11	0	11	9	1	10	7	1	8
		その他	15	1	16	20	4	24	10	3	13
		修了者数	22	4	26	23	2	25	20	1	21
		就職・進学希望者数	19	4	23	21	2	23	19	1	20
		進路決定者数	19	4	23	20	2	22	18	1	19
求人内訳	保育所	保育所(公立含む)	3	0	3	10	0	10	8	0	8
		幼稚園	2	0	2	1	0	1	2	0	2
		施設	14	4	18	9	2	11	8	1	9
		内訳									
		知的障がい他	(2)		(2)	(3)		(3)			
		高齢者	(12)	(4)	(16)	(6)	(2)	(8)	(8)	(1)	(9)
		一般企業他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		進学	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		決定率(%)	100.0	100.0	100.0	95.2	100.0	95.7	94.7	100.0	95.0
		未決定者数	0	0	0	1	0	1	1	0	1
		その他	3	0	3	2	0	2	1	0	1



2013.3.31. 学生支援ユニット

図書委員会活動報告（2012年度）

【概要】

本年度の活動において重点目標としたのは以下の10点である。

- ①特設展示の充実（新着図書紹介・各種特集図書の別置・パネル展示など）、②蔵書の充実（2012年重点項目：旅行ガイド関連資料）、③図書館利用者サービスの向上（視聴覚資料の検索の電子化など）、④図書館利用者のモラル向上を促すための環境整備（掲示・声かけ・他媒体利用検討）、⑤図書館ホームページの拡充（図書館報の発展的解消としての新規項目）、⑥図書館主催の講習会の検討（パネルシアターの会の実施・他）、⑦研究紀要発行に関する検討（規約見直し・確認シートの作成・版等）、⑧研究紀要の電子化の検討、⑨入学前教育への対応（開催日の開館、入学予定者への図書の貸出など）⑩地域への対応（子育てセンター利用者などの利用検討）

【組織】

図書館長（井狩）、学術情報ユニットリーダー（深町）

【活動内容】

1. 特設展示の充実

応接セット横に回転書架を設置し、身近な話題の読み物を手軽に手に取ることができるようにした。昨年に引き続き、入り口近くの図書館展示用ネットディスプレイ2台を利用してテーマ毎の図書の展示に努めた。また、本年度、初めてビブリオバトルを学生ホールで開催した。発表者4名（うち1名は当日欠席）で、発表された3冊を入り口のネットディスプレイに特別展示した。

他機関から送付の情報も引き続き2台のパンフレット架に展示することで、情報発信提供に活用した。

時節毎に、特定の目的の本を1ヶ所にまとめ、利用者が本を探すまでの利便性を図った。

館内の展示ケースを使用して、「パネルシアター」「エプロンシアター」の各企画展示を行った。

大型紙芝居舞台2台（附属トートバック2枚）、オリジナル紙芝居舞台5台（附属トートバック5枚）、拍子木5点を購入し、各1台については存在が分かりやすいように大型絵本のコーナーに展示了。また、あおむし人形3点、卓上イーゼル（大型絵本用）2点も購入した。

2. 蔵書の充実（旅行ガイド関連資料）

本年度は、情報が古くなってしまった旅行ガイド関連資料の入れ替えを重点的に行った。国内外67冊を新規購入した。新規購入した旅行ガイドについては、目立ちやすく手に取りやすいよう応接セット横に展示コーナーを設けた。

3. 図書館利用者サービスの向上（視聴覚資料の検索の電子化）

昨年度まで視聴覚資料検索の電子化データ入力が完成した。本年度は、視聴覚資料検索アプリケーションを完成し、検索ができるようにした。返却カウンター上にPCを設置し、このPCから検索が行えるようにしている。

書架の配置掲示を分かりやすくするため、突き出し式マグネットサインおよびマグネット式の掲

示板を設置した。

長期貸し出し制度を設けた。教職員に関しては、届出を提出すれば年度内に限って長期貸出できるように規約を変更した。この規約変更によって、例えば、キャリア・デザイン・センター(CDC)に図書館の一部書籍を常置することも可能となった(CDCでの貸出しあり)。

教員から要望のあった、研究費購入資料(着任以降の全資料)の一覧の開示については、蔵書点検終了後に各教員に提示する。

昨年度作られた図書館キャラクター「ヨミタン」を各種掲示資料、しおり等で利用した。

4. 図書館利用マナーの向上に向けた取組み（掲示、声かけ他）

① 館内でのマナー（私語、鞄や飲食物の持ち込み禁止）については、その都度、必要に応じて掲示と口頭で指導をしている。特に、他の学習者・読書者の妨げになる大きな声での私語・談笑に対しては、頻繁に職員が注意を促している。

このような図書館の快適な利用環境の維持、利用者サービスへの取り組みについては「これでいい」というゴールは事実上ないと考えている。今後もこうした地道な努力を続けていきたい。また、幸い今年度は顕著な本の切り取りや盗難などの事案は発生しなかったが、写メール使用については把握できていない。

② 長期末返却者への対応に関する規定の変更を行った。未返却時の対応については、より明示的に対応できるよう規定の変更および対応のマニュアル化を進めている。

5. 図書館ホームページの充実

図書館報が2012年3月に発行した図書館報第24号をもって終刊となつたため、図書館サイトから図書館トピックス（お知らせ）、利用案内、情報探索ツール、館内おすすめコーナーなど様々な情報提供を行えるようホームページを準備した。本格的運用は、2013年度からとなる。

6. 図書館主催の「パネルシアター」の開催

11月17日（土）、図書館主催の「パネルシアター」を開催した。講師は小林雅代氏。当日は、午前28名、午後35名の参加があり、先生があらかじめご用意いただいた教材を使って講習が進められた。参加した学生からは、パネルシアターの技術の取得のみならず、保育者として大切なものを再確認できたとの感想が聞かれた。当日、学生が持参すべき物品について未持参者が多くみられた点については、その伝達方法も含め、今後の課題である。

7. 研究紀要の充実について

今年度の研究紀要は、編集協力者として各部長の協力を得て校閲作業を行い、計12点（論文10点、研究ノート2点）の掲載があった。「和泉短期大学研究紀要編集投稿規程」および、「和泉短大研究紀要原稿作成の手引き」の変更を行つた。尚、長年の検討事項であった版の大きさについて、本年よりA4版となつた。

8. 紀要電子化の検討について

掲載論文の著作権を執筆者から大学に全面委譲して頂くことで、国の進める紀要電子化サービス

が利用可能である。しかし後日執筆者が論文を単行本化する際にも、大学の許可が必要となる仕組みは現実的とは言えず、現在では見送っている。一方、本学自身で紀要を電子化するには相応の費用が必要となるため、継続的に検討を続けている。教授会で来年度課題とすることを確認した。

9. 入学前教育への対応（開催日の開館、入学予定者への図書の貸出など）

本学では入学予定者は正規の図書館利用者として規定しているので、館外貸出も可能なだけだが、実際は入学前教育プログラムの当日しか図書館に来られないため、館内閲覧のみの利用（今年度は0名）となっている。

利用を促進するためには、教務委員会との連携が必要であり、入学前教育プログラムの内容と図書館利用をリンクさせるなど方策を提案していきたい。

10. 地域への対応（子育てセンター利用者などの利用検討）

光が丘公民館の読み聞かせ絵本の会用に絵本の貸し出しを行った。

なお、通常の CDC 利用者への一般的な貸し出しは行わないこととした。

11. その他

< 1 > 図書館利用・所蔵資料状況

(1) 利用状況

①年間貸出冊数 合計 7,122 冊

参考：[「日本の図書館 2011」（日本図書館協会刊）による全国短大平均 5,552 冊]

②視聴覚（AV）ルーム／視聴覚（AV）ブース／共同研究室利用状況（カッコ内：前年度）

視聴覚（AV）ブース	1 年生	271 人 (110 人)	合 計 377 人 (188 人)
	2 年生	103 人 (77 人)	
	専攻科	3 人 (1 人)	
視聴覚（AV）ルーム	1 年生	362 人 (208 人)	合 計 190 組 621 人 (120 組 458 人)
	2 年生	242 人 (242 人)	
	専攻科	17 人 (8 人)	
共 同 研 究 室	1 年生	257 人 (23 人)	合 計 133 組 357 人 (13 組 43 人)
	2 年生	100 人 (20 人)	
	専攻科	0 人 (0 人)	

(2) 購入希望・予約（リクエスト）受付件数 合計 73 件

購入希望受付件数	予約受付件数
71 件	85 件

(3) コピー機の利用

合計 4,891 枚

	前 期	後 期	年 間 合 計
学 生	1,764 枚	2,688 枚	4,452 枚
教 員	366 枚	73 枚	439 枚
合 計	2,130 枚	2,761 枚	4,897 枚

(4) 市民等利用・相互利用等

市内大学・公共図書館の相互協力協定による一般市民の図書館利用	0 名
市民大学受講生の図書館利用	0 名
相互協力（他機関へ依頼：159 件・他機関から依頼：4 件）	163 件
和泉プレカレッジ受講生の利用	0 件

(5) 所蔵資料状況

①図書受扱状況

合計 67,243 冊
(単位：冊)

	資 産 図 書	資産外図書(うち紙芝居)	非購入図書	合 計
2012 年度当初	37,834	22,390 (934)	6,332	66,556
受 入	431	870 (12)	25	1,326
除 簿	230	383 (0)	26	639
2012 年度末計	38,035	22,877 (946)	6,331	67,243

参考：「日本の図書館 2011」（日本図書館協会刊）による全国短大平均値：65,000 冊

②逐次刊行物受入状況（タイトル数）寄贈含む

合計 310 タイトル

資 料 形 態	新 聞	和 雜 誌	洋 雜 誌	研 究 紀 要
タ イ プ ル 数	14 紙	114 誌	2 誌	180 誌

③視聴覚（A V）資料所蔵状況

合計 2,058 点

資 料 形 態	レコード	カセット	C D	ビ デ オ	レーザーディスク	D V D
所 蔵 資 料 数 (2011 年度受入数)	230 点 (0 点)	21 点 (0 点)	536 点 (6 点)	507 点 (0 点)	211 点 (0 点)	553 点 (5 点)

<2> 図書館主催イベントと、年間貸出数について

毎年行っている図書館行事（本年度はパネルシアター）とは別に、初めての試みとしてビブリオバトルを行った。

また、同様に初めての試みとして、クリスマスの抽選会を行った。これは雑誌に附属しているシールやカレンダー、バッグ等の付録を1年間貯めておき景品として抽選会を開くもので、抽選券の配布は、12月に本の貸し出しを行ったものを対象とした。

さまざまなイベントなどがどのように影響を与えたかについて詳細に分析できていないが、年間貸出数は、ほぼ 500 冊程度増加した。

< 3 > 図書館アルバイト

学生の力を借りる事業として、2011 年度までは年度末の蔵書点検に学生アルバイトを利用していた。この蔵書点検以外の活動として、本年度より、「1 日 1 時間・2 人組み(週 2 日)で、夕方を中心とした時間帯に、配架および蔵書整理等を目的とした学生アルバイト」を開始した。本年度は 2012 年 10 月 9 日から 2013 年 2 月 1 日までの限定期間のアルバイトであったが、日常的な蔵書整理業務の補助を担う点で有効性が認められたばかりではなく、学校と学生を繋ぐ事業の一環として有効であることが確認された。

実習・ボランティアセンター委員会活動報告（2012 年度）

【概 要】

1. 実習に関する支援

- (1) 実習施設の選定・連絡・調整
 - ① 実習依頼・実習配属に関わる連絡・調整
 - ② 実習連絡会の実施（年 3 回）
 - ③ センター便り発行と実習先への送付（年 1 回）
- (2) 「保育実習指導 I」「保育実習指導 II」「教育実習指導」の計画・立案
 - ① 授業実施計画の立案
 - ② 外部講師による「実習特別講義」「マナー講座」の計画・実施
 - ③ 実習の事前・事後指導に関わる指導内容の検討及び科目担当者への教材・情報提供
- (3) 実習実施に関わる業務
 - ① 実習登録の受付と配属
 - ② 諸手続への支援（登録カード、実習生調書、腸内細菌検査、実習日誌、実習定期等）
 - ③ 実習巡回指導にかかる連絡・調整。（巡回担当教員の配属、調整等）
- (4) 実習教材・関連資料等の作成及び保管
 - ① 「実習の手引き」の作成、配布
 - ② 実習記録（日誌）の作成、配布
 - ③ 実習関連資料の収集と学生への提供
- (5) 学生の個人情報（実習生調書、巡回指導記録、実習出席票・評価票等）の管理
- (6) インフルエンザ予防接種の実施
- (7) 必要に応じた学生への個別支援
- (8) その他の実習に関わる支援

2. ボランティア活動への支援

- (1) ボランティア募集に関する情報収集と学生への情報提供
- (2) 活動先との連絡・調整
- (3) 活動状況の把握
 - ① ボランティア活動届の受付
 - ② ボランティア活動状況の集計
- (4) ボランティア活動関連資料の収集と学生への提供

- (5) 「ボランティア活動の手引き」の作成、配布
- (6) その他のボランティア活動に関する支援

3. 2011年度の重点課題

- (1) 学生の個別的な状況を配慮した実習実施への支援
 - ① 入学生の多様化、とくに健康面の課題を抱える学生の増加や学力差の拡大等を受け、実習実施・実習指導における学内コンセンサスの形成と、科目担当者との連携強化を図る。
 - ② 必要に応じて、学生相談室・保健室との連携を図り、個別的対応を要する学生の情報を、グループアドバイザーも含めて共有し、対応上のコンセンサスを得る。
- (2) 保育・教職実践演習（幼稚園）の科目担当者との連携を図り、実習教材の共有・キャリアカルテの活用をすすめる。
- (3) キャリアデザインセンターの活用をはかる。
- (4) 実習管理システムの改善に向けた取り組みを行う。
- (5) 学生の個人情報の管理と共に、緊急時の連絡・対応について検討する。

【組織】

実習・ボランティアセンター委員会

櫻井奈津子（委員長）、河合高銳、渡邊瑞穂、吉田耕也、穴井康夫、池田なつみ

【活動内容】

上記事業計画概要に即した活動の内、特記すべき事項について以下に報告する。

1. 実習に関する支援

(1) 実習施設の選定・連絡・調整

① 実習配属

（実習実施者数）

5月				6・7月				9月				2月			
施設 (居住型)		幼稚園		施設 (居住型)		幼稚園		保育所		施設 (通所型)		保育所		幼稚園	
学生 数	施設 数	学生 数	施設 数	学生 数	施設 数	学生 数	施設 数	学生 数	施設 数	学生 数	施設 数	学生 数	施設 数	学生 数	施設 数
125	74	139	86	139	82	125	77	248	158	14	10	271	166	5	5

(事前・途中中止者数)

5月		6・7月		9月		2月	
施設 (居住型)	幼稚園	施設 (居住型)	幼稚園	保育所	施設 (通所型)	保育所	幼稚園
学生数	学生数	学生数	学生数	学生数	学生数	学生数	学生数
2	0	0	4	※5	0	6	1

※2012年4月1日以前の中止者（3科目規定及び特例による取り下げ）は含めず

(巡回指導)

学長を除き専攻科教員を含め全教員が巡回指導を担当。学生の状況により同一施設に複数回訪問したケースを含む。9月保育所実習において、巡回数が施設数を下回っているのは、実習開始早々に実習中止となり、巡回指導を行わなかったもの。

5月				6・7月				9月				2月			
施設 (居住型)		幼稚園		施設 (居住型)		幼稚園		保育所		施設 (通所型)		保育所		幼稚園	
施設 数	巡回 数	施設 数	巡回 数	施設 数	巡回 数	施設 数	巡回 数	施設 数	巡回 数	施設 数	巡回 数	施設 数	巡回 数	施設 数	巡回 数
74	74	86	86	82	82	77	77	157	156	10	10	164	166	4	4

(2013年度実習実施に関わる学生数及び受入施設数予定)

5月				6月				9月				2月			
施設 (居住型)		幼稚園		施設 (居住型)		幼稚園		保育所		施設 (通所型)		保育所			
学生数	施設数	学生数	施設数	学生数	施設数	学生数	施設数	学生数	施設数	学生数	施設数	学生数	施設数	学生数	施設数
132	74	122	76	126	70	134	79	231	147	28	18	299	未依頼		

②実習連絡会の実施（年3回）

		開催年月日		場所				参加者数	
幼稚園実習連絡会		2012年4月25日		小田急ホテルセンチュリー相模大野				29名(28園)	
児童福祉施設実習連絡会		2012年6月13日		"				22名(22園)	
保育所実習連絡会		2013年1月23日		"				32名(32園)	

ほぼ例年通りの参加者を得て、実習における養成校と現場との意見交換が行えた。

③センター便り発行と実習先への送付（2013年3月）

実習連絡会実施状況の報告と、実習特別講義を中心に、実習事前学習の様子を紹介した。

(2) 「保育実習指導Ⅰ」「保育実習指導Ⅱ」「教育実習指導」の計画・立案

①授業実施計画の立案と実行

【2011年度生】(2年次実施授業)

回		授業内容		実習指導				
		A-F	G-L	保育実習		教育実習		
				A-F	G-L	A-F	G-L	
1	3/30	保育実習準備(後半:種別)			(2)			
2	4/9	保育実習準備(施設)			11			
3	4/16	保育実習準備(施設)	教育実習準備	12			11	
4	4/16	保育実習準備(施設)	教育実習準備	13			12	
5	4/23	保育実習準備(施設)	教育実習準備	14			13	
6	4/23	保育実習準備(施設)	教育実習準備	15			14	
5/7~26		保育実習Ⅰ(児童福祉施設)			教育実習(幼稚園)			
7	5/28	施設実習振り返り	教育実習振り返り	(3)			15	
8	6/4	教育実習準備	保育実習準備(施設)		12	11		
9	6/4	教育実習準備	保育実習準備(施設)		13	12		
10	6/11	教育実習準備	保育実習準備(施設)		14	13		
11	6/11	教育実習準備	保育実習準備(施設)		15	14		
6/18~7/7		教育実習(幼稚園)			保育実習Ⅰ(児童福祉施設)			
12	7/9	幼稚園実習振り返り	施設実習振り返り		(3)	15		
13	7/23	保育実習Ⅱ準備①			(4)			
14	7/30	保育実習Ⅱ準備②			(5)			
15	9/3	保育実習Ⅱ準備③			(6)			
16	9/10	保育実習Ⅱ準備④			(7)			
9/18~10/3		保育実習Ⅱ(保育所Ⅱ・施設Ⅱ)						
17	10月	保育実習Ⅱの振り返りと実習の総括			(8)			

【2012年度生】(1年次実施授業)

回	月日	授業内容	実習指導	
			保育実習	教育実習
1	4/16	オリエンテーション（授業の進め方、実習とは、等）		1
2	4/23	保育実習に向けて	1	
3	5/7	先生・先輩からのメッセージ		2
4	6/4	保育所実習準備(保育所&保育実習Ⅱ登録説明)	2	
5	6/11	実習特別講義1(実習を受け入れる立場から:保育所)	3	
6	6/18	保育実習準備	4	
7	7/9	ボランティア活動について		3
8	7/23	保育実習準備	5	
9/10～9/18		ボランティアourke		
9	10/15	教育実習準備(2年次幼稚園実習登録説明)		4
10	10/22	ボランティア体験学習振り返り		5
11	11/5	実習特別講義2(マナー講座①)		6
12	11/12	実習特別講義3(マナー講座②)		7
13	11/19	実習特別講義4(実習生を受け入れる立場から:幼稚園)		8
14	11/26	実習特別講義5(実習生を受け入れる立場から:施設)	6	
15	12/3	保育実習準備(施設実習Ⅰ登録説明)	7	
16	12/10	教育実習準備 【同一保育所での実習生顔合せ】		9
17	12/17	教育実習準備(2年生による実習体験報告)		10
18	1/7	保育実習準備(保育所)	8	
19	1/21	保育実習準備(保育所)	9	
20	1/28	保育実習準備(保育所)【巡回指導担当教員との打ち合わせ】	10	
2/12～2/28		保育実習Ⅰ(保育所) 12日間		
21	3/4	保育所実習振り返り	(1)	

【2012年度生】(2年次授業予定)

回		授業内容		実習指導				
		A-F	G-L	保育実習		教育実習		
				A-F	G-L	A-F	G-L	
1	4/8	保育実習準備(後半・種別)			(2)			
2	4/15	保育実習準備(施設)①			11			
3	4/15	保育実習準備(施設)	教育実習準備②	12			11	
4	4/22	保育実習準備(施設)	教育実習準備③	13			12	
5	4/22	保育実習準備(施設)	教育実習準備④	14			13	
6	4/29	保育実習準備(施設)	教育実習準備⑤	15			14	
5/13~6/1		保育実習 I (児童福祉施設)				教育実習(幼稚園)		
7	6/3	施設実習振り返り	教育実習振り返り	(3)			15	
8	6/10	教育実習準備②	保育実習準備(施設)②		12	11		
9	6/10	教育実習準備③	保育実習準備(施設)③		13	12		
10	6/17	教育実習準備④	保育実習準備(施設)④		14	13		
11	6/17	教育実習準備⑤	保育実習準備(施設)⑤		15	14		
6/24~7/13		教育実習(幼稚園)				保育実習 I (児童福祉施設)		
12	7/15	幼稚園実習振り返り	施設実習振り返り		(3)	15		
13	7/22	保育実習 II 準備①			(4)			
14	7/29	保育実習 II 準備②			(5)			
15	9/2	保育実習 II 準備③			(6)			
16	9/9	保育実習 II 準備④			(7)			
9/17~10/3		保育実習 II (保育所 II・施設 II)						
17	10月末	保育実習 II の振り返りと実習の総括			(8)			

【2013年度生】(1年次授業予定)

回	月日	授業内容	実習指導	
			保育実習	教育実習
1	4/8	オリエンテーション(授業の進め方、実習とは、等)		1
2	4/29	保育実習に向けて	1	
3	5/13	先生・先輩からのメッセージ		2
4	6/3	保育所実習準備(保育所 & 保育実習Ⅱ登録説明)	2	
5	6/24	実習特別講義1(実習を受け入れる立場から:保育所)	3	
6	7/15	ボランティア活動について		3
7	7/22	保育実習準備	4	
9/9～9/17		ボランティアourke		
8	10/7	教育実習準備(2年次幼稚園実習登録説明)		4
9	10/21	ボランティア体験学習振り返り		5
10	11/4	保育実習準備	5	
11	11/11	実習特別講義2(マナー講座①)		6
12	11/18	実習特別講義3(マナー講座②)		7
13	11/25	実習特別講義4(実習生を受け入れる立場から:幼稚園)		8
14	12/2	保育実習準備(施設実習Ⅰ登録説明)	6	
15	12/9	実習特別講義5(実習生を受け入れる立場から:施設)	7	
16	12/16	教育実習準備 【同一保育所での実習生顔合せ】		9
17	1/6	教育実習準備(2年生による実習体験報告)		10
18	1/20	保育実習準備(保育所)	8	
19	1/27	保育実習準備(保育所)	9	
20	2/3	保育実習準備(保育所) 【巡回指導担当教員との打ち合わせ】	10	
2/12～2/27		保育実習Ⅰ(保育所) 12日間		
21	3/3	保育所実習振り返り	(1)	

【2013年度生】(2年次授業予定)

回		授業内容		実習指導				
		A-F	G-L	保育実習		教育実習		
				A-F	G-L	A-F	G-L	
1	4/7	保育実習準備(後半:種別)			(2)			
2	4/14	保育実習準備(施設)①						
3	4/14	保育実習準備(施設)	教育実習準備②				11	
4	4/21	保育実習準備(施設)	教育実習準備③				12	
5	4/21	保育実習準備(施設)	教育実習準備④				13	
6	4/28	保育実習準備(施設)	教育実習準備⑤				14	
5/12~31		保育実習 I (児童福祉施設)		教育実習(幼稚園)				
7	6/2	施設実習振り返り	教育実習振り返り	(3)			15	
8	6/9	教育実習準備②	保育実習準備(施設)		12	11		
9	6/9	教育実習準備③	保育実習準備(施設)		13	12		
10	6/16	教育実習準備④	保育実習準備(施設)		14	13		
11	6/16	教育実習準備⑤	保育実習準備(施設)		15	14		
6/23~7/12		教育実習(幼稚園)		保育実習 I (児童福祉施設)				
12	7/14	幼稚園実習振り返り	施設実習振り返り		(3)	15		
13	7/21	保育実習 II 準備①		(4)				
14	7/28	保育実習 II 準備②		(5)				
15	9/1	保育実習 II 準備③		(6)				
16	9/8	保育実習 II 準備④		(7)				
9/16~10/2		保育実習 II (保育所 II・施設 II)						
17	10月末	保育実習 II の振り返りと実習の総括			(8)			

②外部講師による「実習特別講義」「マナー講座」の計画・実施

1年生を対象に、マナー講座2回、実習先となる現場の職員による講演会を3回実施した。

第1回 保育所 2012年6月11日（月）

講師：松が枝保育園 園長 松本奈津枝氏、苗・もんもん保育園 園長 高橋一枝氏
東平ひまわり保育園 園長 吉川和男氏

第2回 マナー講座I 2012年11月5日（月）

講師：（株）アプロト 石渡みどり 氏

第3回 マナー講座II 2012年11月12日（月）

講師：（株）アプロト 石渡みどり 氏

第4回 幼稚園 2012年11月19日（月）

講師：でんえん幼稚園 主任 西村たま江氏 諏訪幼稚園 教頭 西妙子氏
なかの幼稚園 理事長 中村健氏

第5回 障害者支援施設 2012年11月26日（月）

講師：柿生学園 主任 松下真澄氏、竹の子学園 実習担当 佐藤良美氏、
愛名やまゆり園 地域サービス課課長 永野祐司氏、地域サービス課 ケースワーカー 高野行将氏

③実習の事前・事後指導に関わる指導内容の検討及び科目担当者への教材・情報提供

科目担当教員に対し、毎回の授業における課題・連絡事項等、実習巡回時の対応について作成した資料の発信、ワークシート等の教材・資料の紹介を行い、教員間で情報を共有し、共通理解を得て実習指導に当たれるように努めた。

（3）実習実施に関わる業務

①実習登録の受付と配属

実習登録前の時期に資料閲覧や相談のために実習・ボランティアセンターを訪れる学生が集中し、十分な準備ができないとの要望を受け、実習登録説明後の閲覧期間を延長した。従来登録期間を4日間も受けていたが、現実的には最終2日間に登録が集中するため、登録期間を3日間に短縮した。

②実習巡回指導にかかる連絡・調整。（巡回担当教員の配属、調整等）

特任教授・専攻科教員も加わり、専任教員20名が実習巡回を担当した。

（4）実習教材・関連資料等の作成及び保管

①「実習の手引き」 実習記録（日誌）の作成、配布

実習毎に異なる記録様式について、共通項目については統一した記述を図った。

②実習関連資料の収集と学生への提供

実習先から新たな資料（パンフレット等）を送付していただき、実習関連資料の充実を図った。これまで配属先の一覧表については、閲覧室テーブルにおいて自由に閲覧できるようにセットしていたが、そのうちの1冊が紛失したことと、コピー・撮影禁止等のルールを徹底するために、ファイルを貸出制にした。

(5)その他

医療法人相和会の協力を得てインフルエンザ予防接種を実施し、100名が接種。（教職員含まず）

2. ボランティア活動への支援

(1)ボランティア募集に関する情報収集と学生への情報提供

種別	2012年度 ボランティア活動件数				
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	合計
保育所	7	82	5	1	95
幼稚園	1	24	8	0	33
子育て支援	59	46	65	12	182
学童・児童館	0	12	0	0	12
障がい児・者施設	7	71	3	2	83
児童養護施設	16	15	1	0	32
高齢者	0	47	0	0	47
その他	4	46	34	7	91
合計	94	343	116	22	575

3. 2012年度の重点課題

(1)学生の個別的な状況を配慮した実習実施への支援

グループアドバイザーとの情報交換を密に行い、学力の格差、健康状態などから個別的対応を要する学生の情報を共有しながら、実習実施に向けた支援を行った。

(2)保育・教職実践演習（幼稚園）の科目担当者との連携

お互いの時間的余裕のなさもあり十分とはいえないが、定期的なキャリアカルテの点検、実習教材として他科目で取り組みファイリングした資料の活用等を図った。

(3)キャリアデザインセンターの活用

キャリアデザインセンターに赤ちゃん人形を常設し、実習前には「直前対策講座」を開講した。

4. その他

(1)実習・ボランティアセンターに関する学生の意見を聴取するためにアンケート調査を実施し、掲示等の改善を図った。

(2)保護者対応

麻疹予防接種に関する相談(1件)、実習先の勤務シフトに関する苦情対応(1件)

5. 次年度の課題

2年次前期の過密な実習スケジュールへの対応策として、2014年度生からの実習時期の見直しを検討する。

6. 2012年度教授会への審議提案事項・承認事項

(1)2013年度実習連絡会開催日程の決定（2012年6月27日定例教授会）

(2)2014年度現場実習日程の決定（2012年6月27日定例教授会）

2012年度のボランティア活動届けの提出件数は、575件であった。例年と同様の傾向として、夏季休暇中とボランティア・ウィーク期間（9月）に活動が集中しているが、年度後半は、いずみ祭・1年生の保育実習・2年生の就職活動と研修等と重なるため、活動件数は減少している。なお、活動件数は3年連続で増加しており、学生の継続的な参加に加え、活動届け提出の周知も一つの要因と思われる。ただし、全ての活動を把握するには至っておらず、今後も継続的に活動届け提出を呼びかけていく。

【概要】

キリスト教精神によって建てられた本学で、保育・福祉・教育の担い手を目指して学ぶ学生が、建学の精神である「愛と奉仕」を実践する者へと成長することを願いつつキリスト教活動を開いた。

【組織】

2012年度の宗教委員会は、横川剛毅（委員長、宗教部長）、伊藤忠彦（チャップレン・学長）、山本美貴子（委員）、佐藤美紀（委員）、平塚豊（庶務ユニットリーダー兼施設ユニットリーダー）、田中孝一（庶務ユニットサブリーダー）、今泉治子（庶務ユニット主任）によって運営された。

【活動内容】

1. 年度聖句

年間のキリスト教活動の中心に据える聖句として年度聖句を決め、学園報および毎週のチャペルアワーのプログラムに掲載した。

2012年度聖句「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」
(テサロニケの使徒への手紙 I 5章 16~18節)

2. チャペルアワーおよび特別礼拝

毎週月曜日の午前 10 時 40 分から、和泉クラーク・ホールにおいてチャペルアワー（学内礼拝）

をお捧げした。

月日	タイトル	説教・奨励者 (敬称略)	月日	タイトル	説教・奨励者 (敬称略)
4/9	「空しさを越えて」 *イースター礼拝	須田拓	10/8	「隣人を自分のように愛しなさい」	伊藤忠彦
4/16	「関係の中にこそ」	坂根彩音	10/15	「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である」	片山知子
4/23	「神に生かされ、生きる」 *創立記念礼拝	深町正信	10/22	「あなたの心にサービスの灯を」	井狩芳子
5/7	「何事にも時がある」	伊藤忠彦	11/5	「多くの証人に囲まれて」 *召天者記念礼拝	伊藤忠彦
5/14	「おててをあわせて めをとじて」	山本美貴子	11/12	「自分の弱さを知る」	武石宣子
5/21	「では、私の隣人とは、誰ですか」 —善いサマリア人の譬から—	木村治男	11/19	「天地の創造」	佐藤守男
5/28	「安心に満たされて」 *ベンテコステ礼拝	辻川篤	11/26	「大切な人を大切にするクリスマス」 *クリスマスツリー点火祭	横川剛毅
6/4	「きぼうに よろこびを かさねながら」	長山篤子	12/3	「小さなものの友であるイエスさま」	福永典子
6/11	「待ち続ける神」	中西理恵	12/10	「尊かれて」	長山篤子
6/18	「人を支える人となるために」	鈴木敏彦	12/17	「あなたもマリア」 *クリスマス礼拝	鈴木宏子
6/25	「たとえ全てを失っても」	須田拓	1/7	「いとしの人へ」	松浦浩樹
7/2	「愛はいつまでも残る」	大三島義孝	1/21	「あなたはどこに立っているのか」	横山望
7/9	「見えないけれど、大切なもの」	櫻井奈津子	1/28	「どんなことにも感謝しなさい」 *後期終了感謝礼拝	伊藤忠彦
7/16	「弱さを誇る」	横川剛毅	3/14	「愛と奉仕の精神に生きる」 *卒業・修了感謝礼拝	深町正信
7/23	「隣人の弱さを担う一バック・アップの精神ー」 *前期終了感謝礼拝	伊藤忠彦			

3. 対外献金

チャペルアワーおよびクリスマス礼拝における献金、東日本大震災義援金、いずみ祭での募金（総額：220,000 円）を、チャイルド・ファンド・ジャパンのスポンサーシッププログラムへの参画と、全国の児童福祉施設等への支援を目的として下記の諸団体に献金した。

(NPO) チャイルド・ファンド・ジャパン	東京都杉並区・「スポンサーシッププログラム」
(社福) カナンの園	岩手県一戸町・障害児入所施設「奥中山学園」
(社福) 仙台キリスト教育児院	宮城県仙台市・児童養護施設「丘の家子どもホーム」
(社福) 牧人会	福島県西郷村・障害児入所施設「白河めぐみ学園」
(社福) 春濤会	千葉県市川市・障害児入所施設「八幡学園」
(社福) 賛育会	東京都墨田区「さんいく保育園清澄白河」
(社福) 基督教児童福祉会	東京都町田市・児童養護施設「バット博士記念ホーム」
(社福) 朝陽学園	東京都三鷹市・児童養護施設「朝陽学園」
(社福) ひかりの家	山梨県西八代郡・児童発達支援センター「ひかりの家学園」
(社福) 一羊会	静岡県牧之原市・児童発達支援センター「つくしの家」
(社福) 名古屋キリスト教社会館	愛知県名古屋市・「南部地域療育センターそよ風」
(社福) 汀会	滋賀県東近江市・障害者支援施設「止揚学園」
(社福) 聖和共働福祉会	大阪府大阪市・「大阪聖和保育園」
(社福) 東光学園	大阪府堺市・児童養護施設「東光学園」
(社福) 大阪水上隣保館	大阪府島本町・児童養護施設「遙学園」
むぎのこ後援会	北海道札幌市・児童発達支援センター「むぎのこ」
児童養護施設ホザナ園後援会	埼玉県さいたま市・児童養護施設「ホザナ園」
社会福祉法人慈愛寮を支える会	東京都新宿区・婦人保護施設「慈愛寮」
(学法) 横浜訓盲学院	神奈川県横浜市「横浜訓盲学院」
(学法) 聖坂学院	神奈川県横浜市・特別支援学校「聖坂養護学校」
(社団) キリスト教保育連盟	東京都新宿区・「災害援助献金」
(社団) キリスト教保育連盟	東京都新宿区・「クリスマス献金」
日本基督教団事務局	東京都新宿区・「日本基督教団東日本大震災救援対策本部」
キリスト教学校教育同盟	東京都新宿区・「東日本大震災による被災生徒支援」
(NPO) アフガン難民救援協力隊	埼玉県北本市・「アフガンの子どもたちの教育・医療支援」

4. 新入生研修会

2012年4月7日（土）に、シンガーソングライター 岩渕まこと 氏をお迎えして講演コンサートを開催した。その後グループ討議、閉会礼拝を通して、二年間の学びの礎を築くことを目指した。

5. ウェルカムパーティー

4月18日（水）、チャペル委員、ハンドベル履修者、I.C.Fと学生聖歌隊メンバー及び関心をもっている学生を対象として、宗教部として歓迎と勧誘を目的とした昼食会を開催した。

6. I.C.F（和泉クリスチヤン・フェローシップ） 9名（1年生6名、2年生3名）

（1）定例会

毎週火曜日昼休みに、共に食事し、讃美と祈り、交わりの時をもった。

（2）活動

聖書をテーマとして、ペーパーサート「善きサマリア人」を、クリスマスツリ一点火祭（11月26日）、はっぴいクリスマスコンサート（12月8日）発表した。

（3）奉仕

相模大野駅頭にて、子ども虐待防止オレンジリボンキャンペーン（11月8日）に参加し、リボン配布を行った。

（3）クリスマス会

クリスマス会（12月8日）、2年生を送る会（3月5日）

7. 学生聖歌隊 19名（1年生9名、2年生10名）

（1）練習

- ・ 定期練習：毎週水曜昼休み
- ・ 集中練習：（9月4日、9月5日、9月6日、11月2日、11月9日、11月16日、11月30日、12月4日、12月7日、3月4日、3月13日）

(2) 活動

① 学内のチャペルアワーおよび式典等における讃美

- ・ 入学式・イースター・創立記念・前期終了礼拝・召天者記念・ツリ一点火祭・クリスマス礼拝・後期終了礼拝・入学期前教育終講式・卒業感謝礼拝・学位授与式にて讃美。

② クリスマスコンサート 12月8日（土）

- ・ 「子育てサロンはっぴい」との共催で、ハンドベルクワイヤー・サークル等と共に、地域の子育て家族を対象とするクリスマスコンサートで演奏。

③ 親睦会など

- ・ 新2年生親睦会（4月20日）・2年生実習終了祝と1年生歓迎昼食会（7月11日）・聖歌隊親睦会（9月6日）、クリスマス昼食会（12月7日）・聖歌隊お別れ会（3月13日）

8. 宗教部便り

3月に「宗教部便り」（第45号）を下記の内容で発行した。

- (1) 「聖霊という親心」 理事長 深町正信
- (2) 「どんなことにも感謝しなさい」 チャプレン・学長 伊藤忠彦
- (3) 「チャペルアワー報告」 宗教部長 横川剛毅
- (4) 「チャペルアワー等献金の報告」 宗教委員会
- (5) 「ハンドベルで心に残った事」 二年 加賀谷沙織
- (6) 「ICF（ペーパーサート）」 二年 橘川理菜
- (7) 「学生聖歌隊」 二年 大國はるか
- (8) 「チャペル委員」 二年 佐藤芽依
- (9) 「2012年度学生活動表」

【概要】

2012年度の本委員会の活動は、近年の短期大学及び保育士養成課程を取り巻く厳しい環境のなか、本委員会の役割の重さを各委員が常に念頭に置きながら展開された。本委員会では、年度当初に下記の5点を委員会が取り組むべき重点項目として策定した。

1. オープンキャンパス参加者の増員及び参加者の志願率向上

全学的な取り組みとして実施されたオープンキャンパス（以下、OCと略記する）は、2012年度においては、1,385名（前年比42名減）の参加者であった。参加者からのアンケートによると比較的満足度は高く、複数回にわたり参加する者も多数いた。

2. ウェブサイトの充実

2012年度は、ホームページをスマートフォンからの閲覧を可能にした。また、更新頻度を高めた結果、本学のウェブサイトは多くの閲覧がなされた。次年度は、新たにホームページ上に和泉短期大学フェイスブックを開設し、学内外の情報を広く収集し、内容の充実した情報を発信していくことしたい。

3. 高校訪問及び模擬授業の積極的な取り組み

2012年度においても、高校訪問及び模擬授業については、全教職員による取り組みがなされた。ウェブサイトの利点（本学の情報をより広く多人数に届けることができる）もある。一方で、学生の通学圏域の縮小が見られる本学においては、高校訪問や模擬授業等により受験生や高校教員との「フェイス・トゥ・フェイス」の関係を築くことは重要である。次年度以降も更なる充実が望まれる。本年度も、従来の「進学懇談会」に加え、相模原市内の高等学校の家庭科・福祉関係科目担当教員を対象とした「家庭科・福祉関係科目担当教員懇談会」を開催し、高等学校への情報発信の充実及び専門教育としての学びの場として研修を行った。

4. 近隣養成校の動向の総合的な把握

前年に引き続き、フォーマル、インフォーマルな形態により近隣養成校の動向に関する情報収集を行った。学校法人の情報公開が求められているが、保育士養成各校は、志願者減の中、むしろ積極的な情報公開を行わなくなってきており、情報収集の困難さは増しつつある。引き続き、近隣校に関する情報収集の強化とともに、福祉・保育・幼児教育等の国政・自治体政策動向等についても情報収集を図ることが肝要である。

5. 入学試験の適正実施

2012年度もすべての入試において、学内外への適切な情報の周知、十分な準備作業を行い、入学試験の公正な実施がなされた。また、教職員一丸となった入試広報活動が功を奏し、志願者407名、入学者293名を得ることができた。2013年度入試の大きな特徴は、前年度飛躍的に増加したiAO入試の志願者数の維持である。指定校推薦は、若干減少したものの入学者の割合は高い水準であった。この結果、iAO入試、指定校推薦での受験者が84.2%以上を占めることとなった。また、公募推薦の志願者も微増となった。受験の早期化が進行する中で、今後もiAO入試、指定校推薦の充実を目指す必要がある。さらに、多様な入試機会の提供に向けた検討も鋭意実施していく必要がある。

【活動内容】

2012年度事業計画の実施状況は、以下の通り、I. 広報関係と、II. 入試関係に分かれている。

I. 広報関係

(1)学園報・便りの発行

2012年度は、「izumi NEWS」が年4回発行された。本学からの情報発信の強化に努めた。在学生への配布、卒業生、高等学校（神奈川・東京等中心）、キリスト教学校教育同盟加盟校、日本社会福祉教育学校連盟加盟校等に送付した。

(2)学校案内冊子の作成及び充実のための検討

2012年度入学案内は、資料請求者への送付、オープンキャンパス、個別相談会、進学懇談会、プレカレッジ等の場面において利用された。本委員会での作成物等は、下記の通りである。

・入学案内書・出願書類一式	7, 500部作成	2012年5月
・新入生（2012年度生）アンケート調査		2012年4月
・ノベルティーグッズ（クリアホルダー）	2, 000枚作成	2012年5月
・ノベルティーグッズ（不織布トートバック）	2, 000枚作成	2012年5月
・ノベルティーグッズ（ポーチ×1本）	2, 000本	2012年5月
・オープンキャンパス告知ポスター	4, 500枚作成	2012年5月
・首都圏高等学校入学案内書パック	1, 000件発送	2012年5月
・受験生向けグリーティングDM	1, 000枚作成	2012年7月
・受験生向けグリーティングDM	2, 000枚作成	2012年9月
・受験生向けグリーティングDM	500枚作成	2012年12月

(3)進学懇談会およびオープンキャンパスの開催及び充実のための検討

①進路説明会

高等学校の進路指導教諭対象の説明会は、下表の通り開催された。また、さらなる高等学校との関係強化のため、「相模原市内高等学校 家庭科・福祉関係科目担当教員懇談会」を開催した。進路説明会及び市内高校家庭科・福祉関係科目担当教員懇談会への参加校数・出席者は大幅な減少であった。

■進学懇談会（高等学校進路指導教諭対象）

開催日	会場	出席校数	出席者数
2012年5月 7日（月）	和泉短期大学	34校	34名
2012年5月 9日（水）	和泉短期大学	36校	36名
	計	70校	70名

■相模原市内高等学校家庭科・福祉関係科目担当教員懇談会（市内高等学校保育・福祉・家庭科教諭対象）

開催日	会場	出席校数	出席者数
2012年5月28日（月）	和泉短期大学	5校	5名

②オープンキャンパス

受験生及びその保護者等を対象としたオープンキャンパスでは、地方（遠方）からの集客を考え午後の開催とした。開催時期と来学者の動向を勘案し、大学説明、入試説明、学内見学（キャンパスツアー）、個別相談、在学生との対話コーナー（お菓子提供）、模擬授業（下表①～⑩回にて実施、全10講座）、保護者説明等のプログラムを組み合わせて実施した。また、当日の司会進行を学生が行った。参加者数は、1,385名（前年比42名減）であった。参加者アンケートの回答からは、満足度は高いものであった。

回数	開催日	時間	参加者数
①	2012年 5月19日（土）	13:30～16:00	145名
②	2012年 6月16日（土）	13:30～16:00	226名
③	2012年 7月14日（土）	10:30～14:30	222名
④	2012年 8月 4日（土）	10:30～14:30	251名
⑤	2012年 8月22日（水）	13:30～16:00	224名
⑥	2012年 9月15日（土）	13:30～16:00	69名
⑦	2012年10月27日（土）	11:00～14:00	34名
⑧	2012年10月28日（日）	11:00～14:00	44名
⑨	2013年 1月 5日（土）	10:00～11:30	24名
⑩	2013年 3月27日（水）	13:30～16:00	146名
計			1,385名

(4)高等学校内の進路説明会（進学説明・模擬授業）の開催及び充実のための検討

本学教職員が高等学校を訪問して実施される進路説明会（進学説明・模擬授業等）は、162校（前年147校）で開催され、合計3,183名（前年2,227名）の参加者を得た（上期95校・参加者1,361名、下期67校・参加者1,822名）。近年、1学年からのキャリア指導等活発に行われており、参加学年はほぼ全学年に及び、一年を通して実施されている。

(5)市民大学（相模原市・和泉短期大学共催）の開催及び充実のための検討

2012年度の市民大学では、前期「子どもと一緒に暮らし—親だから、悩むこと—」（矢野由佳子准教授、参加者5名）、後期「認知症とケア」（佐久間志保子専任講師、山本正司助教、佐藤美紀助教、参加者44名）を開講した。

(6)高校生の来校見学会の開催及び充実のための検討

2012年度の高校生の来校見学会では、19校296名の来校があった。主に高校1・2年生の見学であるが、次年度以降の学生獲得において重要である。

(7)和泉プレカレッジ（高校生向け模擬授業）の開催及び充実のための検討

高校生向け模擬授業「和泉プレカレッジ」が、相模原市内の指定校高等学校（19校）に参加を呼びかけ、5月19日（土）、6月16日（土）の2回開催された。2012年度は、11校より59名の受講生を得た（前年12校、68名）。

(8)広報戦略の検討

高校生の進路動向や県内保育士養成校の動向、全国的な高等教育の動向等を学内外から広く収集し、広報戦略の検討を図るための取り組みを行った。委員会独自の取り組みとしては、「新入生（2012年度生）アンケート調査」（2012年4月）及び「非出願者（2013年度入試）アンケート調査」（2013年2月）に実施した。

(9)教職員セミナーの開催

新たな事業の実施等により、2012年度は開催されなかった。今後の実施に向けて検討を図りたい。

(10)同窓会との交流

同窓会との交流は、現在のところ行われていない。今後、同窓会との交流・協力関係をさらに緊密にすることが求められる。

(11)その他の広報活動の遂行

- 高等学校との連携の方策として、在学生（82名）による出身高校（東京・神奈川）訪問を実施した。
- 2012年度の広告掲載・看板掲出は、以下の通りである。

広告代理店名	掲載誌等
神奈川県私立短期大学協会	神奈川県の私立短期大学
キッズコーポレーション	首都圏版大学・短大カタログ web サイト「学校ガイド」
さんぽう	短期大学への進路
昭栄広報	進路ノート
進路企画	説明会用ガイドブック
ライセンスアカデミー	進路ナビ、学校紹介ページコンテンツ 大学・短大進路のてびき
リクルート	進学事典、進学辞典（3・4月）、（5・6月）、（7・8月） 進学ネット（インターネット商品）
進路情報ネットワーク	高校生のための進路BOOK
毎日コミュニケーションズ	マイナビ進学（インターネット商品）
教育通信社	進路テキスト進学編
ビー・プライム	デジタルパンフレット制作
ニューアド社	JR 淀野辺駅看板（1年間）
桜栄社	小田急線 相模大野駅看板（1年間）
廣告社	小田急線まど上連合広告・JR 横浜線まど上連合広告（1年間）
神奈川中央交通	バス停正式名称保守管理
日東システム開発	ベスト進学ネット（インターネット商品）
育伸	高校内ガイドブック
タウンニュース	元旦号・名刺広告
神奈川新聞社	元旦・名刺広告

II. 入試関係

(1)各入試（iAO 入試、指定校推薦、公募推薦、専門高校推薦、卒業生・在学生家族推薦、キリスト者推薦、社会人特別選抜、一般）の公正かつ適正な実施

2012 年度の各入試は、公正かつ適正に実施された。2012 年度入試の結果は、別紙の通りである。

短期大学志願者、保育者志願者双方の減少傾向の中、全教職員が十分な協力を図り入試広報活動を行った結果、志願者 407 名、入学者 293 名を得ることができた。

(2)入試戦略（各入試の内容・方法の充実等）の検討

受験者の動向、保育者養成教育のあり方等について十分に吟味し、2013 年度入試は、下記の通り実施することとなった。

入試等種別	試験内容
iAO 入試	・作文（45 分、1 題、タイトルのみ）　・面談シート（30 分） ・面談 A（15 分程度）　・面談 B（自己表現と合わせて 20 分程度） ・書類審査（エントリーシート、調査書）
指定校推薦	・グループディスカッション（45 分） ・書類審査（高等学校長推薦書、調査書、志望動機書）
キリスト者推薦	・個別面接（20 分程度） ・書類審査（調査書、志望動機書、所属教会または牧師の推薦状）
卒業生・在学生家族推薦	・個別面接（20 分程度） ・書類審査（調査書、志望動機書、関係者の卒業・在学証明書）
公募推薦	・作文（60 分、1 題、タイトルのみ）　・個別面接（10 分程度）
専門高校推薦	・書類審査（高等学校長推薦書、調査書）
社会人特別選抜	・個別面接（20 分程度）　・書類審査（志望動機書、経歴書）
一般入試	・作文（60 分、1 題、タイトルのみ）　・個別面接（10 分程度）
特待生制度 (A.成績優秀者・B.経済的困窮者)	・作文（60 分、1 題、タイトルのみ）　・個別面接（10 分程度） ・書類審査（高等学校長推薦書、調査書、志望動機書）

(3)各大学の入試関係データ収集

引き続き、広報戦略の策定のため、他大学の動向等に留意する必要がある。また、大学のみならず、保育・幼児教育・福祉関係行政の動向についても積極的に情報を収集し、入試広報のあり方に反映させることが必要である。

2012年度高等学校進学説明会 結果(短期大学)

回	開催期日	高校名	学年	開催時間	主 催	広報渉外ユニット		
						○:模擬授業		
1	4/13	金	横須賀総合	3	10:50~12:40	ライセンスアカデミー	5	山中
2	4/16	月	藤沢総合	3	13:35~16:00	育伸	8	山中
3	4/17	火	相模原総合	3	9:20~11:50	育伸	13	土橋
4	4/18	水	菅	3	13:20~15:00	進学教育研究社	2	山中
5	4/18	水	横浜総合(Ⅰ部)	3	10:30~12:00	さんぽう	2	栗林
6	4/23	月	麻生総合	3	13:30~15:20	進路企画	8	山中
7	4/23	月	高浜	3	13:25~14:15	進路企画	33	栗林
8	4/24	火	秦野総合	3	12:40~15:30	さんぽう	8	栗林
9	4/24	火	伊勢原	3	13:25~15:15	ライセンスアカデミー	8	山中
10	4/26	木	城郷	3	12:55~15:15	ライセンスアカデミー	8	山中
11	4/27	金	横浜緑園総合	3	13:00~14:30	進路情報ネットワーク	6	山中
12	4/27	金	金沢総合	2	9:55~11:35	教育通信社	19	栗林
13	4/28	土	クラーク記念国際高校	保護者	11:00~13:30	ライセンスアカデミー	6	栗林
14	5/1	火	相原	3	9:55~10:45	昭栄広報	4	栗林
15	5/7	月	横浜南陵	3	11:20~12:40	さんぽう	13	平塚
16	5/7	月	相模原青陵	3	11:00~12:50	ライセンスアカデミー	25	栗林
17	5/8	火	座間総合	3	10:50~12:40	進路企画	15	山中
18	5/9	水	平塚農業	3	13:25~15:15	さんぽう	4	田中
19	5/10	木	荏田	3	14:25~15:55	育伸	4	山中
20	5/10	木	松が谷	3	14:10~16:00	進路企画	12	栗林
21	5/10	木	山北	2	14:25~15:15	ライセンスアカデミー	11	吉田
22	5/11	金	厚木清南	3	12:55~14:15	進路情報ネットワーク	13	栗林
23	5/11	金	横浜緑園総合	2	13:00~14:30	昭栄広報	16	吉田
24	5/14	月	上鶴間	3	14:25~16:15	教育通信社	18	栗林
25	5/14	月	相模田名	3	13:25~15:50	進路企画	18	土橋
26	5/14	月	町田総合	3	10:55~12:45	進学教育研究社	18	山中
27	5/14	月	相模原青陵	3	11:00~11:50	ライセンスアカデミー	20	土橋
28	5/17	木	神奈川総合産業	3	9:30~11:40	ライセンスアカデミー	2	山中
29	5/17	木	神奈川総合産業	2	10:15~11:25	さんぽう	3	栗林
30	5/18	金	横浜清風	3	13:10~15:10	ライセンスアカデミー	4	山中
31	5/22	火	橋本	3	12:00~14:00	ツートップ	19	山中
32	5/23	水	保土ヶ谷	3	9:40~12:00	進路情報ネットワーク	1	山中
33	5/24	木	津久井	3	13:25~15:15	教育通信社	12	山中
34	5/24	木	南	3	15:20~15:50	ライセンスアカデミー	5	栗林
35	5/24	木	相模原総合	2	13:20~15:00	進路情報ネットワーク	41	土橋
36	5/25	金	厚木清南	3	12:55~14:15	進路情報ネットワーク	24	栗林
37	5/25	金	大和東	3	10:10~12:00	育伸	10	山中
38	5/26	土	秦野総合	保護者	14:40~16:00	進学研究社	3	山中
39	5/28	月	生田東	3	11:00~12:40	進路企画	22	山中
40	5/30	水	相洋	3	13:20~15:00	ライセンスアカデミー	3	山中
41	5/31	木	大和南	3	13:25~15:15	ライセンスアカデミー	8	山中
42	5/31	木	綾瀬西	3	13:25~15:15	昭栄広報	7	栗林
43	6/1	金	百合丘	3	11:50~12:40	ライセンスアカデミー	3	山中
44	6/1	金	釜利谷	3	11:50~12:40	進学教育研究社	3	田中
45	6/2	土	向上	1~3	13:30~15:30	高校独自	9	栗林

46	6/2	土	甲斐清和	3	9:40~12:00	ライセンスアカデミー	5	山中
47	6/2	土	武相	3	13:00~14:50	進学教育研究社	1	吉田
48	6/4	月	横浜南陵	3	11:35~12:20	さんぽう	2	山中
49	6/4	月	相模原青陵	3	11:00~11:50	ライセンスアカデミー	8	土橋
50	6/4	月	大井	3	13:25~15:15	さんぽう	5	栗林
51	6/8	金	星槎国際	1~3	10:00~12:00	ライセンスアカデミー	3	栗林
52	6/11	月	大和西	3	12:55~14:45	ライセンスアカデミー	4	山中
53	6/11	月	横浜南陵	2	13:40~15:20	さんぽう	20	栗林
54	6/12	火	上溝	3	14:25~15:05	進路情報ネットワーク	5	曾根
55	6/12	火	二俣川看護福祉	3	14:25~15:15	ソートップ	8	山中
56	6/12	火	釜利谷	2	13:30~15:15	進学教育研究社	12	栗林
57	6/13	水	府中東	2	14:10~15:10	昭栄広報	24	山中
58	6/14	木	横浜南陵	1	13:30~15:20	ライセンスアカデミー	44	栗林
59	6/15	金	蓼科	3	13:30~18:00	さんぽう	1	栗林
60	6/18	月	磯子	3	14:35~15:25	進路情報ネットワーク	3	山中
61	6/18	月	麻溝台	2	13:25~16:15	育伸	10	川上
62	6/18	月	麻布大学附属渕野辺	3	14:25~15:15	さんぽう	6	栗林
63	6/18	月	綾瀬	3	10:55~12:45	進路企画	12	村山
64	6/19	火	上溝	3	14:25~15:05	進路情報ネットワーク	5	曾根
65	6/20	水	八王子実践	3	13:30~15:15	さんぽう	13	山中
66	6/21	木	厚木東	3	14:55~15:40	ライセンスアカデミー	14	曾根
67	6/22	金	瀬谷西	3	12:00~12:50	育伸	2	山中
68	6/22	金	厚木清南	3	13:25~14:15	進路情報ネットワーク	22	栗林
69	6/25	月	日々輝(横浜)	3	10:35~12:45	さんぽう	9	栗林
70	6/26	火	弥栄	2・3	15:40~16:40	高校独自	7	曾根
71	6/29	金	大和商業	2	13:30~15:10	ライセンスアカデミー	7	山中
72	6/29	金	厚木清南	3	13:25~14:15	進路情報ネットワーク	20	栗林
73	7/4	水	日々輝(神奈川校)	3	10:10~11:30	ライセンスアカデミー	7	栗林
74	7/5	木	若葉総合	1~3	13:00~15:00	キッズコーポレーション	67	栗林
75	7/6	金	成瀬	3	14:00~16:00	さんぽう	4	栗林
76	7/6	金	生蘭高等専修	3	12:00~13:00	ライセンスアカデミー	3	山中
77	7/11	水	上鶴間	2	9:50~11:40	昭栄広報	41	山中
78	7/11	水	小川	3	14:10~15:10	ライセンスアカデミー	7	山中
79	7/12	木	小川	2	10:00~11:50	さんぽう	32	山中
80	7/12	木	綾瀬	2	8:55~10:45	ライセンスアカデミー	26	栗林
81	7/12	木	横浜清風	3	13:00~15:00	ライセンスアカデミー	8	栗林
82	7/13	金	上溝	2	10:35~11:35	さんぽう	239	曾根
83	7/13	金	生田東	2	10:30~11:10	教育通信社	13	山中
84	7/13	金	麻生	2	9:50~11:40	教育通信社	19	栗林
85	7/17	火	町田工業	2	10:15~11:20	さんぽう	3	栗林
86	7/17	火	山崎	2	13:30~15:00	昭栄広報	16	山中
87	7/17	火	綾瀬	3	10:55~11:45	進路企画	30	山中
88	7/17	火	相模原青陵	①②③	14:00~15:30	高校独自	18	佐久間
89	7/18	水	旭	3	10:50~11:40	キッズコーポレーション	16	山中
90	7/18	木	相模原青陵	①②③	14:00~15:30	高校独自	18	相馬
91	7/19	木	弥栄	2	12:55~14:25	さんぽう	6	曾根
92	8/30	木	山崎	3	10:00~11:30	さんぽう	6	山中
93	8/31	金	田奈	②	9:30~11:25	育伸	5	矢野・山中
94	9/18	火	大和南	3	15:10~16:40	ライセンスアカデミー	5	山中
95	9/19	水	片倉	3	14:30~16:30	高校独自	4	山中
小計（前期分）							1,361	名

回	開催期日	高校名	学年	開催時間	主 催	広報涉外ユニット		
						○:模擬授業		
1	10/1	月	相模田名	①	13:25~15:15	教育通信社	56	鈴木
2	10/1	月	麻布大学附属渕野辺	3	13:55~15:25	ライセンスアカデミー	7	山中
3	10/9	火	座間総合	1	10:50~12:40	進路企画	39	山中
4	10/24	水	大和南	3	11:20~12:10	ライセンスアカデミー	6	山中・栗林
5	10/26	金	横浜清風	1	14:25~15:15	ライセンスアカデミー	33	山中
6	10/27	土	野津田	1・2	10:45~11:35	さんぽう	25	栗林
7	11/1	木	津久井	2	13:20~15:10	キッズコーポレーション	11	栗林
8	11/6	火	寒川	2	14:30~15:10	ライセンスアカデミー	9	山中
9	11/7	水	向上	②	13:15~15:30	ライセンスアカデミー	28	櫻井
10	11/8	木	川崎	①	14:25~15:25	ライセンスアカデミー	24	鈴木
11	11/9	金	座間総合	③	11:50~12:40	進路企画	34	河合
12	11/12	月	横浜旭陵	2	15:25~16:15	さんぽう	11	山中
13	11/14	水	片倉	①	13:40~14:40	昭栄広報	29	河合
14	11/17	土	横浜清風	1・2	9:20~11:40	昭栄広報	10	吉田
15	11/19	月	相模原青陵	②	11:00~11:50	ライセンスアカデミー	19	鈴木
16	11/21	水	八王子実践	2	13:25~15:15	さんぽう	25	山中
17	11/22	木	秦野曾屋	2	13:25~15:15	ライセンスアカデミー	35	山中
18	11/27	火	上溝	2	15:00~16:00	さんぽう	14	曾根
19	12/6	木	相模原総合	2	13:20~15:10	高校独自	25	土橋
20	12/10	月	橋本	1	9:45~11:25	進路企画	28	山中
21	12/14	金	相模田名	2	10:50~11:40	教育通信社	21	土橋
22	12/14	金	二俣川看護福祉	1・2	14:25~16:15	ソートップ	21	山中
23	12/14	金	厚木北	2	8:50~10:40	ライセンスアカデミー	8	曾根
24	12/14	金	野津田	2	10:20~11:50	昭栄広報	4	吉田
25	12/14	金	茅ヶ崎西浜	2	9:50~11:00	ライセンスアカデミー	15	山中
26	12/18	火	工学院大学附属	②	13:45~15:35	ライセンスアカデミー	20	横川
27	12/18	火	綾瀬	②	9:55~11:45	ライセンスアカデミー	25	鈴木
28	12/18	火	小川	1	10:20~11:50	ライセンスアカデミー	55	山中
29	12/19	水	有馬	2	10:40~12:30	さんぽう	7	山中
30	1/15	火	寒川	①	13:25~14:15	進路企画	12	戸塚
31	1/18	金	横浜緑園総合	1	13:00~14:30	進路情報ネットワーク	37	山中
32	1/22	火	市立川崎	2	9:00~10:00	ライセンスアカデミー	39	山中
33	1/24	木	日本大学第三中学校	2	13:30~15:20	さんぽう	22	山中
34	1/29	火	伊勢原	2	13:25~15:15	ライセンスアカデミー	10	山中
35	1/29	火	秦野総合	①	13:10~14:20	さんぽう	18	横川
36	1/31	木	白山	2	13:40~14:50	進路企画	18	穴井
37	1/31	木	綾瀬西	1	14:35~15:20	ライセンスアカデミー	12	山中
38	2/4	月	横浜南陵	2	13:30~15:20	さんぽう	237	栗林
39	2/8	金	生蘭高等専修	1	14:30~16:00	ライセンスアカデミー	15	山中
40	2/20	水	永山	1	14:15~15:05	ライセンスアカデミー	48	木村
41	2/21	木	横浜学園	2	13:20~15:10	ライセンスアカデミー	2	山中
42	2/26	火	大和商業高等専修	2	14:25~15:10	ライセンスアカデミー	8	田中
43	2/27	水	永山	②	13:15~14:45	進路情報ネットワーク	21	相馬
44	2/28	木	川崎	1	14:30~15:00	ライセンスアカデミー	36	山中
45	3/4	月	日々輝学園	2	10:15~11:40	ライセンスアカデミー	6	栗林

46	3/4	月	光明学園相模原	2	10:00~12:00	昭栄広報	35	曾根
47	3/8	金	愛川	1	9:50~11:40	育伸	29	山中
48	3/8	金	神奈川工業	1	11:00~11:50	ライセンスアカデミー	5	穴井
49	3/8	金	田奈	2	11:00~11:50	育伸	4	栗林
50	3/13	水	町田総合	2	14:25~15:15	昭栄広報	14	山中
51	3/13	水	日々輝学園	1	10:55~11:40	さんぽう	21	山中
52	3/13	水	大和東	2	10:40~12:20	ライセンスアカデミー	13	栗林
53	3/14	木	秦野曾屋	1	9:50~11:40	ライセンスアカデミー	13	山中
54	3/15	金	小川	2	9:30~11:30	さんぽう	14	栗林
55	3/15	金	野津田	1	9:30~11:20	さんぽう	16	田中
56	3/18	月	横浜立野	1	9:50~10:40	進路情報ネットワーク	14	山中
57	3/18	月	麻生	②	9:50~11:40	教育通信社	23	河合
58	3/18	月	麻生	1	10:50~11:40	ライセンスアカデミー	274	栗林
59	3/18	月	町田工業	1	10:05~12:00	さんぽう	17	田中
60	3/18	月	小田原城北工業	2	8:55~10:45	JSCコーポレーション	9	三好
61	3/19	火	上溝	①	10:30~12:00	進路情報ネットワーク	23	山本
62	3/19	火	山崎	2	10:35~11:15	昭栄広報	10	栗林
63	3/19	火	府中西	2	9:00~11:15	さんぽう	2	村山
64	3/19	火	富士森	2	9:40~12:30	進路情報ネットワーク	7	山中
65	3/21	木	城山	2	10:00~11:50	教育通信社	33	川上
66	3/21	木	山崎	①	9:40~11:30	進路情報ネットワーク	39	横川
67	3/21	木	横浜旭陵	1・2	9:50~14:50	昭栄広報	22	穴井
小計（後期分）							1,822	名
総合計（前期分・後期分）							3,183	名

子育て支援プログラム委員会活動報告（2012年度）

2012年度 子育てプログラム運営委員会 活動報告

—子育てひろば「はっぴい」の取り組みを中心に—

1. 2012年度活動状況

(1) 概要

「はっぴい」は専任教員5名、事務職員3名からなる「子育て支援プログラム運営委員会」（以下「委員会」と）と保育支援者1名によって運営され、運営委員の教員が原則として2名ずつ交代で各開催時の責任者となっている。運営委員以外の本学専任教員は、年間で1人1回ずつ「はっぴい」に参加し、教員の専門性を活かした関わりをもっている。

「はっぴい」は、2011年度より新たに開設されたキャリアデザインセンター（以下CDC）にて開催されることとなった。CDC内には、絵本、積み木等の遊具、ままごとコーナーを設けて、遊べる環境を設定している。CDCに隣接する学生ホールに三輪車など子どもが乗って遊ぶ玩具、滑り台を設置し、広いスペースで身体を動かし遊べる環境を作り、自由にCDCと学生ホールは行き来ができる。学生ボランティアが子ども達の安全を見守りながら遊び相手を務めているので、保護者は複数の子どもと一緒に参加していても、それぞれの子どもの興味・関心に応じた遊びが展開

できるようになっている。プログラムによっては、近隣の公園施設、畠等も利用しており、12月に開催される宗教部共催のクリスマスコンサートはクラークホールで行われている。

また、学生ボランティアによる手遊び・絵本・紙芝居・パネルシアターや、教員指導によるリトミック・親子遊び・自然との触れ合いなど、参加者と一緒に楽しむプログラムや親子での「おやつタイム」などを用意している。特に3月には“本物の音楽に触れる体験”としてリコーダー演奏者を迎えて音乐会を開催。(表1)

1	5回	月	目	「	1	こ					
2	6回	月	目	み	1	人					
3	7回	月	目	水	1	込					
4	9回	月	目	お	1	も					
5	1回	0	目	お	月	き					
6	1回	1	目	運	月	重					
7	1回	2	目	ク	月	リ					
8	1回	月	目	正	1	月					
9	2回	月	目	造	1	形					
1	30	月回	「	9	目	大					



(2) 参加者の状況

2012年5月から2013年3月までの「はっぴい」参加者の概要は表2～表3の通りである。

表2 子育てひろば「はっぴい」利用者の家族構成

家 族 構 成	2012年度										合計	平均	
	1回目 5月19日	2回目 6月16日	3回目 7月14日	4回目 9月15日	5回目 10月13日	6回目 11月17日	7回目 12月8日	8回目 1月12日	9回目 2月16日	10回目 3月9日			
母と子ども1名	7	3	13	4	17	4	9	9	14	9	89	48%	
父と子ども1名		1		2	1	1			1	1	7	4%	
母と子ども2名	2	3	2	5	5	6	11	3	4		41	22%	
父と子ども2名		2	8			1	2		1	3	17	9%	
母と子ども3名	2			1			1	1		1	6	3%	
父と子ども3名		1	2	1							4	2%	
母と子ども4名					1						1	1%	
母と子ども5名										1	1	1%	
夫婦と子ども1名	1				2	1	2			1	7	4%	
夫婦と子ども2名	1	3	2	1	1						8	4%	
夫婦と子ども3名					1			1			2	1%	
祖母と孫1名								1			1	1%	
利用家族総数(参加者合計)	13(35)	13(39)	27(72)	14(39)	27(66)	14(39)	25(67)	15(38)	20(45)	16(42)	184(482)		

「母親と子ども」の参加形態が最も多く、「母と子ども1名」の参加が約半数を占めている（表2）。

子どもの年齢	2012年度										合計	平均
	1回目 5月19日	2回目 6月16日	3回目 7月14日	4回目 9月15日	5回目 10月13日	6回目 11月17日	7回目 12月8日	8回目 1月12日	9回目 2月16日	10回目 3月9日		
	0歳児	4	3	7	1	4	2	4	2	3	1	31
1歳児	2	3	9	6	9	6	8	7	9	6	65	24%
2歳児	5	5	7	6	11	2	12	4	1	3	56	20%
3歳児	3	3	9	3	3	8	8	7	9	5	58	21%
4歳児	1	1	2	1	1		1	1	0	0	8	3%
5歳児	4	7	5	4	4	2	2	0	2	0	30	11%
6歳以上	1	1	3	3	3	4	5	1	1	3	25	9%
その他(不明他)	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0%
合 計	20	23	43	24	35	24	40	22	25	18	274	

開催初年度（2006年）からの毎回の参加者数の平均は、2006年133名、2007年80名強、2008年70名弱、2009年63名弱、2010年40名強、2011年34名強である（表4）。

表4 「はっぴい」開設時からの年間平均比較(人)							
	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
利用家庭数	53.3	31.6	27.2	24.6	15.6	13.9	18.4
参加者数	133	80.7	69.8	62.7	40.4	34.8	48.2

参加者数が年々減少傾向にあったが2012年度は再び増加した。その要因には2011年度の試験的実施を経て2012年度開催された毎週木曜日のCDCでの子育てひろば（施設開放）があげられる。午前10時から午後3時まで、事前の申し込みは不要で当日の時間内であれば自由に参加でき、「はっぴい」と同じように保育支援者1名が待機する。そこで参加者が「はっぴい」にも興味を持ち参加する傾向がみられる。

この子育てひろば（施設開放）では学生たちが自然に子どもやその保護者に関わり、積極的に関心を寄せている様子が多々見られる。このことは保育就業力の根底を支える実践となる。このようなかかわりを通じて学生は保護者のニーズを直に感じ取る機会ともなる。保護者がCDCの保育環境・教材（遊具・玩具・絵本）の質の高さを、共感し、強い関心を示している姿を通じて、児童の「文化」を備える・整える・伝えることの意味を、学生が体感している。今後も環境と教材の一層の充実と共に「絵本・玩具 LIBRALY」として親子に対しての貸出への可能性を検討したい。それは利用者の拡大、それに伴う安定的利用が本学の地域貢献ともなると考える。

現在、和泉短期大学ホームページ上にて、「はっぴい」に関する活動PRとして、年間開催予定や活動報告を行っているが、開催当初からの継続家族や、クチコミによる参加家族だけでなく、新規の利用者獲得につながっている。

また、2012年度は10月に相模原市中央区の広報紙から取材を受け、記事として取り上げられ、全戸配布がなされた。12月に行った参加者へのアンケート調査では、地域広報紙による情報の割合が約半数を示している。さらに「はっぴい」への見学等に応じることも地域に周知される機会になると思われる。2012年度は地域広報紙の取材の他、大野地区民生児童委員の研修として見学要請が9月に20名。卒業生の見学が1月に1名（市内実習協力幼稚園からの要請）2月に2名と対応した。

今後も「はっぴい」開催に対する主催者側の理念、活動の目的、様々なプログラムに込められたねらい、「子育て支援」の場としての利用価値について、地域の子育て家族に対し、明確なイメージを持ってもらえるPR方法の工夫と、その徹底は必要である。また、継続的課題として「子育て相

談」や子育て家族同士のコミュニティ形成に繋がるような場の提供へも取り組んでいかなければならないと思われる。

参加している子どもの年齢構成をみると、2009年度までは、1歳・2歳児の参加が最も多く、2010年度では3歳児の参加が、2011年度では2歳児の参加人数が最も多く、2012年度では1歳児がやや多く3・2歳児とほぼ同じ率で続く。（表5）（図1）

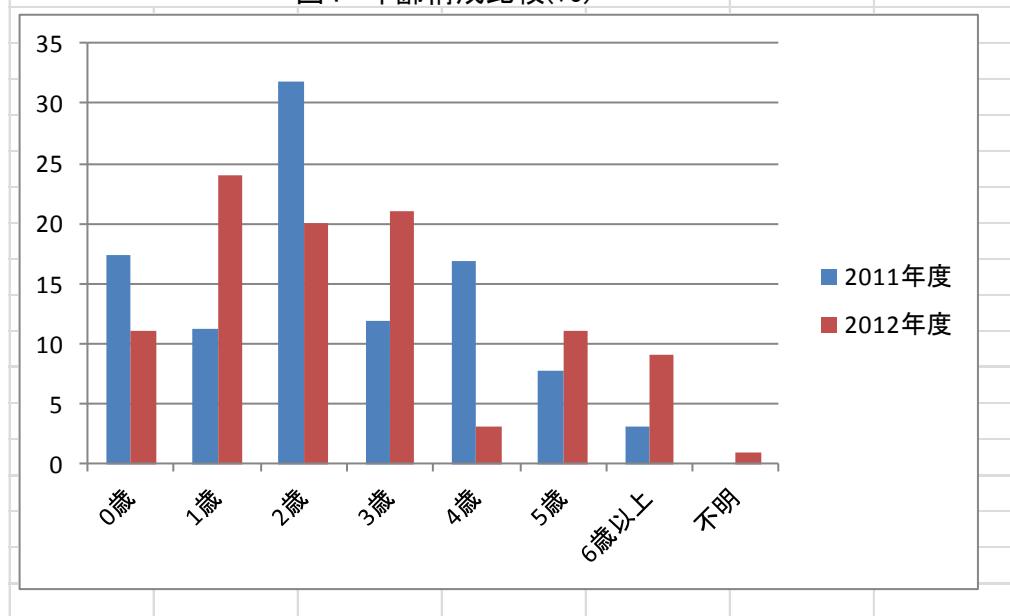
表5 参加している子どもの年齢

年齢	実数(%)						
	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
0歳	49(17.4)	44(11.0)	33(7.5)	20(6.3)	22(10.1)	34(17.4)	31(11)
1歳	79(28.1)	120(30.0)	129(29.3)	64(20.3)	21(9.6)	22(11.3)	65(24)
2歳	74(26.3)	94(23.5)	96(21.8)	80(25.3)	39(17.9)	62(31.8)	56(20)
3歳	38(13.5)	63(15.8)	61(13.8)	50(15.8)	72(33.0)	23(11.8)	58(21)
4歳	19(6.8)	47(11.8)	33(7.5)	31(9.8)	34(15.6)	33(16.9)	8(3)
5歳	9(3.2)	19(4.8)	53(12.0)	16(5.1)	8(3.7)	15(7.7)	30(11)
6歳以上	9(3.2)	10(2.5)	27(6.1)	53(16.8)	22(10.1)	6(3.1)	25(9)
不明	4(1.4)	3(0.8)	9(2.0)	2(0.6)	0(0.0)	0(0.0)	1(0.0)
合計	281	400	441	316	218	195	274

※クリスマスコンサートの一般参加者は除いてある



図1 年齢構成比較(%)



CDCの子育てひろば（施設開放）の利用者には育児休暇中の親子の存在もあり、それらの参加者が「はっぴい」にも参加することで子どもの年齢が低くなる傾向を生じさせていると思われる。

子どもの年齢が低くなると、遊び、活動への興味や集中が違ってくる。学生が実践的に取り組む

お楽しみの時間の絵本の読み聞かせなどには、技術は拙いもののその一生懸命さに親子で引き込まれて楽しむ応答的な関係が現れた。一方、絵本に興味を持たずにお気に入りの遊具で遊びたい子ども、自分の興味に強いこだわりを持つ子どももあり、個々への対応も課題の一つである。

開催場所が学内外ともにC D Cとして定着してきたといえるが、今後の発展を目指してプログラムの流れや形態が、参加者の年齢、構成にどのような影響をあたえているのか、今後の新たな利用者獲得に向けたP R活動への取組みと、利用者の意識を満足させる運営とプログラムについて検討していくかなければならないであろう。

(3) 学生の状況

2012年5月から2013年3月までの「はっぴい」学生ボランティア参加者の概要は表6の通りである。

表6ボランティア参加者の内訳(人)												
	2012年度										合計	平均
	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目	9回目	10回目		
	5月19日	6月16日	7月14日	9月15日	10月13日	11月17日	12月8日	1月12日	2月16日	3月9日		
1年生	25	31	24	12	14	22	23	12	0	13	176	93%
2年生	0	2	3	1	1	2	2	0	3	0	14	7%
計	25	33	27	13	15	24	25	12	3	13	190	

在学生に対する「はっぴい」活動の周知は、まず入学後に実施される新入生研修会において、パワーポイントを使用して紹介し、ボランティア募集の告知を行った。また、2012年度は参加希望者に対して説明会を開催し、年間を通した継続的な参加を期待して、年度当初に通年での登録制とした。ボランティアを希望する学生は各自の参加可能な回を選択し、申し込むようになっている。学生の主な役割は、開催前日(金曜日4時限目終了後)に行われる準備作業、当日の子どもの遊び相手(安全確保を含む)とお楽しみの時間、おやつの準備と配膳、終了後の片付け作業である。

現在、本学の実習体制は、2年生前期(4月～9月)に3回の実習を行うことになっており、2012年度の2年生の参加状況を見ると、実習期間との関係もあり参加者は少ない。しかし、1年生の2月実習期間においては入学前教育の高校生をリードして「はっぴい」の進行を担った。

なお、次年度入学決定者に案内を送り、参加希望日を調査して12月から3月までの4回、高校生の受け入れを行った。12月のクリスマスコンサートには希望者全員。参加した高校生には学生の手作りカードをプレゼントした。1月からの3回は各回12名までの受入数を限って希望者を割振り受け入れた。

1年生においては、5月(1回目)から25人の参加となった。多人数の参加となり、室内と室外に人数を分けてそれぞれ分担させるなどの配慮を行い対処した。オープンキャンパス、プレカレッジや入学前教育と合わせて開催された「はっぴい」に触れ、ぜひ参加してみたいとの希望を持つ学生が多く登録したと思われる。実際、意識も高く積極的で好ましい態度が見られた。その後も比較的コンスタントに参加している。

また、実習教育の一環として、8月から9月にかけて各自でボランティア活動に取り組むよう指導している。その影響から、毎年9月に「はっぴい」でのボランティアを希望する学生が多くなる傾向があった。しかし2012年度は年度当初での継続的な参加を意図した登録制としたため、9月のみの申し込みは受け付けなかった。多様なボランティア体験も必要であり、この期間に他のボランティア活動に参加する者も多く、「はっぴい」については9月の人数は減少している。

参加する学生には、授業での積極的な働きかけの他、お楽しみの時間での実演を促し、プログラムにも出来るだけ学生による発表の場を設けるようにしている。2012年度では、授業で作成した人形劇の上演、絵本の読み聞かせ、パネルシアター等が披露された。12月のクリスマスコンサートでは、ハンドベル・聖歌隊の演奏、聖書物語のペーパーサート、クリスマス物語絵本の映像に合わせた読み聞かせ、サンタクロースとトナカイの扮装、司会進行も学生が担当した。

毎回「はっぴい」開催当日は、すべてのプログラム終了後、参加した学生の学びをより深めるよう、参加学生と担当の教職員による自由な意見交換を行っている。参加して感じたこと、自己評価など、自分だけでなく、他の学生や教職員の考え、意見を聞き、自由なディスカッションを行うことで、参加したことによる学びを深く掘り下げることが出来、今後の学び、活動に活かせている。しかし、今年度は参加者が多く、限られた時間内での確保が難しくなってきた。そこで学生のペアトークの試みや、「振り返りシート」の作成の導入で「はっぴい」で継続的に出会う子どもとの関係をより意識して関わることを期待した。

2. 参加保護者の意識

(1) アンケート調査から

クリスマスコンサートに参加した者のうち、「はっぴい」への登録者に当日アンケートを行ない回答を19名から得た。質問および主な回答は次の通りである。(無回答以外)

① 何でこの「はっぴい」を知りましたか

- ・地域広報誌から 9人 (48%)
- ・友人知人から 7人 (37%)

② 家族構成について 2-1~4

2-1 1家庭の子ども数1人 8人 (42%)

1家庭の子ども数2人 11人(58%)

2-2 参加子ども年齢

0歳 5人 (17%)	1歳 5人 (17%)	2歳 8人 (27%)	3歳 7人 (23%)
4歳 1人 (3%)	5歳 1人 (3%)	6歳 3人 (10%)	

2-3 母親 20代3人 (16%) 30代13人 (68%) 40代2人 (11%)

2-4 母親有職 8人 (42%) 無職 10人 (53%)

③ 参加回数について

3-1 「はっぴい」 参加回数

初回 6人 (32%)	1年未満複数回 7人 (36%)	1年以上 6人 (32%)
-------------	------------------	---------------

3-2 他所の子育て支援へ

参加あり 6 人 (32%) なし 8 人 (42%)

④自由記述

4-1 お子さんが「はっぴい」で遊ぶ様子について

4-2 学生の参加について

(2) 保護者による学生評価

アンケート質問④の回答について、回答者を複数回の参加者と初回の参加者で分けたところ、初回参加者は全員が好ましい印象を記述した感想となっている。複数回参加者では学生への励ましを含めての記述がある

記述された内容は次の 3 点に分類できる。(回答は原文のまま)

①おおむね良い印象を持って学生の子どもとのかかわり、子どもの学生への反応を記述している。

10 人 (うち初回 4 人=△印)

○子ども達と仲良く遊んでくれるのでうれしいです。

○声をかけてもらい、子どももうれしそうです。

○子どもは若いお兄さん、お姉さんが好きだと思うのでとてもいいと思う。

○若い人が子どもと遊んでくれてうれしい。

○ほほえましいです。良い人達ばかりで親子ともに大好きです。

○とても良いです。対応も良く、一人でいる子を見つけるとすぐよって来てくれ、また声をかけてくれるので、子どもがポツンとする事なくあそびができる事だと思います。みなさん子どもにとても慣れていて、色々な人と接しられる機会としても、参加する側としては、とても感謝しています。ありがとうございました。

△積極的に声をかけてくれた。

△初めて参加しましたが、たくさんの方がいて交流できてよいと思います。

△若い方と交流がもてるのは親にとっても子ども達にとってもいいと思います。

△子ども達は若いお姉さんが大好きなので、喜んで遊んでいます。がんばってください。

②更に、学生自身の経験を深めるための学びであることを理解して言及している。4 人

○毎回、たくさんの学生さんが積極的にコミュニケーションをとってくれて、子ども達も学生さんもとてもいい機会になっているのではないでしょうか。たくさんの学生さんがこれを機会に社会人として立派に成長していくことを期待しています。

○実地の場で学べるのは学生にとってもとても良い環境だと思います。親の目から見ても大変助かっています。

○この先の自分のためにもなるので、色々と積極的に(泣いていても)かかわって欲しいです。

○もっと積極的に子ども達の中へ入ってきて欲しいです。

③保護者自身のリフレッシュになる。2 人

○ニコニコとやさしく対応してくださいます。親がつきつきりでなくても良いので、リフレッシュにもなります。

○赤ちゃんを抱っこしてもらえて親の手が空き、上の子の面倒がみられたりしてとってもありが

たいです。

(3) 保護者アンケートから読み取れるもの

今日、各学校は地域に開かれた学校として期待されている。本学でも物理的に施設開放を行い、地域との協力関係は各方面で行ってきた。しかし本学でも授業のために集まる学生が地域住民と接する場は限られてくる。

学生が地域の大人と接する体験の場は地域社会の一員としての自覚の形成が促され、人と人が交流することは親しさの形成、信頼関係の構築に繋がる。学生へのあたたかな見守りの感情など、地域の共同体としての存在の確立、地域とともにある学校という意義が再確認される。このアンケート的回答から参加保護者たちは学生が学びながらこの活動に参加していることを理解していることがわかる。そして若い子育て世代の保護者は自分より若年の学生たちに人生の先輩としての意識で彼らを受けとめようとする。子育て支援の対象者がこの場では学生の成長を支援する側になっている。ささやかな出会いの中にあっても、それが保護者に自信を与えていた。その体験は親としての安定感や胆力を呼び起こさせるきっかけになる。

3. 学生の記録から変容を読み取る

1. 学生スタッフの増加による変化

今年度になり、学年によってプログラムへの参加人数の違いが大きい傾向が現れた。2年生の参加者が限られるのは、実習期間及びそれへの準備期間と子育て支援プログラムの開催日程が重なっていることが理由と考えられる。次年度も実習期間の変更は無いので、同様な傾向が予想される。また、1年生に関しては、入学前教育（高校3年時の12月から3月に4回開催）の日程と子育て支援プログラムの開催日程を合わせてきたことにより関心が高まったためか、参加予約をする学生数が大幅に増えている。

なお、今年度参加している2年生は、1年時に継続参加していた学生である。次年度の実習時期の変更は無いので、2年生については同様の傾向であろうが、今年度継続参加した1年生が増えている分、次年度の参加者は増えることが予想される。今年度の入学前教育も子育て支援プログラムの開催日程と連動させているので、入学予定高校生のプログラムへの参加希望も増えている。1年生の実習時期と重なる2月のプログラムからは高校生が本格的に参加することとしており、次年度の1年生のプログラム参加者数は更に増えることが予想される。

一方で、参加人数が増えることにより、これまでプログラムの最後に参加学生による振り返りにおいて、参加してみての感想や気づきを一人一人が述べる時間を取りることが難しくなっている。学生のペアトークを基本にファシリテーターの教員がコメントを聞き出す形に変更した他、9月のプログラムからは「振り返りシート」を作成し、ペアトークの後にシートに記入する方式を導入した。

本章では、のべ50枚（9月～12月、4回開催）の学生による「振り返りシート」の記述内容から、学生の変容を読み取ることを試みたい。

2. 振り返りシートの内容

振り返りシートの記入欄は、以下の構成となっている。

開催日	子どもの名前・年齢・性別
	振り返りについて、次の視点で記入
①今日のプログラムで楽しんだこと	
②お気に入りの遊びやおもちゃなどについて	
③「おや？どうしてだろう？」と思ったこと	



参加学生が、個別の子どもとの関わりの中で、①「私と相手との関係の様子」を記述し、②「相手を理解するための手掛かりとなるもの」を探し、③「相手の意図をどう読み取ったか」「私が関わったこと、判断したことの根拠は何だったか」を意識することにつなげたいと考え、上述の①から③の視点を設定した。

回収した9月～12月の全4回のべ50枚の振り返りシートの内訳は以下である。

- (1) 1年生（46枚） 2年生（4枚）
- (2) この期間での3回以上参加、1年生（4名） 2年生（1名）

3. 記述されたコメントの内容

複数回参加している学生のうち、3回以上参加した1年生4名の記述内容を抜粋して以下に記す。

学生A

②お気に入りの遊びやおもちゃなどについて	
9	Hくん（？歳男児）
月	牛乳パックで作ったカエル
10	Rちゃん（5歳女児）
月	紙芝居や絵本の読み聞かせ
11	Kちゃん（4歳女児）
月	遊具よりも走り回ったりする遊びに興味がある様子でした。
12	Iちゃん（1歳女児）
月	初めて参加された方。 お母さんと少しお話をし、ミニカーが好きと聞いた。ミニカーやミニカーの載っているパズルを手に取って遊んでいた。まだ、1歳1ヶ月ということで、パズルをはめることはできないけれど、好きなおもちゃ（ミニカー）をおもちゃ箱から取り出し投げて遊んでいた。

学生B

③ 「おや？どうしてだろう？」と思ったこと	
9 月	Kくん（2歳男児） 台所に立って調理するのがすごく楽しそうだったので、なぜそんなに好きなんだろうと不思議でした。お母さんと話していたら最近料理している姿をじっと見ているようで、お母さんの姿を見て興味があるのかな、と思いました。
10 月	Aくん（1歳10ヶ月男児） 私がいろいろはたらきかけても、あまり笑うことはなかったのですが、帰る時、他の男の子とすごく楽しそうにボールで遊んでいました。お母さんに聞いたら、少し上のお兄さんお姉さんが好きなようです。兄弟がいないようなので、遊んでくれるのが嬉しいのかなと思いました。
11 月	Kくん（1歳男児） 私は、あの筒でどのように遊ぶのか想像がつかなかったのですが、自分で押したり、他の子がまたがっているのを見て、それをまねしているのが印象的でした。でも、他の子が筒で遊ぼうとするといやがって引っ張っている姿を見て、まだ誰かと一緒に遊ぶのは難しいのかなと思いました。

学生C

①今日のプログラムで楽しんだこと	
9 月	Hちゃん（5歳女児） 三輪車で遊ぶことが多かった。スロープを登っていた。その後スロープを下って遊んでいた。 三輪車で木のまわりをRちゃんやHくんと一緒に回ったりして遊んでいた。)
10 月	Hくん（5歳男児） 芋掘り。一番最初に畑の中に入ったり、行く時にもRちゃんと先頭を切って進んでいました。手をつなぐのも「Rちゃんと一緒！」みたいに楽しく会話しながら歩いていました。芋の蔓をつかみ、一生懸命引っぱり楽しそうでした。芋がとれると笑顔で「とれた！」と見せてくれました。
11 月	Rちゃん（5歳女児） Hくんと一緒にずっと遊んでいた。ボールを使ってバスケットゴールに入れようと2人で遊んでいた。そして丸まったマットに乗って何をするのかと思っていたら、大砲に見立てて遊んでいた。

学生D

③「おや?どうしてだろう?」と思ったこと	
9 月	Rちゃん（?歳女児） 折り紙を折っていたので、私が真似て一緒に折ってみた、考えながら折っていた。お絵描きも一緒にした。カエルをつなげたものに興味をもっていた。ボール作りはやりたいと言っていたので、作った。
10 月	Kちゃん（?歳女児） お芋掘りをしている時に、たくさん話をした。ボランティアで一緒に遊んだことがあって、その時のことを憶えていてくれたみたいでした。最初はニコニコしながらお母さんの後ろに隠れてしまったりしていましたが、お芋掘りの時に「いっぱいほれた?」と聞くと「ほれたー」と返してくれた。「またね」と帰る時に言ったら「うん」と言ってくれた。
11 月	Nちゃん（6歳女児） 逆上がりが途中まで上がっていたので、「もう一度やって」と言ったらやってくれたので、授業でやったことを挑戦してみたらできたのが感動しました。あと、平均台とかの時に、前にちょっとゆっくりの子がいた時にちゃんと順番を守っていました、抜かされても静かに行っていたのが、あ、すごいなと思いました。
12 月	Dくん（3歳男児） 女の子がおままごとの洗い場の所に立っていて、その近くに行った時、女の子がD君の頭をバシバシたたいていた。お母さんがいたので話しかけることができなかった。理由はわからなかった。

4. 記述内容比較の考察

学生A

学生Aによる「お気に入りの遊びやおもちゃなどについて」の記述は、時期が進むにつれて豊かな記述となっていることがわかる。4、5歳児よりその意図を捉えにくく、1歳児とのかかわりが、記述をより豊かにすることにつながったのではないだろうか。

学生B

学生Bによる「おや?どうしてだろう?」の記述は、全て1~2歳児とのかかわりである。言葉でのかかわりは難しくても、子どもの様子を詳しく捉えようとする姿勢を読み取ることができる。また、保護者との会話の中から自分の読み取りの判断材料を得ている様子もうかがえる。

学生C

学生Cによる「今日のプログラムで楽しんだこと」の記述内容からは、関わった相手の子どもは毎回参加しており、互いに友達関係のある5歳児であることわかる。そのため、記述内容も、個を対象としながらも子ども同士の関係性もとらえている。時期が進むにつれ、行動の記述に加えて、心情面の読み取り、遊びのイメージの読み取りと記述内容も豊かになっていることがわかる。

学生D

学生Dによる記述は、前半2回については視点を分けた記述ではなかった。他の3名の記述に比べやや稚拙な文章表現でもあり、視点を意識して記述することよりも、子どもの行動をそのまま記述することで精一杯だったのであろう。しかし、後半2回については、③の視点を意識して書き始めており、記述内容としても、子どもの様子にプラスして、そこで関わった、あるいは関われなかつた私の様子を書くようになったという変化を読み取ることができる。

5. 今後の課題

継続して参加している学生による「振り返りシート」の記述内容からは、参加回数が増えることにより記述自体が豊かになっており、さらには、保護者との会話から得た情報を加味するなど、自分の関わり方を決定する方略自体が豊かになっていることも読み取ることができた。また、1～2歳児とのかかわりが、子どもの姿をより詳しく捉えようとすることにつながっていることもわかった。

今後は、このような記述の変容から読み取れたことをどのようにして参加学生にフィードバックしていくかが課題である。

4. まとめ

子育てひろば「はっぴい」は、親子が一緒に自由にくつろいで過ごせる気軽に参加できる場を提供し、親子の要望も時折探りつつ、地域への貢献を図ろうとしている。しかしながら、保育者養成校が行う「子育てひろば」事業としては、単なる場の開放やニーズに応えるサービス事業に留まらず、親子双方の成長に必要なことを可能な限り共有できるよう、保育支援者を含め、専任スタッフと共に具体的な配慮を積極的に示すようにしている。子育てを文化として、今の時代に必要な事柄や行為と共に捉え直していく具体的な取り組みこそ、地域の子育て支援を柱にしたセンター的機能であるのではないかろうか。これらの模索の過程もまた、担当教員（保育支援者を含め）にとっての福祉・保育・教育学における学び直しの機会となっている。さらに保育学生の成長もまたこの事業の大きな柱であり、保護者と共に「保育学生」を育てる使命も担っていることから、地域・親子・学生・教員（学校）の相互的な育ちの場となっている。

これらは例えば、学生スタッフと共に、提供する支援環境やその整備、製作・絵本や劇などの保育教材の選択から展開まで、打ち合わせや事前の練習を繰り返し、学生に体得させる経過が実際の親子との活動に繋がっている背景を含めて理解される。学生たちが授業・講義で習得したもの、他の保育現場で習得したものも含まれるが、それらを単純に活動へと横滑りさせるのではなく、季節感や年齢配慮など「保育現場の基本」として必要な観点を提示しながら、注意深く選別し、指導し、展開するようにしている。これらの背景は、利用者の目には見えないものでありながら、アンケートの記述にも記されているとおり、「滲み出る質」に共感は得られているのであり、まだ未熟な学生の保育行為に、快い眼差しや応援する温かな雰囲気を保護者が醸し出されてきており、見えないものに目を注ぐ双方の育ちに一役買っている。

一方で学生に「もう少し積極的に子ども（我が子）に関わってほしい」との記述も寄せられている。自信の無さや遠慮、乳児に関わることへの不安などから学生が積極性に欠ける部分もあるが、保護者にとっても学生に対する遠慮や自らの子育て行為に対する自信の無さがあることも事実である。ここ

に子育てをめぐる双方の心的な課題の萌芽を見る。

そこで今年度、7月からであるが、これまでのシール状の名札をやめ、手作りの名札を子どもに付ける取り組みが始まっている。初参加と継続参加が一目で学生にも理解できるような工夫が加わり、さらに支援活動後、子どもの実名を使用した想起記録を学生が記述するようにしている。そのことによって、学生は子どもの名前を覚え、時間の経過の中で子どもの育ちを捉えようとする眼差しが芽生えてきていることが今回の調査の中で確認することができた。そこから垣間見えるのは、子どもを匿名で捉えるのではなく、実名で捉えて記述に残すことで、次の活動の精神的な準備となるという、まさに保育現場における保育と実践サイクルの「省察」の意味とその実際の一端を学生に体現させていることに繋がる。支援活動を重ねる度に学生が「実名」で子どもの名を呼びながら挨拶して迎え、前回の様子など交えながら保護者とも挨拶を交わしつつ迎えている様子が自然に見られるようになっている。また保護者さえ忘れていた前回の我が子の姿を実名で話す学生に親近感を覚えながら接している場面も多くみられ、まさに保護者の求める「もっと積極的」な子どもへの関わりは、昨年まで課題、検討してきた「専任教員や支援者によるプロモートを求める学生や保護者の関係の構築」に一役買ったことを示している。

また担当する保育支援者や専任教員にとっても、一般的な保育所・幼稚園の場とは異なり、親子のかかわりを目の当たりにしながら、支援の方略を企てることは、従来の福祉・保育・教育学における学知に拡がりをもたせてくれ、授業・講義内容への還元材料ともなっている。

ここで、これら2012年度の成果を鑑みる中で、地域・親子・学生・教員（学校）の相互的な育ちの場における根本的課題を論じる。地域との相互的課題は機会を別に譲るとし、親子・学生の相互的な育ちをサポートする立場から透かして見えてくる課題を、1.「守り育てる」自信と愛着の課題、2.愛着形成と快楽原理の拮抗の2点から捉えることを試みる。なぜならこれらの点においては、子育てる保護者と学生、双方の共通した課題として見えるからであり、今後の支援の方略の基盤概念となると思われるからである。

養成校における子育て支援の役割として、前述したように主に親子・学生・教員（保育支援者を含む）が協働する中で、「子育て」を軸に親だけでなく、「子どもを育てる」ことを文化的な現象として刺激し合い、育ちあう関係へと構築し、特に大人である保護者・学生・教員が「子ども」を通じて、「生き直す」喜び、関わり合う中で愛着を深め、子どもを通じて多彩で実りある人生を醸し出す生涯発達的視点を回復させていくことが急務ではないかと考える。

和泉短期大学が子育て支援プログラムを開始し、7年が経った。その間、開催場所の新設やプログラムの持ち方、学生の関わり方など、子育て支援プログラム運営委員会の担当者は議論しながら保育者養成校として行う意味を確認し続けてきた。それと同時に、地域社会での子育て支援への要望や期待も大きくなってきた。

これまでの取組みから、地域の子育て親子との関係が学生に有意義な実践体験の場になっていることが再度、確認された。今後は学内での環境整備を初め、子ども・子育て行政の展開にも応じられる活動への可能性を視野に置き、保育者養成の質の向上に資するような子育てひろば「はっぴい」の充実が必要であると考え報告とする。

専攻科委員会活動報告（2012年度）

【概要】

委員会は11回開催した。活動内容は専攻科のみならず児童福祉学科に関する内容も議題になるなど幅広く、多岐に亘っていた。

今年度から介護職員の質の向上をめざし、介護福祉士国家試験筆記対策講座を実施した。なぜなら、2015年度から国家試験の対象となる介護福祉士養成校の学生にも試験対策が必要になるため、早々に教員も準備にとりかかることになるとともに、地域で働く介護職員の介護福祉士の資格取得に貢献することになると考えた。

【組織】

専攻科委員会構成委員：武石宣子教授（教務部長）、佐久間志保子専任講師（介護福祉専攻主任）

山本正司助教、佐藤美紀助教

【活動内容】

1 授業の充実を図る

(1) 専攻科教務

①入学者

3期生21名（男性1名）は全員、和泉短期大学の卒業生である。

②児童福祉学科との科目間の連携

〔専攻科科目〕

- 「キリスト教社会倫理」 学長 伊藤忠彦
- 「自立に向けた居住環境」 教授 鈴木敏彦（児童福祉学科）
- 「終末期の介護」 教授 鈴木敏彦（児童福祉学科）
- 「障がいの基本的理解」 准教授 横川剛毅（児童福祉学科）
- 「社会福祉総合演習」 准教授 平田美智子（児童福祉学科）

〔児童福祉学科科目〕

- 「子どもの保健Ⅱ」 専任講師 佐久間志保子（専攻科）
- 「介護福祉」 助教 山本正司（専攻科）

③グループミーティング

グループミーティングの時間を有効に活用するため、日程と内容を明記しキャリア・ファイルに自主的に取り組むことを説明した。キャリア・ファイルの取組みでは生活・介護・生活支援技術・キャリアデザインに関する領域のいずれにも「実現できている」「重要だと思う」と大多数の学生が肯定的に評価していた。また、2013年3月14日（木）感謝礼拝後にベストオブC F表彰式があり、専攻科では井原輝さんに与えられた。また、グループアドバイザーによる進路相談の場としても活用した。

【グループミーティングの日程と内容】

回数	日程	内容
1	4月 9日	1. 7月3日(火)かながわ高齢者福祉研究大会について 2. キャリア・ファイル「専シート1」の点検 3. 進路等について
2	4月 16日	1. キャリア・ファイル「専シート1」「履修カルテ」の点検
3	4月 23日	2. ワーク1・2・3・4の記入の進捗確認
4	5月 14日	1. キャリア・ファイル「専シート1」の点検・履修カルテ記入が終了
5	5月 21日	2. 進路について、個人面接開始 3. その他
6	5月 28日	1. 進路について、個人面接 2. ワークシート1～4の提出終了期間
7	6月 4日	1. 進路について、個人面接 2. キャリア・ファイル「専シート2」の記入開始 3. ワークシート5・6の記入開始
8	6月 25日	1. キャリア・ファイル「専シート2」の記入終了 2. ワークシート5～6の記入終了
9	7月 2日	キャリア・ファイルの点検等
10	7月 9日	カルテ診断記入（学んだこと・さらに努力すべきこと）
11	7月 16日	*学生が自主的に実施
12	7月 23日	1. 進路の説明 2. キャリア・ファイルを最終点検
13	9月 3日	後期の履修カルテ記入・進路相談
14	9月 10日	後期の履修カルテ記入 終了
15	9月 24日	進路相談等
16	10月 1日	シート専3・ワーク7の記入
17	10月 15日	進路相談等・ワーク8の記入（授業で実施）
18	10月 22日	シート専3記入 終了
19	12月 10日	進路相談等・ワーク9の記入
20	1月 21日	進路相談等・後期のカルテ診断記入
21	1月 28日	後期のカルテ診断記入 終了

(2) 介護実習

①見学実習

4月 23日(月) 介護老人福祉施設「はあとびあ」 14時40分～16時10分

事前・事後学習指導・引率 佐藤(美)教員

5月 15日(火) 介護老人保健施設「青葉の郷」 14時40分～16時10分

事前学習指導 山本(正)教員 引率と事後学習指導 佐久間教員

5月 16日(水) 障害者施設「さがみ緑風園」 13時～14時30分

事前・事後学習指導 佐藤(美)教員 引率は佐藤、山本、佐久間教員

10月 1日(月) 介護老人福祉施設「ハートフルガーデン川和」 13時～16時10分

事前・事後学習指導・引率 佐藤(美)教員

10月 25日(木) 障害者支援センター「松が丘園」 9時～10時30分

事前・事後学習指導・引率 佐久間教員

②実習 I (施設)

期間：6月11日（月）～19日（火）のうち6日間

実習先：14施設（介護老人福祉施設12 介護老人保健施設2）

巡回指導施設 佐藤（美）教員 5施設 巡回数 2 (担当学生7名)

山本（正）教員 5施設 巡回数 2 (担当学生8名)

佐久間 教員 4施設 巡回数 2 (担当学生6名)

[訪問介護実習]

期間：11月5日（月）～12月8日（土）のうち2日間

実習先：8訪問介護事業所

巡回指導施設 佐藤（美）教員 2施設 巡回数 2 (担当学生9名)

山本（正）教員 2施設 巡回数 2 (担当学生3名)

佐久間 教員 4施設 巡回数 4 (担当学生9名)

③実習 II (施設)

期間：11月5日（月）～12月8日（土）のうち20日間

実習先：13施設（介護老人福祉施設12 介護老人保健施設1）

巡回指導施設 佐藤（美）教員 4施設 巡回数16回 (担当学生7名)

山本（正）教員 5施設 巡回数20回 (担当学生7名)

佐久間 教員 4施設 巡回数16回 (担当学生7名)

帰校日：11月20日（火）2限

*学生の実習の成果物として事例研究集を作成し、実習施設に送付

*介護老人福祉施設「もも」と「泉心荘」は実習Iのみの受け入れであったが、実習IIの条件を満たしているため、実習IIの施設に追加

④専攻科実習連絡会

9月11日（火）第2回実習連絡会 14時～16時 5201教室

参加者：高齢者施設（障害者施設含め）17ヶ所、訪問介護事業所 1ヶ所 18名出席

内容：実習IIの内容、学生への介護技術の教授法を紹介

⑤実習指導者養成教育（介護福祉士）における見学実習

9月26日（水）、10月17日（水）「介護総合演習II」3限

神奈川県立保健福祉大学実践教育センターの実習生3名と引率教員1名が実習指導の授業見学

⑥児童福祉学科実習

[実習巡回]

・5月 7日（月）～26日（土） 幼実習 佐久間教員3施設

・6月18日（月）～7月 2日（月） 施・幼実習 佐久間教員2施設

・9月18日（火）～10月 3日（水） 保・施実習 山本（正）教員3施設 佐藤（美）
3施設 佐久間教員4施設

・2013年2月12日（火）～27日（水） 保実習 山本（正）教員4施設 佐藤（美） 4施
設 佐久間教員4施設

[実習連絡会]

- ・4月25日（水）幼稚園実習連絡会 15時～17時30分 小田急センチュリーホテル
山本（正） 佐藤（美） 佐久間
- ・2013年1月23日（水）保育所実習連絡会 15時～17時30分 小田急センチュリーホテル
山本（正） 佐藤（美） 佐久間はそれぞれ記録担当

(3) 進路支援

①7月3日（火）第11回かながわ高齢者福祉研究大会（パシフィコ横浜）9時30分～17時
19名の学生参加（2名欠席）引率 山本（正）教員

②進路指導

7月16日グループミーティング時に進路説明を配布し説明

8月31日後期オリエンテーション時にも進路説明を実施

③10月22日（月）11時30分～12時 「高齢者施設での介護福祉士の働き方」
介護老人福祉施設 敬愛の園 介護職 上田言恵さん（専攻科1期生）

④2012年度の進路状況

介護老人福祉施設	11名	保育所（公立1名含む）	8名	幼稚園	2名
----------	-----	-------------	----	-----	----

(4) 卒業時共通試験

開催日時 2013年2月13日（水）9時30分～14時

試験内容等は以下の通り、全員合格。専攻科科目「人間の尊厳と自立」「社会の理解」「発達と老化の理解」「こころとからだのしくみ」の教科の点数が少ないのが課題である。

時間	科目	試験監督
9時30分～11時00分 <90分 51問>	【人間と社会】 人間の尊厳と自立 5問 社会の理解 8問 人間関係とコミュニケーション 3問 【こころとからだのしくみ】 発達と老化の理解 6問 認知症の理解 8問 障害の理解 6問 こころとからだのしくみ 15問	9時30分～10時 佐久間 10時～11時 佐藤（美）
11時00分～12時00分	休憩	
12時00分～14時00分 <120分 69問>	【介護】 介護の基本 20問 コミュニケーション技術 7問 生活支援技術 24問 介護過程 6問 総合問題 12問	12時～13時00分 佐藤（美） 13時00分～14時 佐久間

(5) 特別講演

開催日時：10月25日（木）13時～14時30分（5201教室）

講師等：神奈川県歯科衛生士会 副会長 中川律子先生「口腔ケア」

開催日時：2013年1月21日（月）13時～14時30分

講師等：ライフプランカウンセラー 鈴木 啓三先生「これからの10年間を考える」

2 同窓生への対応

7月31日（火）和泉短期大学第3回夏期リカレント講座（2012年度）において、専攻科では「介護技術」のワークショップを開講したが、参加0名であった。今後の課題として卒業生との交流の場の検討を継続していきたい。

3 現場で働く介護福祉士の支援

(1) 第10回介護技術講習会

①事前打ち合わせ 6月22日（金）9時30分～13時 5号館

講師：佐藤美紀、中村順子、小川マサ子、本多光江、佐久間志保子

②開催日及び内容 受講者23名（男性5、女性18） 場所：5号館

専攻科学生アルバイト6名（モデル3名、タイムキーパー3名）

総合評価では受講生全員合格した。

開催日時	内容
6月30日（土）9時～19時	介護過程の展開・コミュニケーション技術・衣服の着脱の介護
7月 1日（日）9時～18時	食事の介護・移動の介護
7月 7日（土）9時～18時	排泄の介護・入浴の介護
7月 8日（日）9時～17時	介護過程の展開・総合評価・修了認定

(2) 第1回 介護福祉士国家試験筆記対策講座

入試広報員会と連携し、実施した。また、専攻科教員3名の他、鈴木敏彦教授の協力を得た。

1回～10回延べ受講者は117名であった。今後は広報活動を早期に進め、より多くの参加者をめざす。

〔開催日程等〕

回	日程	時間	科目	講師	受講者数
1	9月15日（土）	1限	こころとからだのしくみ	佐久間	8
2	9月15日（土）	2限	発達と老化の理解	佐久間	8
3	10月13日（土）	3限	介護の基本	鈴木	10
4	10月13日（土）	4限	障がいの理解	佐久間	11
5	11月10日（土）	2限	人間の尊厳と自立	山本（正）	13
6	11月10日（土）	3限	社会の理解	山本（正）	12
7	11月10日（土）	4限	コミュニケーション技術等・介護過程	佐久間	13
8	11月24日（土）	3限	生活支援技術	佐藤（美）	11
9	11月24日（土）	4限	認知症の理解	佐藤（美）	13
10	12月8日（土）	13時～15時	総合問題・受験の心構え	佐久間	18

4 地域の介護職のスキルアップの支援

相模原市高齢者福祉施設協議会からの講師依頼 開催時間：14時～16時30分 会場：5号館

【新任研修】

日 程	講 座 内 容	講 師	受講者数
11月5日（月）	接遇について 一介護の対する介護職員の基本的姿勢一	山本（正）	49
11月12日（月）	移動・移乗技術（1） —要介護者・介護者にとって安全・安楽な技術—	佐藤（美） 佐久間	40
11月26日（月）	移動・移乗技術（2） <u>(1)と同じ内容</u> —要介護者・介護者にとって安全・安楽な技術—	佐藤（美） 佐久間	40

【現任研修】

日 程	講 座 内 容	講 師	受講者数
11月6日（火）	医療的ケアの基礎的知識	佐久間	55
11月19日（月）	移動・移乗技術（1） —要介護者・介護者にとって安全・安楽な技術の応用—	佐藤（美） 佐久間	40
11月20日（火）	スーパービジョン—介護職員の育て方—	山本（正）	52
11月28日（水）	移動・移乗技術（1） —要介護者・介護者にとって安全・安楽な技術の応用—	佐藤（美） 佐久間	33

5 市民大学

テーマ「認知症とケア」

開催時間：10時40分～12時10分 受講生：60名 会場：204教室

11月7日（水）	超高齢社会における生活課題	山本（正）
11月14日（水）	認知症のメカニズム	佐久間
11月21日（水）	認知症高齢者に対するケア実践	佐藤（美）
11月28日（水）	認知症ケア・介護サービスを活用して生活する	山本（正）

6 その他

（1）専攻科入試

①2013年度専攻科入学者 19名

入試形態・日時	合格者	面接教員
i日程10月13日（土）	11名	山本（正）・佐久間
A日程11月3日（土）	2名	山本（正）・佐藤（美）
B日程12月1日（土）	4名	佐久間・佐藤（美）
C日程2013年2月6日（水）	2名	山本（正）・佐久間、
D日程2011年3月7日（水）	0名	

②在学生へ専攻科入試の説明

1回は3月30日（金）新2年生に対する教務オリエンテーションで教務より説明があり、2回7月23日（月）、3回9月10日（月）、4回11月7日（水）の3日間は12時20分～12時50分に説明を実施した。

(2) 出張等

- ①一般社団法人 相模原市高齢者福祉施設協議会 設立記念祝賀会 5月11日（金）
セレナ相模原 17時～19時 出席者 佐藤（美）
- ②平成24年度第1回総会 社団法人日本介護福祉士養成施設協会 5月11日（金）
全社協 瀬尾ホール 13時～15時30分 出席者 佐久間
- ③平成24年度（社）日本介護福祉士養成施設協会 関東信越ブロック教研修会
大宮ソニックシティ 10時～17時 出席者 佐藤（美）
- ④平成24年度日本介護福祉士養成施設 全国教職員研修 11月7日（水）～9日（金）
札幌市・札幌ガーデンパレス 出席者 佐久間
- ⑤平成24年度 第4回実習指導者研修会 2013年3月5日（火）12時～17時
神奈川県社会福祉会館 出席者 山本（正）、佐藤（美）、佐久間
- ⑥神奈川介養協運営委員会 5月22日、7月17日、9月25日、2013年1月29日
神奈川県社会福祉会館 18時～20時 出席者 佐久間

VI. 教員の研究活動

1. 児童福祉学科

杉山佳子 特任教授

I. 社会的活動

1. 2012/05～ 社会福祉法人相模原市社会福祉協議会 理事
2. 2012/06/28 新潟県保育士会 パワーアップセミナー講師
3. 2012/09/23 全国社会福祉協議会 主任保育士特別講座講師

長山篤子 特任教授

I. 社会的活動

1. キリスト教保育連盟理事長として地方問安
2. 北陸部会、東海部会講演その他
3. 保護者向け月刊誌の連載執筆

II. 学会、研修会出席

1. 日本保育学会
2. 思いやり研究会
3. キリスト教保育連盟北陸部会夏期研修会、地域研修会、保育者協議会、全国園長主任研修会、保育者セミナー

武石宣子 教授

I. 社会的活動

1. 1992/08～ ネイチャーゲームリーダー（日本ネイチャーゲーム協会公認）
2. 2000/08～ 「苦情解決」制度における第三者委員（社会福祉法人さがみ愛育会）
3. 2004/10～2013/03 和泉短期大学ALO(Accreditation Liaison Officer)
4. 2005/03～ 普及審判員「チャレンジ・ザ・ゲーム」（神奈川県レクリエーション協会公認）
5. 2007/03～ レクリエーション・インストラクター（日本レクリエーション協会公認）
6. 2008/06～2013/03 評議員（学校法人クラーク学園＜和泉短期大学・和泉福祉専門学校＞）
7. 2009/08～ おもちゃインストラクター（日本グッド・トイ委員会公認）
8. 2010/04～ 相模原市母子保健推進協議会委員
9. 2011/04～ 光が丘街づくり会議委員
10. 2012/04～ 相模原市歯科保健事業懇談会委員
11. 2012/07～2013/03 相模原市民間保育所整備に係る運営法人選考委員会委員長
12. 2012/09～2013/01 保育士試験実技試験採点委員（全国保育士養成協議会）

II. 研究業績（著書・論文等）

[論文]『身体表現を通した音楽理解の可能性—身体的オーケストラ化を中心に—』(単独)

和泉短期大学研究紀要 第33号 2013/03 9頁

[その他](報告書) 文部科学省学生支援推進プログラム(2009年度～2010年度) 選定事業『学

生と卒業生による学びの循環の場「和泉コミュニティ」の形成』(共同) 和泉短期大学 2012/10/15 21頁

III. 研究業績 (招待講演)

1. 2012/05/31 『親子で楽しむリトミック①』<公開保育>(単独)相模原私立和泉保育園主催 (於:和泉保育園)
2. 2012/06/14 『親子のふれあい遊びと子育てを楽しむポイント - 1回目 -』<地域の親子対象の公開講座> (単独) 相模原市立ひよこ保育園主催 (於:ひよこ保育園講堂)
3. 2012/07/31 『夏期リカレント講座—子どものリトミック③—プラスティック・アニメの技法を学ぶ—』(単独) 和泉短期大学主催 (於:和泉短期大学リトミック室)
4. 2012/10/11 『親子のふれあい遊びと子育てを楽しむポイント - 2回目 -』<地域の親子対象の公開講座> (単独) 相模原市立ひよこ保育園主催 (於:ひよこ保育園講堂)
5. 2013/01/17 『親子で楽しむリトミック②』<公開保育>(単独)相模原私立和泉保育園主催 (於:和泉保育園)
6. 2013/01/19 『子育て講座』<公開講座>(単独)相模原私立友愛保育園主催 (於:友愛保育園)
7. 2013/02/14 『親子のふれあい遊びと子育てを楽しむポイント - 3回目 -』<地域の親子対象の公開講座> (単独) 相模原市立ひよこ保育園主催 (於:ひよこ保育園講堂)

参加学会・研究大会等

1. 2012/06/22～06/23 『日本キリスト教社会福祉学会愛53回大会』<参加> (於:和泉短期大学)
2. 2012/07/15～07/20 『ISME(国際音楽教育会議ギリシャ大会)』<参加> (於:ギリシャ・テサロニケ音楽ホール)
3. 2012/09/05～09/06 『平成24年度全国保育士養成セミナー』<参加>全国保育士養成協議会 (於:京都文京短期大学・京都文京大学)
4. 2013/01/26 『全国保育士養成協議会平成24年度関東ブロック協議会セミナー』<参加> (於:全国保育士養成協議会会議室<高田馬場>)

佐 藤 守 男 教授

I. 社会的活動

1. 2010/06～2012/05 学校法人クラーク学園評議員
2. 2012/07/31 和泉短期大学第3回夏季リカレント講座
3. 2012/08/10 相模原市幼稚園等新人教員研修会の講師 場所:相模原市立あじさい会館

II. 研究実績 (著書・論文等)

[展覧会図録]

1. 小さな彫刻展 (2013/01/10～1/19) 『美じょん新報』2013/2/20 第161号 (株) ビジョン

III. 研究業績（学会発表）

[団体展・グループ展他]

1. 2012/07/18～07/29 第36回キリスト教美術展（日本キリスト教教団銀座教会 東京福音会センター）
2. 2013/01/10～01/19 開廊47周年記念 彫刻小品展（みゆき画廊：銀座）

井狩芳子教授

I. 社会的活動

1. 1985/04～ 子どものからだと心連絡会議 全国委員・運営委員 *～1996：事務局長
2. 2002/03～ 東京都八王子市ファミリーサポート研修会講師
3. 2006/06～ 神奈川県相模原市男女共同参画課審議会諮問委員
4. 2008/06～ 神奈川県相模原市男女共同参画課審議会会长
5. 2010/04～ 相模原市立男女共同参画推進センター（ソレイユさがみ）サポート委員
6. 2010/04～ NPO法人 セルフケア総合研究所 理事
7. 2010/05～ 幼少年体育指導士（日本発育発達学会認定資格）認定講座実行委員
8. 2012/02/01～ 社会福祉法人 歩育の会 理事

II. 研究業績（著書・論文等）

[論文]

1. 「母親が感じる育児上の『困難』に関する研究」（5）-幼稚園と保育園における調査から-」（共同）2013/4/

III. 研究業績（学会発表）

1. 2012/05/05 幼児の心身の健康に関する研究（第12報）（日本保育学会第65回大会（共同））
2. 2012/05/05 幼児の心身の健康に関する研究（第13報）（日本保育学会第65回大会（共同））
3. 2012/09 母親が感じる育児上の「困難」に関する研究（第59回日本小児保健学会（共同））

鈴木敏彦教授

I. 社会的活動

1. 2004年度～ 相模原市社会福祉事業団 第三者委員
3. 2007年度～ 相模原市社会福祉協議会 第三者委員
4. 2008年度～ 社会福祉法人試行会 理事兼評議員
5. 2009年度～ 相模原市社会福祉協議会 権利擁護事業委員会 委員長
6. 2009年度～ 相模原市社会福祉協議会 監事
7. 2010年度～ 社団法人日本社会福祉士会 権利擁護事業委員会 委員
(厚生労働省 障害者虐待防止・権利擁護指導者養成研修 講師)
8. 2010年度～ 相模原市 総合計画審議会 委員
9. 2010年度～ 大和市 障がい者福祉計画審議会 会長
10. 2010年度～ 大和市 社会福祉審議会 委員
11. 2010年度～ かながわ保育研究会 第三者委員
12. 2010年度～ 川崎市 福祉サービス第三者評価事業推進委員会 委員

13. 2011年度～ 神奈川県 障害者地域自立支援協議会権利擁護部会 副部会長
14. 2011年度～ 横浜市社会福祉協議会 研修委員会 副委員長
15. 2012年度～ 相模原市 高齢者・障害者虐待等対応専門家チーム 委員
16. 2012年度～ 川崎市障害福祉施設事業協会 権利擁護推進委員会 アドバイザー
17. 2012年度～ 世田谷区 障害者虐待防止連絡会 委員
18. 2012年度～ 公益財団法人日本人事試験研究センター 作問委員（社会福祉学）
19. 2012年度～ 横浜市 障害者施策推進協議会 障害者施策検討部会 委員
- (講師等)
1. 神奈川県社会福祉協議会「新任研修」講師（「福祉の動向と福祉従事者としての心構え」「権利擁護の理解と福祉従事者の役割」）
 2. 全国社会福祉協議会「社会福祉主事資格認定通信課程」講師（社会福祉援助技術演習、「社会福祉の価値と倫理」）
 3. 神奈川県社会福祉協議会「日常生活自立支援事業初任者研修」講師（「記録の意義と視点」）
 4. 社会福祉法人育桜福祉会「管理者・サービス管理責任者研修」講師（「障害者虐待防止法と障がい者支援の方向性」）
 5. 群馬県社会福祉協議会「福祉施設等新任職員研修」講師（「社会福祉の動向について：福祉サービスの理念と動向」「新任職員に求められるもの：基本的役割」）
 6. 群馬県社会福祉協議会「福祉施設等中堅職員研修」講師（「福祉サービスの理念と動向・中堅職員に求められる基本的役割」）
 7. 厚生労働省「平成24年度 障害者虐待防止・権利擁護指導者養成研修」講師（「障害者虐待と権利擁護」「研修プログラムの構築に向けて」）
 8. 神奈川県「平成24年度 障害者相談支援従事者養成研修・サービス管理責任者補足研修」講師（「相談支援における権利擁護と虐待防止」）
 9. 横浜市社会福祉協議会「新任職員研修（新卒者コース、社会人経験者コース）」講師（「社会福祉の専門性・利用者主体の支援」）
 10. 横浜市知的障害関係施設協議会 「障害者虐待防止法と権利擁護確立を考える研修会」講師（「障がい者の権利と障害者虐待防止法」「障害者虐待防止法と障がい者支援の方向性」）
 11. 川崎市「障害者虐待防止法対応研修（共通研修）」講師（「障害者虐待の実態と権利擁護」）
 12. 川崎市「障害者虐待防止法対応研修（管理者研修）」講師（「障害者虐待の防止・対応における管理者の役割」）
 13. 川崎市「障害者虐待防止法対応研修（従事者研修）」講師（「障害者虐待の防止・対応における従事者の役割」）
 14. 社会福祉法人かながわ共同会「中堅職員研修」講師（「障害者虐待防止法と障害者福祉施設の役割」）
 15. 長崎県「平成24年度 障害者虐待防止・権利擁護研修」講師（「障害者虐待と権利擁護」、「障害者虐待防止と施設・支援者の役割」）

16. 世田谷区「障害者虐待防止フォーラム・パネルディスカッション “障害者を虐待から守るために”」パネリスト（「障害者虐待防止と権利擁護」）
17. 香川県「平成 24 年度 障害者虐待防止・権利擁護研修」講師（「障害者虐待防止と施設・支援者の役割」）
18. 川崎市社会福祉事業団 川崎市北部リハビリテーションセンター「職員研修会」講師（「障害者虐待防止法と障がい者支援の方向性」）
19. 茅ヶ崎市障害者団体連絡会「障害者虐待防止法勉強会」講師（「障害者虐待防止法について」）
20. 湘南あゆみ会・平塚市障がい者団体連合会「研修会」講師（「ノーマライゼーションの理念とこれからの障がい児者福祉」）
21. 相模原市「平成 24 年度 障害者虐待防止・権利擁護研修」講師（「障害者虐待とその実態」）
22. 財団法人生活保健協会ニューライフ湯河原「平成 24 年度身体拘束廃止推進モデル施設地域事業研修会」講師（「身体拘束のないケアをめざして(part 2)」）
23. 社会福祉法人横浜やまびこの里「職員研修会」講師（「障害者虐待防止法と障がい者支援の方向性」）
24. 神奈川県「平成 24 年度 障害者虐待防止・権利擁護研修」講師（「地域でのネットワークの構築にむけて」）
25. 川崎市社会福祉協議会「社協職員課題別研修」講師（「障害者虐待の防止と早期発見」）
26. 秦野市「平成 24 年度 秦野市障害者虐待予防講演会」講師（「みんなで知ろう！ 障害者虐待防止法」）
27. 特定非営利活動法人わーかーびーー／社会福祉法人えぽっく「職員研修会」講師（「障害者虐待防止法と障がい者支援の方向性」）
28. 福井県社会福祉協議会「福祉サービス利用援助事業生活支援員研修会」講師（「地域における自立生活を支えるために：気づきの視点と支援に活かす記録」「日常生活自立支援事業と成年後見制度」）
29. 福井県デイサービスセンター協議会「デイサービスセンター職員スキルアップ研修」講師（「デイサービスセンターにおける支援プロセスと記録」）
30. やまゆり知的障害児者生活サポート協会「支援者支援会議」講師（「障がい当事者の意思決定支援を考える」）
31. 相模原市子育て支援者フォーラム「交流会」講師（「地域の子育て支援者のネットワークの発展に向けて：もしも、子育て支援者がドラッカーを読んだら」）
32. 神奈川県「平成 24 年度神奈川県介護相談員等現任研修」講師（「介護相談員の役割について：権利擁護の視点から」）
33. 社会福祉法人宝安寺社会事業部「職員研修会」講師（「障害者虐待防止法と障がい者支援の方向性」）
34. 川崎市社会福祉事業団 川崎市北部リハビリテーションセンター「職員研修会」講師
「ヒヤリ・ハット（インシデント）事例からみた利用者の権利擁護」
35. 千葉県知的障害者福祉協会「入所更生施設部会施設長・職員研修会」講師（「障害者虐待防止法と障がい者支援の方向性」）

36. 神奈川県社会福祉協議会「日常生活自立支援事業生活支援員現任者研修」講師（「記録のスキル向上をめざして」）
37. 社会福祉法人和枝福祉会「職員研修会」講師（「障害者虐待防止法と障がい者支援の方向性」）
38. 本人の会ブルースカイ「勉強会」講師（「障害者虐待防止法を学ぼう」）
39. 神奈川県「平成24年度 県西障害保健福祉圏域相談支援等ネットワーク形成事業 権利擁護ネットワーク研修」講 師（「虐待予防・発見にも『ほう・れん・そう』」）
40. 神奈川県社会福祉協議会「マネジャー研修」講師（「福祉サービスの質の向上を目指したマネジメント：社会福祉法人の役割と使命」）
41. 一般社団法人日本社会福祉士養成施設協会「社会福祉士国家試験対策講座」講師（「権利擁護と成年後見制度」）
42. 社会福祉法人智泉会 はあとぴあ「職員研修会」講師（「高齢者介護と権利擁護：支援者に求められるもの」）
43. 長崎県身体障害児者施設協議会「役職員研修会」講師（「障害者虐待防止法の施行を機会に利用者支援を考える」）
44. 世田谷区「障害者福祉施設従事者向け 障害者虐待防止・対応研修会」講師（「障害者虐待防止法と施設・支援者の役割：権利擁護の視点から」）
45. 一般財団法人日本老人福祉財団 湯河原ゆうゆうの里「職員研修会」講師（「高齢者の権利擁護と介護者の役割：虐待・身体拘束ゼロにむけて」）
46. 社会福祉法人試行会 青葉メゾン「職員研修会」講師（「障害者虐待防止法と障がい者支援の方向性」）
47. 社会福祉法人白根学園「職員研修会」講師（「障害者の権利擁護と障害者虐待防止法」）
48. 川崎市障がい者相談支援専門協会「研修会」講師（「障がいのある当事者、家族として知っておくべきこととは？：地域で暮らす障がいのある人を護るために法を学ぶ」）
49. 社会福祉法人相模原市社会福祉事業団 第三陽光園「職員研修会」講師（「障がい当事者の意思決定支援を考える」）
50. 横浜市グループホーム連絡会「入居者部会研修会」講師（「障害者虐待防止法を学ぼう」）
51. 神奈川県社会福祉協議会「施設部会研修会」講師（「社会福祉施設の権利擁護と専門性：“利用者本位”との関係を踏まえて」）
52. 社会福祉法人湘南の凧「障害者虐待防止・権利擁護研修」講師「障がい者虐待のない地域をつくるために：障害者虐待防止法を学ぶ」
53. 神奈川県「地域福祉担当職員研修（現任者編）」講師（「相談窓口の連携のしくみづくりについて」）
54. 神奈川県身体障害者連合会 神奈川県障害者社会参加推進センター「研修会」講師（「障がい者虐待をなくすために：障害者虐待防止法を学ぶ」）
55. 神奈川県立さがみ緑風園「人権擁護研修会」講師（「人権に配慮した利用者支援について：障害者虐待防止法施行をうけて」）
56. 社会福祉法人光友会「職員研修会」講師（「障害支援施設における虐待ゼロへの取組み」）
57. 社会福祉法人野田芽吹会 野田芽吹学園「職員研修会」講師（「何故、障害者施設で

虐待は起きるのか」)

II. 研究業績（著書・論文等）

1. 【論文】「障害者虐待の防止：養護者への支援のあり方・施設のあり方」（単著）、『実践成年後見』（第43号）、民事法研究会、2012年10月
2. 【論文】「貧困ビジネスを排除する活動をとおしてみた簡易宿泊所街：大阪市、二つの名前を持つ『釜ヶ崎』『あいりん地区』の現状と課題」（共著）、『和泉短期大学紀要』（第33号）2013/03
3. [その他]（年鑑）『世界の社会福祉年鑑2012』（共著・分担執筆）、旬報社、2012/11

櫻井 奈津子 教授

I. 社会的活動

1. 2010/04～ 相模原市社会福祉審議会児童部会 部会長
2. 2010/04～ 相模原市社会福祉審議会児童虐待検証部会 委員（職務代理者）
3. 2010/04～ 相模原市社会福祉審議会児童福祉専門分科会 委員
4. 2011/05～ 社会福祉法人あすはの会 在宅福祉部みしょう 第三者委員
5. 2011/06～ 社会福祉法人恩師財団神奈川同胞援護会 母子生活支援施設グリーンヒル相模原 第三者委員

II. 研究業績（著書・論文）

1. [著書]『保育と児童家庭福祉』（編集）2012/10/01, みらい
2. [著書]『子どもの権利擁護と里親家庭・施設づくり』（共著）「コラム パーマネンシープランニング」2012/03/25, 明石書店
3. [論文]「家庭的養護の実現に向けてー里親・ファミリーホームへの委託の促進のためにー」（単独）（財団法人鉄道弘済会 社会福祉研究第114号）2012/07/01
4. [論文]「これからの中親委託と中親支援機関のあり方・方向性」（単独）（明石書店里親と子ども vol.7）2012/10/01

III. 研究業績（招待講演）

1. 2012/06/25 神奈川県社会福祉士会相模原支部研修「働きながら子を育てる～子育てに必要な親の役割～」講師
2. 2012/07/17 東京都里親研修 課題別研修「真実告知」 講師
3. 2012/10/02 東京都社会福祉協議会児童部会里親制度支援委員会学習会「東京における里親支援のあり方」講師
4. 2012/11/24 淑徳大学社会福祉学会テーマ報告「家庭的養護の実現に向けて」 講師
5. 2013/01/29 関東地区児童家庭支援センター協議会里親研修会「里親養育を支えるワーカーの役割」講師・パネルディスカッションコーディネーター
6. 2013/02/23 NPO法人神奈川フォスターケアサポートプロジェクト研修会「子どもの自立を考えるー生きる力を引き出す関わりー」 講師

横川 剛毅 准教授

I. 社会的活動

1. 2004/04/01～ 県央東地区オンブズパーソンネットワーク オンブズパーソン

2. 2006/04/01～ 特定非営利活動法人N P Oかむ 理事
4. 2007/04/01～ 社会福祉法人愛の森 愛の森学園第三者委員
5. 2009/04/01～ 社会福祉法人白十字林間学校 評議員
6. 2009/04/01～ 社会福祉法人藤雪会 理事
7. 2009/04/01～ 社会福祉法人日本キリスト教奉仕団 評議員
8. 2011/04/01～ 社団法人社会福祉教育学校連盟 評議員
9. 2011/04/01～ 社団法人社会福祉教育学校連盟 広報委員会委員
10. 2012/04/01～ 日本バプテスト連盟ふじみキリスト教会 執事
11. 2012/05/25 全国社会福祉協議会社会福祉主事資格認定通信課程面接授業 講師
12. 2012/10/27～ 社会福祉法人白十字林間学校 理事
13. 2012/11/13 社会福祉法人あいの木研修会 講師
14. 2013/01/26 相模原市障害児者団体連合会研修会 講師
15. 2013/03/23 社会福祉法人白十字林間学校新入職員研修 講師

矢 野 由佳子 准教授

I. 社会的活動

1. 2012/05/29, 06/12, 07/17, 07/31 町田市公立保育園職員グループワーク研修会
講師
2. 2012/07/11, 18, 25 相模原市市民大学 講師

II. 研究業績（著書・論文）

1. [著書]『実践 発達心理学ワークブック 第Ⅰ部コラム 親となること』(共同・編者)
2013/03/29
2. [著書]『実践 発達心理学ワークブック 第Ⅱ部-2 知的発達』(共同・編者) 2013/03/29
3. [著書]『実践 発達心理学ワークブック 第Ⅱ部-3 学習理論』(共同・編者) 2013/03
4. [論文]『養成校における子育て支援－学生と参加親子との実践的関係の場として－』
(共同) 2013/03/31

III. 研究業績（学会発表）

1. 2012/11/11 『保育短大生のメンタルヘルスの推移及び学校満足感との関連』(日本
学校保健学会第59回大会 (共同))

平 田 美智子 准教授

I. 社会的活動

1. 2006～ 「養子と里親を考える会」理事・事務局長
2. 2007～ 社団法人 日本社会福祉士会 理事・国際委員会委員長
3. 2008～ 国際ソーシャルワーカー連盟 (IFSW) アジア太平洋地域 役員(会計)
4. 2007～ NPO 法人グリーンママ 理事・専門相談員
5. 2009～ 座間市地域包括支援センター運営協議会及び地域密着型サービス運営
委員会委員 (学識経験者)
6. 2013/01/13 社団法人日本社会福祉士会 「滞日外国人支援セミナー」講師「多文化ソーシャルワークと専門職団体」

II. 研究業績（著書・論文）

1. [著書]『保育と児童家庭福祉』（共著）2012/10
2. [著書]『世界のソーシャルワーカー』（共著）2012/10
3. [論文]「子育てサークルへのニーズと期待—地域子育て支援拠点等における母親へのアンケート調査—」『和泉短期大学研究紀要』（単著）2013/03
4. [その他]報告 「政策科学総合研究—被虐待児を養育する里親家庭の民間の治療支援機関の研究」（共著）（平成24年度厚生科学研究）2013/03

III. 研究業績（招待講演）

1. 「子育て支援協力者養成講座」講演「子育て支援とは」NPO法人相模原 保育サポート ポッポくらぶ 2012/11/01
2. 「平成24年度里親のスキルアップ研修会」講演「特別養子縁組について」静岡県東部 児童相談所 2013/03/07

IV. 研究業績（学会発表）

1. 「子育て中の親の仲間づくり—子育てサークルへの参加に関する調査より一」（単独、ポスター発表）日本保育学会（東京家政大学）2012/5/5
2. 「ソーシャルワーカーの資格国際比較」（単独）日本社会福祉士学会（岡山コンベンションセンター）2012/06/03
3. “The Collaboration of disaster management of social workers in Japan—the Great East Japan Earthquake—”（共同、ポスター発表）World Conference on Social Work and Social Development（スウェーデン）2012/07/11
4. 「里親支援機関事業の実施状況—平成23年度全国の自治体へのアンケート調査より」（共同）日本社会福祉学会（関西学院大学）2012/10/21

山 本 美貴子 准教授

I. 社会的活動

1. 2013/02/05 綾瀬市つぼみ保育園 園内研修会、研修テーマ「音楽と生活」講師

大 下 聖 治 准教授

I. 社会的活動

1. 2004/04～ N P O法人 世界健康・スポーツ振興協会 理事
2. 2009/04～ ハイテク・リサーチ・センター整備事業「e-ケア型社会システム形成」調査担当
3. 2012/08 相模原市幼稚園等新任教員研修会講師
4. 2012/07・2013/01 海老名市保育士会研修会講師

II. 研究業績（著書・論文）

1. [論文]「保育者養成校が行う子育て支援プログラムの展開—学生の参加ニーズを捉えて—」（共同）2012/03
2. [論文]「運動学習にICT教育を活用する試み—合成映像指導法の有効性について—」（共同）2012/03
3. [論文]「養成校における子育て支援—学生と参加親子との実践的関係の場として—」

(共同) 2013/03

4. [論文] 「運動の指導技術習得に関する研究(その2)－後方回転運動における課題について－」(単独) 2013/03

III. 研究業績 (学会発表)

1. 2012/08 運動の再現性に効果的な映像学習の開発－2画面動画同時再生を利用した動作学習の可能性－(日本体育学会第63回大会(共同))
2. 2012/09 高齢者を対象にした歩行用ストックを使うウォーキングエクササイズの心理的効果(第67回日本体力医学会大会(共同))
3. 2012/10 2画面動画同時再生が可能なPCソフトによる運動動作学習の効果と利便性(第71回日本公衆衛生学会総会(共同))

松浦 浩樹 准教授

I. 社会的活動

1. 2008～ キリスト教保育連盟 カリキュラム委員長、保育研究委員会所属
2. 2005/04～ 思いやり研究会 研究員
3. 2006～ 学校法人 雲柱社 松沢幼稚園 評議員
4. 2006/04～ 子ども保育総合研究所 研究員
5. 2008/09～ 青山保育研究会 会員
6. 2008～ 荒川区保育園指定管理者選定審査(認証保育所認定、兼任)委員会委員
7. 2009/04～ 和泉短期大学子育て支援プログラム委員・子育てサロン「はっぴい」企画運営
8. 2009～ 私立幼稚園教諭 教員免許更新講習講師
9. 2013～ 荒川区子育て支援部保育課 保育所指定管理者更新審査委員会委員

II. 研究業績 (著書・論文)

[著書]

1. 『保育方法・指導法』(共同) 2012/04

[論文]

1. 「キリスト教保育・教育の場における『使命感』の育成について
—ゆとり教育実施に伴う勤労意識の変化を捉えて—」(単) 2013/3
2. 「養成校における子育て支援－学生と参加親子との実践的関係の場として－」(共同) 2013/03

[その他]

1. 月刊誌『キリスト教保育』カリキュラム解説シリーズ「実践を読んで」(単独) 2012/04
2. 月刊誌『キリスト教保育』月主題解説シリーズ「心にとめて」(単独) 2012/7・2012/12

III. 研究業績 (招待講演)

1. 2012/06 キリスト教教育学会 分科会座長
2. 2012/11 「保育を見つめる」相模原市保育士研修会 講師

<キリスト教保育関連>

1. 2012/05 「キリスト教保育のこれから」 キリスト教保育連盟埼玉地区会新任研修講師
2. 2012/06 「キリスト教保育の展望」(2日間) キリスト教保育連盟北海道部会研修

3. 2012/11 「家族共同参画としての子育て」 東京・あけぼの幼稚園保護者会講師
4. 2013/01 「キリスト教保育の展望」 キリスト教保育連盟・千葉地区研修会講師
5. 2013/01 「家族共同参画としての子育て」 埼玉・麗和幼稚園保護者会講師

IV. 研究業績（学会発表）

1. 2012/05 思いやりの育ちにおける相互的かかわり－思いやりが育つ保育－(座長含む) 日本保育学会第65回大会
2. 2012/05 子どもの思いと保育者の意図－保育者の気付きと省察－ 日本保育学会第65回大会

片山知子准教授

I. 社会的活動

1. 2008/04～ キリスト教保育連盟編集委員
2. 2011/05～ キリスト教保育連盟常任理事、講習会委員会（委員長）
3. 2011/10～ 相模原市次世代育成支援行動計画推進会議委員（副会長）
4. 2012/02/13 横浜市中区地域子育て拠点のんびりんこ研修会講師
5. 2012/08/09 神奈川県相模原市幼稚園協会 教員免許状更新講習講師
6. 2012/08/07 キリスト教保育連盟北海道部会新任研修会講師

II. 研究業績（著書・論文）

1. [著書]保育者論（共著）2012/10/01
2. [論文]「森の幼稚園」試論－北欧から学ぶわが国の幼稚園への可能性－（共同）
2012/02/29
3. [論文]養成校における子育て支援－学生と参加親子との実践的関係の場として－（共同）2013/03/15
4. [論文]幼稚園及び保育所の園庭に関する研究－1.樹木調査から－（共同）2013/03/15

III. 研究業績（学会発表）

1. 2012/10/05 子育ち、子育ての原点とキリスト教保育（原町田幼稚園保護者会講演会（単独））

相馬靖明准教授

I. 社会的活動

1. 2006/04/01～ 子どもと保育総合研究所所員

II. 研究業績（著書・論文等）

1. [論文]『養成校における子育て支援－学生と参加親子との実践的関係の場として』（共同）
『和泉短期大学研究紀要第33号 2013/03』

III. 研究業績（招待講演）

1. 2012/07/11 「幼児期に育みたい言葉の体験」東京都中央区教育会幼稚園部会研修会（単独）
2. 2012/09/05 「激論！これでいいのか日本の保育」第34回全国青年保育者会議愛媛大会（パネルディスカッション）
3. 2012/09/27 「保育所と小学校の連携」日本保育協会幼児期の教育研修会（単独）
4. 2012/11/22 「幼児期に育くみたい言葉の体験」開成町立開成幼稚園公開保育研究協議会（単独）

IV. 研究業績 (学会発表)

1. 2012/05/04 「保幼小連携における交流活動のデザインアートを中心とした活動の特徴から考える」 日本保育学会第 65 回大会ポスター発表 (単独)
2. 2012/09/17 「保育実践記録を他者へと開き伝えることの新たな展開 養成課程での可能性を考える」 日本教育工学会第 28 回全国大会一般研究ポスター発表 (単独)

戸塚 恵子 准教授

I. 社会的活動

1. 2013/3/8 世田谷区障害認定審査会委員 研修会講師

河合 高銳 専任講師

I. 社会的活動

1. 2007/08～ 社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団自閉症カンファレンス日本 サポートスタッフ
2. 2011/10～ 日本人間関係学会 事務局幹事
3. 2011/12～ 日本人間関係学会 支援活動委員会 副委員長 (南三陸町支援 事務局)
4. 2011/12～ 日本人間関係学会 支援活動委員会 南三陸支援
5. 2012/04～ NPO 法人 市共同事業 ぴこみっく 年 7 回
6. 2012/08 国治研 米国ノースカロライナ TEACCH 視察研修 修了
7. 2012/08 子どもと保育総合研究所・子どもと保育実践研究会 ニューズレター夏季研究大会 報告
8. 2012/06 日本人間関係学会 論文査読
9. 2012/09 日本人間関係学会第 20 回大会 大会実行委員
10. 2012/09 日本人間関係学会第 20 回大会 座長
11. 2012/10 神奈川県福祉局福祉・次世代育成部障害福祉課発行 「かざぐるま」 211 号「風」 執筆
12. 2012/11 児童福祉施設福祉サービス第三者評価 評価調査者養成研修会 修了
13. 2013/01 特定非営利活動法人日本ムーブメント教育・療法協会 認定ムーブメント教育・療法中級指導者養成講座中級指導者 報告

II. 研究業績 (著書・論文等)

1. [研究ノート] 「アメリカノースカロライナ州 TEACCH プログラムについて—2012 年視察研修報告ー」 (共同) 2012/03

III. 研究業績 (学会発表)

1. 2012/05 「インクルーシブ保育に関する研究 (5) —保育者意識について—」 日本保育学会第 65 回大会口頭発表 (共同)
2. 2012/05 「畑での野菜づくりにおける障害児との関わり」 日本保育学会第 65 回大会ポスター発表 (共同)
3. 2012/08 「知的障がい幼児の保護者に対するペアレント・トレーニングに関する一考察」 日本自閉症スペクトラム学会第 11 回大会 ポスター発表 (共同)

渡邊瑞穂助教

I. 社会的活動

II. 研究業績（著書・論文等）

2. 専攻科介護福祉専攻

佐久間志保子 専任講師

I. 社会的活動

1. 1998/06/01～神奈川県社会福祉士会 介護支援専門員受験対策講座 講師
2. 1998/10/01～神奈川県社会福祉士会 社会福祉士受験対策講座 講師
3. 2003/08/01～神奈川県社会福祉士会 成年後見活動
4. 2003/12/01～神奈川県社会福祉士会 介護支援専門員受験模擬問題作成（高齢者保健福祉分野）
5. 2006/04/01～日本歯科大学東京短期大学 講師「介護技術論、社会福祉概論」
6. 2006/10/01～相模原市市民大学 講師「高齢者の生活課題他」
7. 2007/03/01～介護福祉士国家試験実地試験委員
8. 2007/04/01～相模原市介護認定審査会委員
9. 2007/05/01～介護技術講習会 主任指導者講師
10. 2008/04/01～神奈川県介護福祉士養成校連絡協議会 神奈川介養協運営委員会委員
11. 2009/10～ 相模原市高齢者福祉施設協議会研修 講師「介護技術」
12. 2010/04/01～社会福祉法人コスモスセンター 理事・評議員
13. 2012/07/25 神奈川県立麻生総合高等学校 講師「社会福祉実習の実技指導」
14. 2012/12/14・2013/01/14 神奈川県社会福祉協議会 平成24年度課題別研修 講師「サービス提供責任者のための時間管理術」
15. 2013/03 座間市地域保健福祉サービス推進委員

II. 研究業績（著書・論文）

[論文]

1. 「災害の感染予防に対する自治体の認識と対応」環境感染誌 Vol. 27 no. 3, 2012 原著（同）2012/03
2. 「成年被後見人の最善の利益」を判断する根拠に関する研究 その3—社会福祉士への聴き取り 26事例の総括— 東海大学健康科学部紀要第17号 2011年 研究ノート・資料 25-31（共同）2012/03
3. 「身体介護の介護技術における研修のあり方」和泉短期大学研究紀要第33号 研究ノート（共同）2013/03

III. 研究業績（学会発表）

1. 2012/10 Differing Infection Prevention Practice & Attitudes Among Staff Groups in Japan Infection Prevention 2012 (リバプール) (共同)

佐藤美紀助教

I. 社会的活動

1. 2004/11/01～ 相模原市教育委員会主催 市民大学講師
2. 2005/07/01～ 介護技術講習会 講師
3. 2008/03/01～ 介護福祉士国家試験 実地試験委員
4. 2008/04/01～ 神奈川県介護福祉士会 代議員
5. 2009/10/01～ 相模原市高齢者福祉施設協議会研修 講師 「移動の技術」「認知症の理解」
6. 2010/04/01～ クラーク学園同窓会「いざみ」幹事
7. 2012/06/02 社会福祉法人 たちばな福祉社会 職員研修 「認知症の理解と介護」
8. 2012/06/30～07/08 介護技術講習会 講師
9. 2012/09/08 倶聴ボランティアの会相模原 フォローアップ研修講師「認知症の方へのコミュニケーション」

II. 研究業績（著書・論文）

[論文]

1. 高齢者施設における移動・移乗技術導入に関する研究—介護職員のインタビュー調査を中心に—（単独） 2013/03/15
2. 身体介護の介護技術における研修のあり方 （共同） 2013/03/15

山 本 正 司 助教

I. 社会的活動

1. 学校法人秋草学園 秋草学園福祉教育専門学校 非常勤講師 担当科目「人間関係論・人権」「生活と福祉」
2. 和泉短期大学ラジオ講座 エフエムさがみ「いきいき長生き」21回シリーズ
「被災地ボランティア活動の紹介」「少子・超高齢社会を迎えて」「高齢者介護の諸問題」「介護保険制度」「介護保険制度の活用方法」「リスナーからの質問」など
13回 テーマ設定して放送
3. 神奈川県立衛生看護専門学校 非常勤講師 担当科目 「社会保障論」

II. 研究業績（著書・論文等）

[著書]

1. 『新・社会福祉論』（共著）学文社 2012/11/30

[論文]

1. 「貧困ビジネスを排除する活動をとおしてみた簡易宿泊所街—大阪市・「釜ヶ崎」「あいりん地区」の現状と課題—」共著 和泉短期大学紀要(第33号) 2013/03
2. 「福祉国家に関する経済学とその関連理論についての覚書—新自由主義社会における日本の選択「第三の道—」单著 和泉短期大学紀要 2013/03/15

[招待講演]

1. 相模原市市民大学講師 2011/11「超高齢化社会における認知症高齢者」「介護サービスを活用して認知症になつても生活を送る」
2. 相模原市高齢者福祉施設協議会 新任研修「接遇・職員としてのマナー」2012/11/05
現任研修「スーパービジョン・介護職員を育成する」2012/11/20

V. 施設・設備・経費

2012(平成24)年度 事業報告 決 算

							(単位:千円)
							予算額
(教員関係経費)							11,973
研究費	児童福祉学科	単価		教員数			5,624
○ 教授	270	×	5		1,350		1,135
○ 特任教授	270	×	3	(学長含む)	810		140
○ 準教授	260	×	8		2,080		861
○ 準教授	260	×	1	新任	260		51
○ 専任教師	250	×	1	新任	250		233
○ 助教	50	×	1		50		51
○ 和泉特別研究費					600		217
○ 大学教育改革推進プログラム					500		0
			19		計	5,900	2,688
専攻科	専攻科	単価		教員数			
○ 専任教師	250	×	1		250		191
○ 専助教	200	×	2		400		187
○ 昇任対象者差額	50	×	1		50		0
○ 和泉特別研究費					200		53
			3		計	900	431
			22名	合計	(6,800)	(3,119)
教材費	○ 専任教員				2,973		2,032
旅費交通費	○ 学会参加	1回@50まで	1人 2回まで	22名	2,200		473
(施設)					97,190		97,501
建物	内 容			設置場所		予算額	決算額
① 空調設備工事(ボイラー暖房設備廃止)	1号館			各教室、部屋	取替更新	96,236	96,235
					計	(96,236)	(96,235)
構築物	○ 芝地グラウンド門扉(引き戸)、農園門扉			取替更新	954		1,266
				計	(954)	(1,266)	
(設備)						7,671	5,666
教育研究用機器備品	③ 出席管理リーダーライター	5		講義教室新規	1,320		1,319
	③ 出席管理リーダーライターLAN教設工事他			新規	403		511
○ マークシートリーダー	1			教育学習支援ユニット取替更新	1,048		0
○ プロジェクター本体	2			301教室、A・2教室取替更新	738		716
				計	(3,509)	(2,546)	
その他の機器備品	② オープン式冷蔵庫他	4		売店新規	1,820		1,820
	② キャンパスコンビニ換気扇設置			売店新規	278		277
○ 出退勤磁気ストライプIDカード書き込み機				庶務ユニット取替更新	225		210
○ 冷蔵庫	1			食堂取替更新	399		0
				計	(2,722)	(2,307)	
図書	○ 児童福祉学科 1,400 専攻科 40				1,440		813
				計	(1,440)	(813)	

2012(平成24)年度 事業報告 決 算

新規等の主な経費	内 容	個 数	場 所		予算額	決算額
実験実習費	○ 実習園謝礼品、巡回、連絡会他				21,250	17,709
	○ 実習園謝礼品、巡回、連絡会他 専攻科				1,255	1,204
				計 (22,505) (18,913)
消耗品費	② 売店変更に係るサイン、及び陳列用ラック他		売 店 新 規	294		293
	③ 出席管理LANケーブル他		教 室 新 規	388		206
	○ 学籍簿電子化		事 務 局 新 規	340		278
	○ 学籍簿電子化 専攻科		事 務 局 新 規	258		205
	○ スチール棚		1 階 倉 庫 取替更新	195		195
	○ アプリケーションソフト検証用パソコン	3台	学 術 情 報 新 規	418		357
	○ 事務局用プリンター(バックアップ用)	3台	学 術 情 報 新 規	230		70
	○ 就業・入室管理システムバージョンアップ料		事 務 局 取替更新	811		0
			計 (2,934) (1,311)	
維持修繕費						
	① 空調機設置時スラブ補修工事他		1 号 館	2,020		2,020
	① 空調機設置時 地下タンク廃止工事		1 号 館	1,144		1,018
	② 売店変更に係る換気扇設備他		売 店	259		0
	③ 出席管理用ソフト基本保守料		教育学習支援ユニット	612		612
	○ ピアノ室外部フード塗装工事		1 号 館	600		600
	○ ポランティアセンター窓口改修		2 号 館	278		278
	○ ホームページ作成、保守料他	スマホ対応		1,280		915
	○ エレベーター機能維持、修繕		4 号 館	911		870
			計 (7,104) (6,313)	
支払報酬手数料	③ 出席管理SBデーター作成費			321		396
	○ 教務データーバックアップ保管料			152		114
	○ 業務システム維持支援業務委託費			1,134		1,134
	○ スクールバス委託運行費	@855.75 × 4台 × 12 M		41,076		41,076
	○ 監査報酬、弁護士報酬、税理士報酬			3,230		3,225
	○ 学校法人格付け継続料			525		525
	○ 食堂委託管理費			2,400		2,400
	○ 管理人業務費、警備、5号館管理			9,847		10,038
			計 (58,685) (58,512)	
賃借料	○ 職員用ノートパソコン、サーバー	25台 + 2台	事務局他	4年リース	594	588
	○ サーバ一年間利用料	ポートフォリオシステム	CDC		1,202	1,202
	○ 防犯カメラシステム一式	本館、研究棟、体育館	カメラ16台、モニター、レコーダー他		1,000	999
	○ 教員用ノートパソコン	@18.4 × 19台	研究室		350	349
	○ コピー機、ファックス	事務局・研究棟	4台		339	339
	○ スクールバス駐車場	研究棟隣地	1,493m ²		2,400	2,400
	○ 借植木				385	385
	○ AEDレンタル	1台	CDC		63	63
	○ 公用車(軽自動車)リース料				358	358
			計 (6,691) (6,683)	
奨学費 (給付)	○ 真鍋記念奨学生	2名	@365(2年生後期授業料)		730	730
	○ 児童福祉奨学生	1年後期、2年(前後期)	@100×1名+@100×5名×2		1,100	900
	○ 卒業生・在学生家族	13名	@50(入学金一部減免)		650	650
	○ 特待生制度入試(成績、修学支援)	5名	(1年生前期授業料)		1,825	1,825
	○ 地震等 災害学生授業料減免	1名	(1年生前期授業料)		365	183
			計 (4,670) (4,288)	

2012(平成24)年度 事業報告 決 算

						(単位:千円)
新規等の主な経費	内 容	場 所	予算額	決算額		
広 報 宣 伝 費	○ 入学案内書、大学広告他		25,509	22,100		
			計 (25,509) (22,100)		
清 掃 費	○ 日常清掃、定期清掃	全 館	12,488	12,506		
			計 (12,488) (12,506)		
光 熱 水 費	○ 電気料金		15,963	13,129		
	○ 水道料金		2,038	2,497		
	○ ガス料金		1,357	1,095		
			計 (19,358) (16,721)		
雜 費	① 既存空調機産廃処理費、フロン回収	1号館	9,378	9,378		
	○ 一般・産業廃棄物処理費		1,015	749		
			計 (10,393) (10,127)		
既存建物撤去費	① ボイラー配管、空調機撤去費他	1号館	8,636	8,635		
			計 (8,636) (8,635)		
	※主な施設設備整備					
	① 1号館空調設備取替更新工事		117,414	117,286		
	② キャンパスコンビニ移行に係る備品増設費他		2,651	2,390		
	③ 出欠席管理システム 5教室設置レコーダー		3,044	3,044		
			計 123,109	122,720		

VI. 財務の概要

資金収支の状況		(2008年度～2012年度)			学校法人 クラーク学園	
					(単位:千円)	
					専攻科に改組	決算
科 目		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
		2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
収入の部	学生生徒等納付金収入	751,880	619,950	665,090	703,100	686,633
	手数料収入	9,371	11,381	11,235	10,921	10,881
	寄付金収入	1,792	368	1,218	2,918	3,948
	補助金収入	54,878	64,248	75,682	60,467	48,297
	資産運用収入	27,328	31,226	23,281	23,367	18,955
	事業収入	2,293	4,764	3,663	2,270	2,544
	雑収入	32,981	26,455	57,627	1,361	23,525
	借入金等収入	0	0	0	0	0
	前受金収入	204,700	256,465	252,015	247,010	249,095
	その他の収入	38,603	50,159	45,413	68,122	13,354
	資金収入調整勘定	△ 260,018	△ 230,165	△ 313,332	△ 252,624	△ 269,616
	前年度繰越支払資金	1,810,450	1,915,378	1,985,845	1,720,743	1,827,567
合計		2,674,258	2,750,229	2,807,737	2,587,655	2,615,183
支出の部	人件費支出	475,228	445,908	459,945	384,867	415,923
	教育研究経費支出	109,887	110,161	123,181	115,902	112,458
	管理経費支出	116,408	97,017	101,640	110,159	109,968
	借入金等利息支出	0	0	0	0	0
	借入金等返済支出	0	0	0	0	0
	施設関係支出	6,835	5,360	5,879	34,134	97,501
	設備関係支出	2,470	12,259	15,809	9,080	5,666
	資産運用支出	35,512	82,210	368,289	103,026	52,885
	その他の支出	16,691	15,525	17,478	16,259	20,097
	予備費支出					
	資金支出調整勘定	△ 4,150	△ 4,056	△ 5,227	△ 13,338	△ 35,926
	次年度繰越支払資金	1,915,377	1,985,845	1,720,743	1,827,566	1,836,611
合計		2,674,258	2,750,229	2,807,737	2,587,655	2,615,183
資金収支差額		104,927	70,467	△ 265,102	106,823	9,044
短期大学学生数		561	487	520	563名	553名
専門学校(専攻科)学生数		88	34	26	26名	21名
前年度対比学生数		△138名	△128名	25名増	43名増	15名減

		消費収支の状況 (2008年度～2012年度)						学校法人 クラーク学園				
								(単位:千円)				
科 目		2008年度		2009年度		2010年度		2011年度				
		金額	構成比率	金額	構成比率	金額	構成比率	金額	構成比率			
消費 収入 の部	帰属 収入	学生生徒等納付金(ア)	751,880	85.4%	619,950	81.7%	665,090	79.4%	703,100	87.4%	686,633	86.4%
		手数料	9,371	1.1%	11,381	1.5%	11,235	1.3%	10,921	1.4%	10,881	1.4%
		寄付金(イ)	2,092	0.2%	368	0.0%	1,218	0.1%	3,418	0.4%	4,013	0.5%
		補助金(ウ)	54,878	6.2%	64,248	8.5%	75,682	9.0%	60,467	7.5%	48,297	6.1%
		資産運用収入	27,328	3.1%	31,226	4.1%	23,281	2.8%	23,367	2.9%	18,955	2.4%
		事業収入	2,293	0.3%	4,764	0.6%	3,663	0.4%	2,270	0.3%	2,544	0.3%
		雑収入	32,981	3.7%	26,455	3.5%	57,627	6.9%	1,361	0.2%	23,525	3.0%
		合計(エ)	880,823	100.0%	758,392	100.0%	837,796	100.0%	804,904	100.0%	794,848	100.0%
	基本 組入額	(オ)	△ 4,776	0.5%	△ 2,713	0.4%	△ 302,088	36.1%	△ 62,424	7.8%	△ 30,858	3.9%
		(第1号基本組入額)	△ 4,771	0.5%	△ 2,610	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
消費 支出 の部	人件費	(キ)	470,039	53.4%	441,065	58.2%	455,330	54.3%	382,590	47.5%	410,831	51.7%
	教育研究経費支出	(ク)	183,759	20.9%	181,538	23.9%	187,174	22.3%	181,298	22.5%	173,612	21.8%
	(減価償却額)		73,873	8.4%	71,376	9.4%	63,993	7.6%	65,397	8.1%	61,077	7.7%
	管理経費支出	(ケ)	123,891	14.1%	104,669	13.8%	108,698	13.0%	115,564	14.4%	116,608	14.7%
	(減価償却額)		7,081	0.8%	6,876	0.9%	6,819	0.8%	6,685	0.8%	6,306	0.8%
	借入金等利息	(コ)	0		0		0		0		0	
	資産処分差額	(サ)	716	0.1%	5,526	0.7%	1,655	0.2%	493	0.1%	7,403	0.9%
	予備費	(シ)										
	消費支出合計	(ス)	778,405	88.4%	732,798	96.6%	752,857	89.9%	679,945	84.5%	708,454	89.1%
	当年度消費収入超過額(カ)一(ス)		97,642		22,881		△ 217,149		62,535		55,536	
資金 取崩額	基本 取崩額	(セ)	2,207		7,866		14,900		13,666		232,071	
	前年度繰越消費収入超過額		1,887,043		1,986,892		2,017,639		1,815,390		1,891,591	
	翌年度繰越消費収入超過額		1,986,892		2,017,639		1,815,390		1,891,591		2,179,198	
	帰属収支差額(エ)一(ス)		102,418	11.6%	25,594	3.4%	84,939	10.1%	124,959	15.5%	86,394	10.9%
資金 剩余額(エ)一(ス)+減価償却費			183,372		103,846		155,751		197,041		153,777	
			※ 構成比率	=	帰属収入に占める割合							

貸借対照表 (2008年度～2012年度)

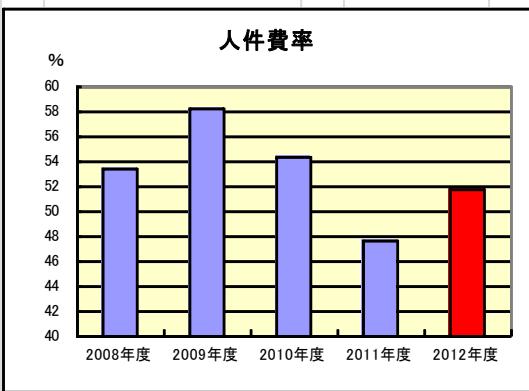
学校法人 クラーク学園

(单位:千円)

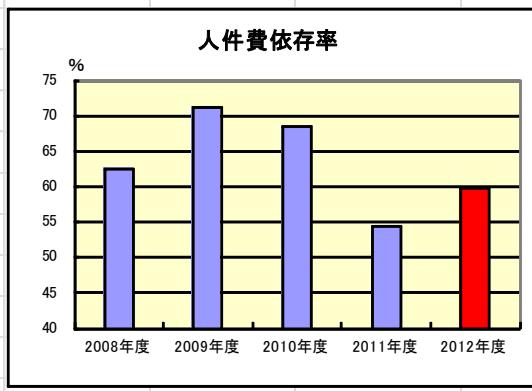
財務比率表（2008年度～2012年度）

学校法人クラーク学園		算式 ($\times 100$)	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	(単位:%) 23年度短大法人 30法人
分類	比率		2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	
貸 借 対 照 表	消費収支差額構成比率	消費収支差額 総資本金	24.4	24.5	21.8	22.4	25.5	-29.9
	基本金比率	基本本金 基本本金要組入額	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	98
	固定比率	固定資産 自己資金	80.3	80.2	83.3	82.9	82.9	93.2
	固定長期適合率	固定資産 自己資金+固定負債	78.2	78.1	81.2	80.8	81.0	86.8
	流动比率	流动資産 流动負債	894.4	738.4	663.5	689.3	638.4	318.5
	前受金保有率	現金・預金 前受金	935.7	774.3	682.8	739.9	737.3	449.7
	総負債比率	総負債 総資産	5.3	5.9	5.7	5.6	5.7	12.1
	負債率	総負債 - 前受金 総資産	2.8	2.7	2.7	2.6	2.8	13.8
	運用資産余裕率	運用資産 - 外部負債 消費支出	5.9	6.4	6.4	7.4	7.1	1.3
	区分分	算式 ($\times 100$)	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	23年度短大法人 30法人
分類	比率		2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	
消 費 收 支 計 算 書	人件費率	人件費 帰属収入	53.4	58.2	54.3	47.5	51.7	57.9
	人件費依存率	人件費 学生生徒等納付金	62.5	71.1	68.5	54.4	59.8	94.5
	教育研究経費比率	教育研究経費 帰属収入	20.9	23.9	22.3	22.5	21.8	25.8
	管理経費比率	管理経費 帰属収入	14.1	13.8	13.0	14.4	14.7	9.8
	消費支出比率	消費支出 帰属収入	88.4	96.6	89.9	84.5	89.1	97.2
	消費収支比率	消費収支 消費支出	88.9	97.0	140.5	91.6	92.7	106.1
	帰属収支差額比率	帰属収入 - 消費支出 帰属収入	11.6	3.4	10.1	15.5	10.9	2.7
	経常経費依存率	経常経費 学生生徒等納付金	103.5	118.2	113.2	96.7	103.2	158.7
	学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 帰属収入	85.4	81.7	79.4	87.4	86.4	61.3
	寄付金比率	寄付金 帰属収入	0.2	0.0	0.1	0.4	0.5	0.9
	補助金比率	補助金 帰属収入	6.2	8.5	9.0	7.5	6.1	27.5
	基本金組入率	基本金組入額 帰属収入	0.5	0.4	36.1	7.8	3.9	8.3
	減価償却費比率	減価償却額 消費支出	10.4	10.7	9.4	10.6	9.5	10.8
理事会・評議員会 2012年度決算		2013年5月25日(土)		参考「今日の私学財政」平成24年度版			2011年度短大法人数 120法人	
							学生数 500人～1000人 30法人	

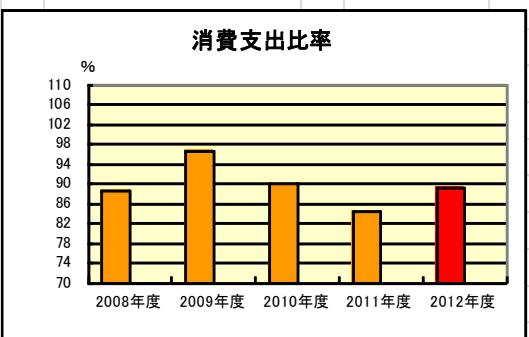
消費収支計算書の財務比率推移（グラフ）と説明



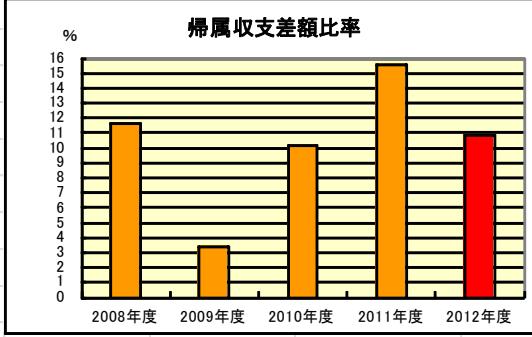
帰属収入に対する人件費の割合です。**50%以内が目安**です。
人件費は、消費支出の中でも最大の比重を占める支出です。
人件費が膨らんでいくと収支状況の悪化を招きやすい。
学生数の減少は比率の上昇を意味するため、人件費削減
対策は、最重要課題です。



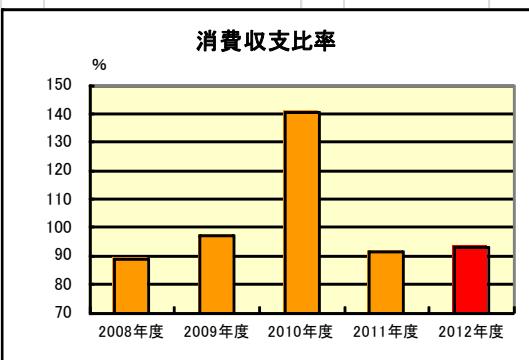
学生生徒等納付金収入に対する人件費の割合。
100%以内が目安です。
人件費は、学生生徒等納付金の範囲内が理想です。
本学園の数値が低いのは、帰属収入に占める学納金の構成
比率が高いためです。



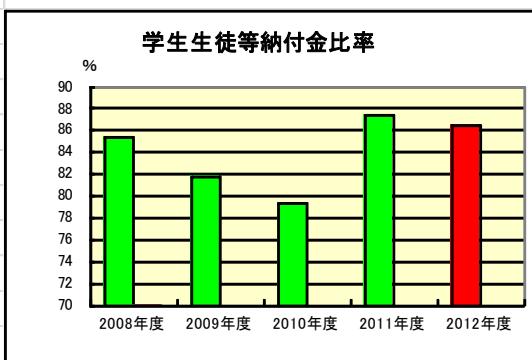
帰属収入に対する消費支出の割合。
学生数の減少が顕著に現れる比率。**目標値は80%**です。
90%以上になると経営が困難になると言われています。
100%以内に抑えないと施設設備の整備が出来なくなります。



帰属収入から消費支出を引いた差額の帰属収入に対する割合。
学園の純利益を表わす、重要な財務比率です。
比率がプラスになると自己資金が充実されていることを意味します。
プラス分から将来の施設設備の取替更新を行います。
マイナスが何年も継続して行くと経営は窮迫し、資金が枯渇します。
10%以上を経営安定の指標としています。
2011、2012年度予算ではマイナスになる厳しい数値になっていましたが
2年とも決算は、短期大学の平均値を大きく上回る数値を確保できました。



消費収入に対する消費支出の割合。
100%以下が目安です。2010年度は、第3号基本金組み入れのため
100%を大きく超えました。しかし、2011年度からは改善されています。
支出超過分が、減価償却額の範囲内であれば、資金繰りで



帰属収入に占める学生生徒等納付金収入の割合。
収入のほとんどを学納金に依存している状態です。
入学者の減少及び退学者は経営に大きく影響します。
学納金に依存する収入構造の改革が急務です。